令和7年6月定例会

浪江町議会会議録

令和7年 6月10日 開会

令和7年 6月17日 閉会

浪江町議会

令和7年浪江町議会6月定例会会議録目次

招集告示	1
応招・不応招議員	2

第 1 号（6月10日）

議事日程	3
出席議員	4
欠席議員	4
地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名	4
職務のため出席した者の職氏名	5
福島県町村議会議長会表彰伝達	6
開会の宣告	6
開議の宣告	6
議事日程の報告	6
会議録署名議員の指名	6
会期の決定	7
諸般の報告	7
行政報告	7
一般質問	15
佐藤勝伸君	16
鈴木幸治君	19
松田孝司君	24
佐々木茂君	38
横字史年君	53
散会の宣告	72

第 2 号（6月11日）

議事日程	73
出席議員	75
欠席議員	75
地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名	75
職務のため出席した者の職氏名	76
開議の宣告	77
議事日程の報告	77
請願・陳情の付託	77
議案第35号から同意第5号の一括上程、説明	77

延会について	107
延会の宣告	107

第 3 号 (6月17日)

議事日程	109
出席議員	111
欠席議員	111
地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名	111
職務のため出席した者の職氏名	112
開議の宣告	113
議事日程の報告	113
議案第35号の質疑、討論、採決	113
議案第36号の質疑、討論、採決	113
議案第37号の質疑、討論、採決	114
議案第38号の質疑、討論、採決	114
議案第39号の質疑、討論、採決	115
議案第40号の質疑、討論、採決	115
議案第41号の質疑、討論、採決	116
議案第42号の質疑、討論、採決	116
議案第43号の質疑、討論、採決	117
議案第44号の質疑、討論、採決	117
議案第45号の質疑、討論、採決	118
議案第46号の質疑、討論、採決	119
議案第47号の質疑、討論、採決	119
議案第48号の質疑、討論、採決	120
議案第49号の質疑、討論、採決	120
議案第50号の質疑、討論、採決	121
議案第51号の質疑、討論、採決	121
議案第52号の質疑、討論、採決	123
議案第53号の質疑、討論、採決	124
議案第54号の質疑、討論、採決	125
議案第55号の質疑、討論、採決	125
議案第56号の質疑、討論、採決	126
報告第1号の質疑	126
報告第2号の質疑	126
報告第3号の質疑	127
報告第4号の質疑	127
同意第2号の質疑、採決	127

同意第3号の質疑、採決	127
同意第4号の質疑、採決	129
同意第5号の質疑、採決	130
浪江町選挙管理委員会委員及び補充員の選挙について	131
請願・陳情審査報告	132
陳情第1号の委員長報告、質疑、討論、採決	132
発議第1号の上程、説明、質疑、討論、採決	133
委員会の閉会中の継続審査又は調査の申し出について	134
町長挨拶	135
閉会の宣告	136

浪江町告示第79号

地方自治法（昭和22年法律第67号）第101条第1項の規定により、令和7年浪江町議会定例会を、次のとおり招集する。

令和7年5月8日

浪江町長 吉田栄光

1 日 時 令和7年6月10日（火） 午前9時

2 場 所 浪江町議会議事堂

○応招・不応招議員

応招議員（12名）

1番	横	字	史	年	君	2番	佐	藤	勝	伸	君
3番	鈴	木	幸	治	君	4番	山	本	幸一	郎	君
5番	紺	野		豊	君	6番	武	藤	晴	男	君
7番	紺	野	則	夫	君	8番	佐々	木		茂	君
9番	佐々	木	勇	治	君	10番	半	谷	正	夫	君
11番	松	田	孝	司	君	12番	平	本	佳	司	君

不応招議員（なし）

6 月 定 例 町 議 会

(第 1 号)

令和7年浪江町議会6月定例会

議 事 日 程（第1号）

令和7年6月10日（火曜日）午前9時開議

- 日程第 1 会議録署名議員の指名
- 日程第 2 会期の決定
- 日程第 3 諸般の報告
- 日程第 4 行政報告
- 日程第 5 一般質問

出席議員（12名）

1 番	横 字 史 年 君	2 番	佐 藤 勝 伸 君
3 番	鈴 木 幸 治 君	4 番	山 本 幸 一 郎 君
5 番	紺 野 豊 君	6 番	武 藤 晴 男 君
7 番	紺 野 則 夫 君	8 番	佐々木 茂 君
9 番	佐々木 勇 治 君	10 番	半 谷 正 夫 君
11 番	松 田 孝 司 君	12 番	平 本 佳 司 君

欠席議員（なし）

地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町	吉 田 栄 光 君	副 町 長	山 本 邦 一 君
副 町 長	成 井 祥 君	教 育 課 長	笠 井 淳 一 君
代 表 監 査 委 員 長	宮 口 勝 美 君	総 務 課 長 兼 選 挙 管 理 委 員 会 書 記 長	戸 浪 義 勝 君
企 画 財 政 課 長	吉 田 厚 志 君	住 民 課 長	柴 野 一 志 君
産 業 振 興 課 長	蒲 原 文 崇 君	農 林 水 産 課 長 兼 農 業 委 員 会 事 務 局 長	大 浦 龍 爾 君
住 宅 水 道 課 長	金 山 信 一 君	建 設 課 長	宮 林 薫 君
市 街 地 整 備 課 長	今 野 裕 仁 君	健 康 保 険 課 長	松 本 幸 夫 君
浪 江 診 療 所 事 務 長 兼 仮 設 津 島 診 療 所 事 務 長	中 野 隆 幸 君	介 護 福 祉 課 長	木 村 順 一 君
会 計 管 理 者 兼 出 納 室 長 兼 津 島 支 所 長	西 健 一 君	教 育 総 務 課 長	鈴 木 清 水 君
生 涯 学 習 課 長 兼 浪 江 町 公 民 館 長 兼 浪 江 町 図 書 館 長	岡 秀 樹 君		

職務のため出席した者の職氏名

事	務	局	長	次	今	野	長	一	君
		中	野				雄		
書			記						
		岡	本						
			ち						
			り						
			君						

○議長（山本幸一郎君） おはようございます。

会議前ではございますが、議会だよりに掲載するため、事務局で会議中の様子を写真撮影しますので、ご了承ください。

また、報道機関から撮影の申出があります。これを許可したいと思っておりますので、ご了承ください。

傍聴される方に申し上げます。

携帯電話をお持ちの方は、電源を切るかマナーモードにするようお願いいたします。

◎福島県町村議会議長会表彰伝達

○議長（山本幸一郎君） 福島県町村議会議長会表彰の伝達を行います。事務局長。

○事務局長（中野夕華子君） 平本佳司議員におかれましては、福島県町村議会議長会副会長を歴任され、退任に当たり感謝状を受けられましたので、議長からの表彰状の伝達を行います。

議長、演壇の前へご移動ください。

平本議員、前へお進みください。

[感謝状の朗読、拍手]

○事務局長（中野夕華子君） 平本議員は自席へ、議長は議長席へお戻りください。

◎開会の宣告

○議長（山本幸一郎君） ただいまの出席議員数は12人であります。

定足数に達しておりますので、令和7年浪江町議会6月定例会を開会いたします。

(午前 9時00分)

◎開議の宣告

○議長（山本幸一郎君） 直ちに本日の会議を開きます。

◎議事日程の報告

○議長（山本幸一郎君） 本日の議事日程は、タブレット端末の格納のとおりです。

◎会議録署名議員の指名

○議長（山本幸一郎君） 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。会議規則第127条の規定により会議録署名議員に、3番、鈴木幸

治君、5番、紺野豊君を指名します。

◎会期の決定

- 議長（山本幸一郎君） 日程第2、会期の決定を議題にします。
お諮りします。今期定例会の会期は、タブレット端末の格納の
とおり、本日から17日までの8日間としたいと思います。ご異議あり
ませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

- 議長（山本幸一郎君） 異議なしと認めます。
よって、会期は本日から17日までの8日間とします。
会期中の会議についてお諮りします。10日、11日、17日を本会議
とし、12日から16日までは委員会等のため休会といたしたいと思います。
ご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

- 議長（山本幸一郎君） 異議なしと認めます。
よって、会期中の会議はこのとおり決定しました。
-

◎諸般の報告

- 議長（山本幸一郎君） 日程第3、諸般の報告を行います。
議長としての報告事項は、タブレット端末に格納したとおりです
ので、ご了承ください。
-

◎行政報告

- 議長（山本幸一郎君） 日程第4、行政報告を行います。
町長から行政報告の申出がありましたので、これを許可します。
町長。

〔町長 吉田栄光君登壇〕

- 町長（吉田栄光君） おはようございます。
本日ここに令和7年浪江町議会6月定例会を招集しましたところ、
議員各位におかれましては、ご多用の折にもかかわらずご参集を賜
り、誠にありがとうございます。
行政報告に先立ち、改めて東日本大震災によりお亡くなりになら
れた方々、過酷な避難生活の中で命を落とされた方々のご冥福をお
祈り申し上げますとともに、ご遺族に対し深く哀悼の意を表します。
それでは、3月定例会以降の行政執行の主なものについてご報告
をいたします。
初めに、水素エネルギー普及に係る国際連携についてであります。
アメリカ、ランカスター市及びハワイ郡と結成している水素エネ

ルギー普及に関する共同事業体「パシフィック・ハイドロジェン・アライアンス」の取組として、4月3日から12日の日程で、成井副町長を団長としてランカスター市及びロサンゼルス市を訪問し、水素エネルギー及び再生可能エネルギーの取組について世界に発信をしております。

国際環境会議である「ベルデ・エクスチェンジ」では、世界各国における行政や民間による様々な実証や構想の発表がなされる中、成井副町長より、なみえ水素タウン構想実現に向けた取組などを発表し、多数の拍手をいただくなど、各国の参加者の中から高い評価をいただいたところであります。

また、総領事館公邸でのレセプションや、ジェトロ主催の日本水素フォーラム等に参加し、水素エネルギー普及に向けた課題や戦略などについて意見交換を行ってまいりました。

今回のランカスター市訪問では、水素事業に取り組む民間事業者同士の交流や知見を深めることを目的に、浪江町から3つの事業者が参加し、再生可能エネルギーや水素エネルギー活用の取組の現地視察や、水素関連事業者とのビジネス交流を実施したところであります。

今後も、海外の技術や知見などの学びを深め、なみえ水素タウン構想やゼロカーボンシティ、そして水素社会実現に向けて取組を進めてまいります。

次に、浪江町議会議員一般選挙について報告をいたします。

4月10日告示、4月20日投開票で行われました当選挙においては、適正な選挙事務執行に努めたところであります。

今回の選挙では、移動投票所も含め、期日前投票所、当日投票所を合わせて、浪江、二本松、福島、郡山、いわき、南相馬に延べ8か所設置をしたところであります。

結果でございますが、当日有権者は1万2,949名、投票者数は4,599名で、投票率は35.52%となり、前回平成29年度の投票率45.21%に比べ、9.69ポイント下回りました。

今回の選挙においても、期日前投票者数及び不在者投票者数が全体の5割以上を占めており、選挙のお知らせ等による事前の情報提供が引き続き重要になるものと考えているところであります。

今後もなお一層の有権者への周知・啓発を行い、投票率の向上に取り組んでまいります。

次に、室原地区林野火災について報告をいたします。

4月20日、室原地区において林野火災が発生しました。21日早朝4時45分、当町が災害対策本部を設置、続いて、5時に双葉地方消

防本部が大柿ダム事務所に現地対策本部を設置、消防本部と連携を取りながら対応に当たったところであります。

地上からは消防隊が背負い式消火水のうちによる消火活動を行い、上空からは防災ヘリによる散水消火活動を行いました。

同日、消防隊が鎮圧状態を確認し、翌22日に再度入山し、鎮火を確認、焼損面積は約6,500平方メートル、住家被害、人身被害ともに被害はありませんでした。

昨今、全国的に林野火災が多発しておりますので、今後も関係機関と連携を取りながら、さらなる予防消防に努めてまいります。

次に、浪江町行政区長会総会についてご報告をいたします。

5月27日、浪江防災交流センターにおいて、浪江町行政区長会総会を行いました。各地区行政区長の皆様におかれましては、地区住民の絆維持、地域コミュニティ活動の促進等を図っていただき、地域が抱える諸課題の対応について、ご意見、ご指導をいただくなど、引き続き課題解決に向けた取組を推進するため、ご尽力を賜りたいと考えているところであります。

次に、防犯見守り隊委嘱状交付式についてご報告をいたします。

4月1日、防犯見守り隊24名へ委嘱状を交付しました。令和7年度も引き続き関係機関との連携強化に努め、住民の安全・安心につながるよう、防犯活動に取り組んでまいります。

次に、浪江町消防団春季検閲式についてご報告をいたします。

4月27日、浪江町地域スポーツセンターにて、全7分団、約80名の団員が集結し、通常点検・閲団、分列行進に臨みました。併せまして新入団員辞令交付式も執り行われ、新たに加入となった団員3名に辞令を交付しました。

引き続き地域防災の要である消防団活動にご期待をするところであります。

次に、浪江町復興加速に向けた協議会について報告をいたします。

4月14日、大串原子力災害現地対策本部長、輿水復興副大臣が来庁され、第10回となる浪江町の復興加速に向けた協議会が開催されました。

これまでのワーキンググループなどによる成果を確認し、町からは、議長とともに帰還困難区域の再生、特定復興再生拠点区域への継続的な支援、福島国際研究教育機構も含めた中心市街地の一体整備などを要望したところであります。

引き続き当協議会の枠組を生かし、復興加速に向けて取り組んでまいります。

次に、原発事故帰還困難区域を抱える町村の協議会の要望活動に

ついてご報告をいたします。

5月23日、原発事故による帰還困難区域を抱える町村の協議会として、伊藤復興大臣に対し、帰還困難区域を抱える町村の復興・再生に向けた要望を議会との連名で提出をいたしました。様々な事情からすぐに帰還意向を示すことのできない住民の土地・家屋について速やかに方針を示すことなどを強く要望したところであります。

引き続き議会とも連携をしながら、浪江町全域の避難指示解除の実現と、さらなる復興の加速のため、積極的に要望活動に取り組んでまいります。

次に、浪江町除染検証委員会について報告をいたします。

5月16日、委員への委嘱状交付後、本年度1回目の委員会において、環境省資料による特定帰還居住区域等の除染・解体の実施状況の確認等が行われました。今後も特定帰還居住区域の環境回復に向けた検証や、町民の放射線量に対する不安払拭のため、随時開催をしてまいります。

次に、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金事業について報告をいたします。

物価高騰による住民及び事業者の負担を軽減するため、国の重点支援事業を活用したプレミアム付商品券「なみえげんき商品券」の販売を4月26日から開始しました。本商品券は、浪江町に住民登録のある方を対象とし、1人2万円で3万円分の買物ができる商品券となっており、販売期間は9月30日までとなっております。

今年度から商工会で販売することとなり、6月9日現在で、発行数の90%が販売されたと報告をいただいているところであります。売り切れ次第、終了となりますので、多くの町民の皆様にご利用いただければと存じます。

次に、大堀相馬焼大せとまつりについて報告をいたします。

6月7日、8日の2日間、陶芸の杜おおぼりにおきまして、大堀相馬焼協同組合の主催により大せとまつりが開催されました。多くの町民や愛好家が来訪され、2日間でおよそ2,500人が訪れました。

大堀相馬焼の産地再生に向け、窯元の地元再開に向けた支援を継続し、300年以上受け継がれてきた伝統を後世に継承するための取組を引き続き積極的に推進してまいります。

次に、相馬野馬追祭について報告をいたします。

昨年度より開催時期が見直され、5月開催となった相馬野馬追祭につきましては、5月24日から26日の3日間で開催され、標葉郷からは54騎の騎馬が出場いたしました。南相馬市の雲雀ヶ原祭場で行われた神旗争奪戦では、標葉郷の騎馬が5つのご神旗を獲得する

活躍を見せたところであります。

1,000年有余の歴史と伝統を持つ相馬野馬追につきましては、今後も後世に引き継いでいけるよう、町としても積極的な支援を続けていく考えであります。

次に、企業立地状況等についてご報告いたします。

北産業団地へ陸上養殖イノベーションセンターを建設し、完全閉鎖式陸上養殖事業に取り組んでいるかもめミライ水産株式会社が養殖した「福の鯖」が初出荷を迎え、4月10日、道の駅なみえにおいて出荷式が開催されました。出荷式では、福の鯖のお披露目と試食会が行われ、私も試食させていただきました。陸上養殖で育てられたサバは寄生虫による食中毒のおそれがなく、試食した生のサバは脂が乗って大変おいしくいただいたところであります。

今後は、町内での流通・販売を目指すとしており、おいしい福の鯖を多くの町民に食べていただくとともに、新たな町の特産品となることをご期待をしているところであります。

また、4月18日には南産業団地へ新たに進出が決定した三協フロンテア株式会社と立地協定を締結いたしました。同社は、国内屈指のユニットハウス製造メーカーであり、南産業団地5街区へ木材加工工場を整備し、福島県産の木材を活用した木製部材の生産・研究などを行います。今後、施設整備に着手し、来年春頃の操業を目指すとともに、10人程度の雇用を見込んでいるところであります。

三協フロンテア株式会社は、東日本大震災当時、浪江町民向けの応急仮設住宅を整備した経過があります。また、オフグリッド型のユニットハウス開発に取り組むなど、当町のこれからのまちづくりにおいて連携できるものと大いに期待をしているところであります。

引き続き魅力ある仕事づくりと町内での雇用創出のため、企業誘致に力を入れて取り組んでまいります。

次に、特定復興再生拠点区域における米出荷再開に向けた試験栽培についてご報告いたします。

5月15日に室原地区において、室原復興組合員や地域の方々が参加し、3年目となる試験栽培の田植えが行われました。また、5月24日には津島地区において、2年目となる田植えを津島復興組合員や地域の方々で行いました。

これまでは放射性物質の吸収を抑制するための塩化カリウムを施用しながら試験栽培を行ってまいりましたが、室原地区においては、塩化カリウムを施用する圃場と施用しない圃場での試験を行い、放射性物質の稲への移行について確認を行ってまいります。

引き続き特定復興再生拠点区域における米の出荷再開に向けた取

組を継続してまいります。

次に、農業に係る大学等の復興知を活用した人材育成基盤構築事業の取組についてご報告いたします。

5月18日、連携協定を締結している東京農業大学と町が共催で、株式会社舞台ファームの協力の下、棚塩地区の圃場で田植えイベントを開催しました。

田植えには、東京農業大学の学生を中心に、総勢約50名で田植えを実施いたしました。前日までの雨天から天候は回復し、参加者は稲を1本1本丁寧に植えておりました。

また、同日、苧宿地区においても、東京農業大学の学生と地域住民が主体となり営農している苧宿ふれあいファームとの田植えが行われました。田植え後は苧宿地区の住民との交流会を開催されました。

引き続き大学と連携し、地域農業の活性化につなげる活動を進めてまいります。

次に、酪農技術研究所建築工事安全祈願祭についてご報告いたします。

5月27日、酪農復興事業に関する連携協定を締結している全国酪農業協同組合連合会が整備する酪農技術研究所の安全祈願祭が執り行われました。整備する研究所は、矢吹町にある酪農技術研究所の研究部門を移転するもので、町が整備している大規模畜産施設の東側に立地することとなっております。この畜産施設と研究所が連携して機能することで、酪農業の発展、そして、そこに関わる交流人口が増えることは、町だけではなく、復興に取り組んでいる浜通り地域の活性化に寄与するものと思っております。

次に、農林水産物販路拡大の取組についてご報告いたします。

4月24日、25日に、成田市経済部及び成田市場関係者が産地開拓のために来町され、浪江町の農林水産物の現状等を説明するとともに、農林水産物のPR及び農業・漁業関係団体との意見交換、商談等を行いました。

その結果、5月には成田市場に卸された請戸ものの品質の高さが海外バイヤーなどにも評価され、成田市場を経由し、ヒラメなどが米国オハイオ州やボストンに輸出されるなど、海外を含めた販路拡大につなげることができました。

引き続き請戸ものに限らず、町内の農林水産物の風評払拭等の取組を進めるとともに、ブランド化や安定供給力などを高め、販路開拓やサプライチェーンの強化を図ってまいります。

次に、有害鳥獣捕獲隊委嘱状交付式についてご報告いたします。

4月11日、今年度活動する5名に委嘱状を交付し、帰還町民の住環境、営農環境を守るため、捕獲活動に従事していただくようお願いをいたしました。また、6月1日に新たに1名に委嘱状を交付し、捕獲隊活動の継続に向けて体制強化にも取り組んだところでありませ

す。引き続き町民の安心・安全の確保や、さらなる営農再開面積拡大に向け、有害鳥獣対策に取り組んでまいります。

次に、県営圃場整備事業について報告いたします。

福島県で行っている県営圃場整備事業、加倉地区については、令和9年度の事業完了を目指し、現在工事中であります。区画整理面積45ヘクタールのうち、令和7年の春に引渡し完了した約29ヘクタールの農地で順次作付が開始されております。そのほかの地区でも早期の工事着手に向けて、関係機関及び地元行政区や担い手などと協力し、引き続き県営圃場整備事業を実施するとともに、町内の営農再開、農地の大区画化や担い手確保に努めてまいります。

次に、上水道施設小野田系統の完成について報告いたします。

町の将来を見据え、持続可能な水道事業を目指し、令和2年度から進めていた小野田水源、小野田取水場、小野田配水場及び小野田送水管の施設更新が令和7年3月末で完了しました。

今後も水道インフラの維持管理に努め、水道水の安定供給を進めてまいります。

次に、エフレイに関する取組について報告をいたします。

3月17日に、エフレイ主催の産学官ネットワークセミナーが郡山市で開催され、ロボット分野に関する研究の紹介やディスカッションが行われました。

セミナーでは、ロボット研究や産学官連携事例紹介のほか、エフレイ研究との連携の在り方について話し合いがされました。エフレイ研究の産業化は、町の復興にとって重要なテーマとなりますので、今後ともエフレイ及び関係企業との連携を図ってまいります。

4月26日には、伊藤復興大臣や内堀福島県知事ら、多くの関係者のご列席の下、エフレイ施設の敷地造成に伴う起工式が行われました。エフレイの管理・運営機能を備える一部施設は2028年度に、その後、2030年度までには本格稼働される予定となっておりますことから、町としましても、エフレイ施設整備に合わせた周辺インフラ等の環境整備を着実に進めてまいります。

また、同日、エフレイ設立2周年シンポジウムが開催され、山崎理事長による基調講演をはじめ、研究の取組や施設整備についての

講演等が行われました。その中では、相双地域の小中高生による研究テーマや、未来の浜通り像について発表があり、未来を担う子供たちの斬新なアイデアに触れ、エフレイへの期待の大きさをうかがうことができました。

浪江町としましても、引き続きエフレイ活動の情報把握に努めるとともに、活動促進につながるよう支援を継続してまいります。

次に、浪江駅西側地区の公民連携まちづくりに関する取組について報告をいたします。

今年3月に策定した浪江駅西側地区整備計画の具現化に向け、公民連携による共創を推進していくに当たり、住民の皆様や事業者等が気軽に話し合えるプラットフォームとして、浪江駅西側地区共創会議を設立をいたしました。

これを受け、5月29日には浪江町主催の浪江駅西側地区共創会議「キックオフセミナー」を浪江町地域スポーツセンターで開催いたしました。浪江町からの情報提供をはじめ、浪江町共創推進アドバイザーの廣常啓一氏による講演を行いました。79団体、163名の参加をいただき、公民連携をとともに進めていただく町民や、事業者の方々の熱い思いを強く感じたところであります。

これを皮切りに、町民の皆様や事業者などがつながり合い、町の新たな価値を創出していけるよう、浪江駅西側地区共創会議での検討を深め、浪江駅西側地区の公民連携まちづくりの具体化を図ってまいります。

次に、教育行政関連について報告をいたします。

3月13日、なみえ創成中学校において卒業式が行われ、7名の生徒が卒業しました。多くのご来賓の方々にご臨席をいただき、新たな門出を祝福いたしました。

3月15日には、浪江にじいろこども園の卒園式が行われ、12名の園児が卒園しました。4月からは全員がなみえ創成小学校へ通学しております。

3月21日には、なみえ創成小学校にて卒業式が行われ、11名の児童が卒業いたしました。保護者やご来賓の方々のご臨席の下、在校生もお祝いし、心温まる卒業式となりました。

4月4日には、浪江にじいろこども園の入園式・進級式が行われました。ゼロ歳から2歳の乳児部は17、3歳から5歳の幼児部は42名となり、今年度の園児数は59名でスタートしました。

4月7日には、なみえ創成小学校・中学校の入学式が行われました。小学校入学児童15名、中学校入学生徒8名を加え、小学校は60名、中学校は26名で、今年度の教育活動が始まりました。

5月23日には、なみえ創成小・中学校及びにじいろこども園の子供たちが一斉に地震と津波を想定した避難訓練を行い、徒歩でサンシャイン浪江まで避難した後、各保護者への引渡しまでの訓練でありました。

次に、生涯学習関連について報告いたします。

3月1日、浪江町芸能祭が秋桜アリーナで開催されました。民謡、舞踊、フラダンスなど様々な演目で15団体が日頃からの練習成果を発表したところであります。

4月26日、親子ふれあいチャレンジとして、みそづくり教室を実施しました。14名が参加し、ゆでた大豆を潰しながら、こうじと塩を混ぜ合わせ、6か月熟成させた後の参加者は、オリジナルみその完成を楽しみに待っているところです。

5月9日、ふれあい交流センターにおいて、子ども週末チャレンジとして、昨年に引き続き図書館に宿泊するナイトライブラリーを開催しました。小学3年生から中学生まで17人が参加し、夜の図書館での本探しゲームや、防災教育の一環として、防災テントを自分たちで設置し、非常食の試食も行いました。ふだんとは違う環境の下でも、子供たちは、楽しく生き生きと活動をしておりました。

子ども週末チャレンジでは、今後も子供たちの成長支援をし、自立支援など新しいことにチャレンジをしてまいります。

以上、3月定例会以降、現在までの取組についてご報告をさせていただきました。

なお、今期定例会にご提案申し上げる案件は、条例の制定及び改正の案件6件、契約の締結及び変更案件13件、町道の廃止案件が1件、令和7年度の補正予算案件2件、同意案件4件、報告案件4件であります。

詳細につきましては、提案の都度ご説明申し上げますので、よろしくご審議、ご承認いただきますようお願いを申し上げます。

以上をもちまして、私からの行政報告とさせていただきます。

○議長（山本幸一郎君） 以上で行政報告は終わりました。

◎一般質問

○議長（山本幸一郎君） 日程第5、一般質問を行います。

一括質問方式については、慣例により、質問が30分、再質問が10分、再々質問が10分以内となります。

一問一答方式については、質問、答弁合わせて60分以内となります。質問は質問席で行います。

なお、一般質問は通告順に許可をします。質問、答弁ともに簡潔

をお願いします。

また、質問は、あくまでも質問に徹し、要望やお願い、お礼の言葉を述べることは慎むようお願いします。

◇佐藤勝伸君

○議長（山本幸一郎君） 2番、佐藤勝伸君の質問を許可します。

2番、佐藤勝伸君。

[2番 佐藤勝伸君登壇]

○2番（佐藤勝伸君） 2番、佐藤勝伸です。

議長の許可を得ましたので、一般質問をいたします。

なお、質問の方式は一問一答方式で行います。よろしくお願いたします。

令和7年4月20日執行の浪江町議会議員一般選挙の投票率について。

①投票率35.52%と低水準でしたが、こんな状況でよいのでしょうか、町長の意見をお伺いいたします。

○議長（山本幸一郎君） 町長。

○町長（吉田栄光君） 佐藤議員のご質問にお答えをいたします。

昨今の選挙では、若者の政治離れや政治不信など様々な理由により、投票率が全国的に減少傾向にあることはご承知のことと存じます。いまだ町民が全国に避難しているという特殊な状況下に置かれている当町においては、例外でなく長期避難による町への関心の薄れなどを理由に、年々投票率が減少しているところであります。

今回の町議選は、前回、平成29年4月に行われた町議選と比較して9.7ポイント減となり、より多くのご意見を町政に反映するためには、投票率の向上が喫緊の課題であると同時に、将来の町政の担い手である若者層に対して、いかに政治に興味を持っていただくかが課題となっております。町としましても、まず町が実施する施策や町の情報をこれまで以上に発信することにより、政治や行政に興味を持っていただき、投票につなげていくことが重要だと認識をしておりますが、当町ではいまだ有権者の8割が避難している特殊な状況下にあることもご理解をいただいていると思っておりますが、我々行政、そして議員はじめ、議会の皆様と今後投票率向上に様々なご意見を交わしながら努めてまいる考えであります。

○議長（山本幸一郎君） 2番、佐藤勝伸君。

○2番（佐藤勝伸君） 2番、佐藤勝伸です。

町長、ざっくり何%ぐらいあればまあまあだなという感じがありますか。

○議長（山本幸一郎君） 町長。

○町長（吉田栄光君） 何%あればというような再質問であります、これはもちろん投票率は高いほどいいわけでありまして、今回の投票率は、議員も初めての選挙であろうかと思えますけれども、自分自身も驚きを感じているところかと思えます。その上で、やはり最低40%台を、我々の今の状況を考えると、これは必ず目指していかなきゃいけないと思っております。

期待ができるのは、議員の皆様、議会の皆様で子ども議会等を今後継続していただくわけでありましてけれども、非常に子どもたちがこの議会に興味を示している。我々の復興の歩みとともに、政治に関心を持っていただく子どもたちや若者たちが増えてくるよう努力をしながら、40%台をしっかりと回復をさせていきたい。どうか議員のお知恵をお借りできればと思っております。

○2番（佐藤勝伸君） 今後の投票率向上に向上の施策について。

①今後の投票率向上の施策について具体的にお尋ねします。

②有権者が拡散しているため、政策を訴えるには選挙公報しかありません。あまりにも小さく、情報量が少ないのです。何か別な方法を検討する余地はないのでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（山本幸一郎君） 選挙管理委員会書記長。

○選挙管理委員会書記長（戸浪義勝君） それでは、まず今後の投票率向上の施策について具体的にお尋ねしますというご質問にお答えをいたします。

今回の選挙でも、まず選挙日数を震災前の5日間から10日間へ延長しております。また、令和7年3月19日付で全有権者へ直接選挙のお知らせ及び不在者投票の案内の送付を通じて投票を呼びかけました。

続いて、4月13日には選挙公報の送付、期日前投票では、福島市及び南相馬市において移動投票所の開設、投票日当日には、防災無線を活用した投票の呼びかけを通じて投票率向上に努めてまいりました。

しかしながら、こうした結果を受け、従来の対策だけでは限界があることから、SNSなどを活用して若年層へ投票呼びかけや、先ほど町長の答弁もありましたが、令和5年度から実施しておりますなみえ創成小・中学生を議員としました子ども議会を通じて、議会の仕組みを学習し、選挙の仕組みについて理解を深め、町政への関心を高める機会を設けていきたいと考えております。

また、その他有権者に対しても、地域での集まりなどで選挙啓発をしていきたいと考えております。

続きまして、有権者が拡散しているため、政策を訴えるには何か別の方式を検討する余地はないのでしょうかという質問にお答えをいたします。

選挙公報紙の大きさは、浪江町議会議員及び浪江町長の選挙における選挙公報の発行に関する規程により定められており、立候補者のご自身の政策や考え方を発信するには限りがございます。

また、今回の選挙において、有権者からは、選挙公報では立候補者の主義主張が分かりにくく、誰に投票すればよいか難しいなどのご意見もいただいているところでございます。

全国の事例を見ますと、選挙公報にQRコードやクロスワードパズルを掲載し、有権者に興味を持っていただき、立候補者自身のホームページに誘導させることや、継続的に街頭演説するなど、創意工夫により、自身の考えを積極的に発信しているケースも見られます。

選挙管理委員会としましては、現行規程、原発被災地における特有の事情、個人情報保護・管理、公職選挙法上の規定にのっとり対応させていただきたいと思っております。

以上です。

- 議長（山本幸一郎君） 2番、佐藤勝伸君。
- 2番（佐藤勝伸君） すみません、1の②を飛ばしました。申し訳ありません。1の②をお願いいたします。
- 議長（山本幸一郎君） 選挙管理委員会書記長。
- 選挙管理委員会書記長（戸浪義勝君） 投票所の投票率についてお答えをいたします。

投票率は、有権者総数に占める投票者の割合を示したものであるため、投票所ごとの投票数を有権者総数で割り返した形でご報告させていただきます。投票所は8つございます。まず、浪江投票所、こちらが17.09%、二本松投票所3.68%、福島投票所3.75%、福島北沢又で移動投票所をしております。こちらが0.57%、郡山投票所3.07%、いわき投票所4.28%、南相馬で2か所移動投票所をしております。南相馬の北原団地のほうでは0.36%、南町団地では0.45%、不在者が2.27%となっております。

以上であります。

- 議長（山本幸一郎君） 2番、佐藤勝伸君。
- 2番（佐藤勝伸君） 福島県外の有権者の投票率をお教え願います。
- 議長（山本幸一郎君） 選挙管理委員会書記長。
- 選挙管理委員会書記長（戸浪義勝君） 福島県内ではありますが、県内在住ですね、失礼しました。県内在住は、まず町内につきましては

58.11%……失礼しました、県外在住者の投票率につきましては14.78%でありました。

○議長（山本幸一郎君） 2番、佐藤勝伸君。

○2番（佐藤勝伸君） 投票率を見ると、やっぱり福島県外に避難した人の投票率というのがものすごく低いということが分かります。啓蒙活動としては、個々に訴えるだけのやっぱり資料が必要かと思います。先ほどのお答えの中に、規定類で選挙公報のフォーマットは決まっているということですので、その規定を変更できれば、当然その資料は変更できるわけですね。ということで、今後ちょっとその内容について提案をしたいと思います。

私としては以上です。

○議長（山本幸一郎君） 以上で2番、佐藤勝伸君の一般質問を終わります。

ここで9時55分まで休憩とします。

（午前 9時46分）

○議長（山本幸一郎君） 再開します。

（午前 9時55分）

◇鈴木幸治君

○議長（山本幸一郎君） 3番、鈴木幸治君の質問を許可します。

3番、鈴木幸治君。

[3番 鈴木幸治君登壇]

○3番（鈴木幸治君） 議長より一般質問の許可を得ましたので、通告どおり一般質問を行います。

一問一答方式で行います。

初めに、特別養護老人ホームについて伺います。

平成28年5月17日、全町民避難の中、いわき市に応急の仮施設として特別養護老人ホームが開所いたしました。今年の5月1日現在で33名の浪江町民が入所をしております。町の福祉改革に大きな役割を果たしたと思っております。しかし、震災から14年が経過し、私が言うまでもなく、高齢者を取り巻く情勢は大きく変わってきております。

そこで、単刀直入に伺います。地域密着型特別養護老人ホーム、または小規模特別養護老人ホームの計画はございますか。

○議長（山本幸一郎君） 町長。

○町長（吉田栄光君） 鈴木議員のご質問にお答えいたします。

議員おただしの介護関連施設の整備については、町政懇談会でも多くの町民の方々からご意見やご要望があり、アンケートを実施しても、首長判断の条件として上位にランクされるなど、町の最重要課題の一つとなっております。

第3次復興計画では、介護・福祉の切れ目のないサービスの充実に取り組むとして、平成29年3月の一部避難指示解除から5年が経過した令和4年7月に浪江福祉センターにおいて、定員18名の通所介護サービスを開始しました。現在は利用者がほぼ満員の状況で運営がされております。

今後の介護サービスの向上については、住民ニーズの調査をし、町内での最適な介護サービスについて、次期の介護保険事業計画について策定してまいります。

また、この課題解決のため、一昨年度より私の提案により、復興庁をはじめとした国・県の関係機関とともに、介護関連施設整備を目標とし、町内での介護サービス充実に向けた会議を継続しているところであります。

さらにはオンフル双葉を運営する社会福祉法人博文会からは、町内での介護事業について提案をいただいております、実現に向けて協議を進めているところであります。

○議長（山本幸一郎君） 3番、鈴木幸治君。

○3番（鈴木幸治君） ただいま町長のほうから前進的な答弁をいただきました。ぜひ高齢者、そして高齢者を支える家族のために、早期実現に向けて取り組んでいただきたいと思います。

次に、一般職の時間外勤務について伺います。

令和5年度の決算については既に承認されておりますので、確認ということで捉えていただければと思います。令和5年度の一般職時間外手当の総額は約5,370万円であります。この額の中に他県等から応援をいただいている職員の方々の時間外手当は入っていますか。

○議長（山本幸一郎君） 総務課長。

○総務課長（戸浪義勝君） ご質問にお答えをいたします。

一般職時間外手当の支給対象は、正規職員のほか、町任期付職員、再任用職員及び一部の応援職員が対象になっております。

なお、時間外手当支給の如何については派遣元と締結する協定書に基づき行っているところでございます。

○議長（山本幸一郎君） 3番、鈴木幸治君。

○3番（鈴木幸治君） 町職員が入っていないということで、町職員の総額ということの解釈になるかと思っております。令和5年度の決算書の款

項目ごとに時間外手当の額を拾ってみました。その時間外手当額を同じ款項目の一般職給の総額で割ると、一般職給に対する時間外手当額の割合が出ます。1款から特別会計の中で割合の高いのが児童福祉総務費22.5%、金額にして212万4,975円、農業総務費9.1%、542万175円、商工総務費11.9%、498万6,180円、社会教育総務費261万520円、介護保険事業特別会計11.5%、219万8,731円、この1、2、3、4、5の合計で1,734万581円になります。単純に職員数で割りますと、年間時間外が金額として36万6,455円になります。その中でも高いのが児童福祉総務費であります。これは22.5%になりまして、1人平均に直しますと70万8,000円です。ちょっと時間外にしては額が多いんじゃないかというふうに感じております。令和4年度はこの5つの合計が1,878万3,958円です。

そこで伺います。児童福祉総務費、農業総務費、商工総務費、社会教育総務費及び介護保健事業特別会計の時間外手当額が多い要因を伺います。

○議長（山本幸一郎君） 教育総務課長。

○教育総務課長（鈴木清水君） それでは、時間外手当の多い要因につきましてご質問にお答えいたします。

令和5年度の児童福祉費におきましては、国の施策による子育て世帯生活支援特別給付金事務が要因の一つとなっております。ほかに児童手当等給付業務では、定時的ながら支払い期日があり、請求等が集中すること、虐待相談や訪問等では、急遽かつ長時間の対応が求められる上、その支援記録作成等にも時間がかかることが要因となっております。

また、こども園では、通常の保育、保護者対応業務に重なり、入・卒園式、運動会、発表会等のイベント準備が生じることが要因ですが、現在は職員を増員の上、業務を分散するなどの対応をしているところでございます。

以上です。

○議長（山本幸一郎君） 農林水産課長。

○農林水産課長（大浦龍爾君） 私からは、農業総務費についてお答えいたします。

時間外が多かった業務は、地域計画の策定事業、圃場整備事業で、いずれも地区との意見交換や説明会での休日出勤も含まれます。

また、令和5年9月の台風13号の対応業務、大規模畜産施設整備業務ほか照会対応など、一般的な事務のため、時間外勤務をしています。

以上です。

○議長（山本幸一郎君） 産業振興課長。

○産業振興課長（蒲原文崇君） 私のほうから、商工費の部分についてご質問にお答えしたいと思います。

産業振興課が担当し進めている事業は、商工業の振興のほか、なみえ水素タウン構想、ゼロカーボンシティの推進、JR浪江駅周辺整備事業における駅前商業施設の整備、棚塩RE100産業団地及び室原、川添産業団地の整備と同時並行で進めている企業誘致活動など、大型プロジェクトを抱えている状況に加えまして、当課では観光振興の業務を行っており、様々なイベント等を他課職員の応援をいただきながら、休日に実施されることが多いことから、イベントの準備と復興業務を同時に行っている状況にあり、時間外勤務が多い要因となっているものと認識しているところでございます。

以上でございます。

○議長（山本幸一郎君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（長岡秀樹君） それでは、私のほうから、社会教育総務費の時間外手当が多い要因についてのご質問にお答えします。

主な内容につきましては、子ども週末チャレンジ、地域ふれあいチャレンジに加え、新事業として親子ふれあいチャレンジ、なみえカルチャースクールなどを実施したことによる公民館事業や埋蔵文化財発掘事業の増加により、夜間、週末勤務が増加したことが要因であると考えております。

以上です。

○議長（山本幸一郎君） 介護福祉課長。

○介護福祉課長（木村順一君） 介護保険事業特別会計についてお答えいたします。

要介護認定等に関する事務において、避難先自治体の事情により、町職員が避難先の被保険者を訪問する業務が日中の時間帯勤務となることで、それ以外の業務を時間外で対応したことが要因となっております。

以上です。

○議長（山本幸一郎君） 3番、鈴木幸治君。

○3番（鈴木幸治君） ただいま各課長からその要因について答弁がございました。忙しいから時間外をやらざるを得ない。それは統一した答弁だというふうに受け止めております。それは理解できます。

ちなみに、令和4年度の時間外手当総額は約5,900万。やっぱり今申し上げた課の割合が同じなんですよ。私は単に時間外手当額が多いから質問したわけではありません。同じ課が複数年度において時間外勤務が多いということは、管理体制や人員配置とは別に違う

要因があるのではというふうに危惧しております。

もう一度申し上げます。管理体制や人員配置とは別に違う要因があるのではないかと危惧をしています。当然役場は36協定は結んでおりません。時間外は人につく。私も30年間役場にお世話になりましたけれども、先輩がよく言っていました。やる人はどこに行ってもやるんですよ。私は実的に的を射た名言だと在職中の頃は思っていました。

先ほど申したとおり、今日の質問は確認でございます。令和6年度の決算を見た上で応援をいただいている職員の方々を含めての9月議会での再度質問を行います。よろしくお願ひしたいと思ひます。

それと、先ほど児童福祉総務費の答弁を教育総務課長がいたしましたけれども、私は前のことしかちょっと記憶にないんで申し上げます。間違っていたら訂正をして撤回します。町部局から教育委員会へ出向して、教育委員会で町部局の業務をやっていることとなります。時間外手当も10款ではなく、3款からの支出ということになっております。我々年代の役場職員はこういうことはあり得ないこと。でも、今の高齢者、そして少子化の関連から、こども家庭庁でいろいろな動きがあるかと思ひます。その国の通達等によって、現在そういうような職務内容がなされているのかどうかをお聞きいたします。

○議長（山本幸一郎君） 総務課長。

○総務課長（戸浪義勝君） 児童福祉関係の事務につきまして、教育委員会で取り扱うのはおかしいのではないかとというご質問でございますが、こちらにつきましては、こども家庭庁の管轄でありまして、内閣府の直轄でございます。厚生労働省、文科省とは別になります。厚生労働省の事務とは別になりますので、教育委員会に事務委任をしているということでございます。

○議長（山本幸一郎君） 3番、鈴木幸治君。

○3番（鈴木幸治君） 内容的には分かりました、私もかなり前になりますんで、そういう事務系統の変化といいますか、そういうものが変わってきていたというふうには考えております。ただ、町部局と教育委員会部局の中でねじれがないように、町のほうでも行政として調整をして、じゃ、これはもう事務分掌の中にうたってあると思ひますんで、その辺をもう一度庁舎内の中で確認をして、高齢者並びに子供たちのそういう支援のための行政サービスというものを強化していただければというふうに思ひます。

時間外については9月議会ですし細かく質問をいたしますので、

大体どのようなことが質問されるのかということ想定した中での答弁というものを、まだ早いですがけれども、9月に向けて考えていただければというふうに思います。

これで質問を終わります。

○議長（山本幸一郎君） 総務課長。

○総務課長（戸浪義勝君） 先ほど一般職の時間外の件で、他県からの応援をいただいている職員につきまして、一部応援職員が対象になっておりますというようなお答えをさせていただきましたが、対象につきましては、福島県、岡山県の赤磐市、千葉県成田市の3団体の3名が対象となっておりますので、申し上げます。よろしくお願ひします。

○議長（山本幸一郎君） 以上で3番、鈴木幸治君の一般質問を終わります。

◇松 田 孝 司 君

○議長（山本幸一郎君） 続きまして、11番、松田孝司君の質問を許可します。

11番、松田孝司君。

[11番 松田孝司君登壇]

○11番（松田孝司君） 11番、松田孝司といたします。

議長の許可を得ましたので、一般質問を行いたいと思います。

質問方式は一問一答方式で、質問事項は通告書に沿って質問をさせていただきますと思います。

さて、町でも避難指示の一部が解除されてから8年と2か月が過ぎ、私もふるさとに戻って来月2日で7年が過ぎ、8年目に入るところです。当初からすると、散歩すれば当たり前前にイノシシと相対していたときに比べれば、大分様変わりしてはきています。当初はなかなか外で女の人を見かけることも本当に少なかったのですが、最近では当たり前のように犬を連れて散歩しているような方もかなり増えてきたような気がします。それでも元の生活環境にはなかなか戻っていないと思っています。

いつものことですが、現在、自分で暮らして感じていること、行政区の方や友人、知人などの思いなどを含め、コミュニティ、町内生活環境、有害鳥獣、除染、非常食など、順を追って質問させていただきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

まず、コミュニティについてですが、4月27日、浪江町消防団の春季検閲がありましたが、その際、町長が挨拶で具体的なことは言いませんでしたけれども、行政区について少しお話がありました。

今後の行政区の在り方について現在どう考えているのか、お話をできる範囲でいいですので、お伺いしたいと思います。

○議長（山本幸一郎君） 町長。

○町長（吉田栄光君） 松田議員のご質問にお答えします。

当町では平成29年3月に、旧居住制限区域及び避難指示解除準備区域での避難指示解除、令和5年3月に帰還困難区域の一部解除と様々な節目を迎えてまいりました。

しかしながら、現在においても町全体の約8割の面積がいまだ帰還困難区域に指定されており、帰りたくても帰れない町民の方が多くおられることも事実であります。

こうした状況を鑑み、町民の方々のご意見を伺い、行政区の在り方について議論するにはもうしばらく時間がかかるのではないかと考えております。津波による甚大な被害を受けた行政区や、いまだ避難指示が解除されていない行政区からは、存続が難しい、解散したいなどの意見をいただくこともございますが、浪江町復興計画【第三次】の復興の基本方針に掲げる帰還困難区域の再生と住みよい環境づくりを進めている途上ですので、こうしたまちづくりを進めながら、今後行政区の在り方について検討してまいります。

加えて申し上げますが、重複しますが、今、帰還困難区域の方向性が新たな政策で進んでいるところであります。議員ご承知のとおり、住民票をお持ちのまま町外で避難、お暮らしをいただいているような状況の中で、今後15年以降、様々なご意見を、そして国・県と意見を交わしながら方向性を探っていくような時期が15年以降だと思っております。

そういった多くの課題を考えますと、行政区を今、震災前の状況の中でご議論いただくのが一番浪江町の復興にとって、将来にとって大切なものかと思っております。これら行政区見直しは慎重に検討してまいりたいと思っております。

○議長（山本幸一郎君） 11番、松田孝司君。

○11番（松田孝司君） 町長の言うことは本当に分かります。私もそう思っています。今現在の行政区をなくしては駄目だと思っております。ただ、これからまちづくりをするに当たって、やっぱり町内に住んでいる人を大切に、この人たちの意見をどう取り入れるか、今度は町の町政に大事だと思っております。

次の質問に入っておりますので、次の質問にいきたいと思っております。

次の質問ですけれども、今年度の一般会計予算で住民懇談会について予算が計上されています。秋頃と言っていたような気がしますけれども、浪江町と県内4か所、二本松、福島、郡山、いわき市、

あと県外2か所、東京都、仙台市、計7か所で住民懇談会が行われる予定となっていますけれども、避難している町民の方も避難先に土地を求め、家を建て、暮らしている方が多くなっていることと思います。避難先で隣組などに入って周り付き合っている方も多いいと思います。隣組に入っていないとごみの収集も結局されなく、やむを得ず入っている方も多くおられると思っております。町として今まで2年に一度くらいの頻度で住民懇談会を行っていますが、住民懇談会の目的も当初から比べると少しずつ変わってきているのかなと思っておりますけれども、その点、今回はどのような趣旨を持って取り組んでいるのかお伺いしたいと思います。

○議長（山本幸一郎君） 町長。

○町長（吉田栄光君） 松田議員のご質問にお答えいたします。

町政懇談会を開催することは、町民の皆様が日頃より抱えているご不安や様々なご意見等を直接お伺いし、町政運営に反映する貴重な機会であると捉えております。また、会場にお越しいただくことにより、町民の皆様同士の再会や交流の場でもあると考えております。町政懇談会を定期的を開催することで、町民の皆様と絆の維持、コミュニティ再生などにつなげていきたいと考えております。

加えて、年々参加者が少なくなっている。ご高齢になってきている。もう15年目に入っているわけですから、そういったことも大きな要因かと思っております。ただし、我々行政としては直接町民の方々から伺うというような大事な機会だと思っておりますので、今後ともしっかりと継続をしてまいりたいと思っております。

○議長（山本幸一郎君） 11番、松田孝司君。

○11番（松田孝司君） 本当に町政懇談会、だんだん人が少なくて厳しくはなっていると思います。ただ、やらないとやらないで、また町民の方から苦情も来るのも間違いのないと思います。やることによって現状の町の状況を伝えるのも私はいいと思っております。

あと、次の質問に入りますけれども、最初にお話ししたとおり、町でも避難指示の一部が解除されてから早いもので本当に9年に入っています。広報なみえの6月号で、現在町内には2,343人、1,512世帯の人が暮らしていると載っています。その中で正確な人数は分かりませんが、想像では町に戻って暮らしている方が1,500人くらい、移住された方が200人強、その他は除染、解体関係者や東電関係者など、仕事関係者で住所を移している方ではないかと私は思っています。

東日本大震災原発事故避難前は2万1,000人以上いた町民の方も現在は住所を移された方、亡くなられた方などで現在1万4,442人

と、3割以上少なくなっています。その中でも町内居住者は少しずつ増えてきているようですが、いまだもってコミュニティ組織がつくられていません。確かに現在行政区体制で新たな組織となると、二重行政となることを恐れ、新たなコミュニティ組織をつくれぬのも分かります。今までは町主体でいろんな施設などを構築し、運営を行っていますが、これからは住んでいる方とともに意見を取り入れながらも住みやすいまちづくりをすべき時期になってきているのではないかと考えています。町長も先ほど言いましたけれども、春季検閲で話していたように、そろそろコミュニティについて考えていくべきではないかと思っています。

今回、町、県内外で町政懇談会を予定していますけれども、町内でも旧町村単位などの地区ごとの座談会形式などの集会などの開催を検討してはと思いますが、その点どう思っているのかお伺いいたします。

○議長（山本幸一郎君） 企画財政課長。

○企画財政課長（吉田厚志君） ご質問にお答えいたします。

町内での地区ごとの座談会形式での集会につきましては、地域の皆様のご意見等をお聞かせいただき、地域の実情を反映した町政運営を行うためにも非常に重要な考え方であると考えております。各行政区において総会等の集まりがある際に、ご依頼をいただければ参加をさせていただき、意見交換などをさせていただければと考えております。

地区ごとの集まりといたしましては、現在、防災力向上のために、樋渡牛渡地区、幾世橋地区、川添地区におきまして、住民主体による自主防災組織づくりに向けた取組が進められております。本年3月には防災交流センターにおいて、防災まちづくりワークショップを開催し、70名の参加者が取組状況を共有したところでございます。

まずは引き続きこのような取組などを通じ、関係機関の協力をいただきながら、地区が自主的に集会等の活動ができるよう支援してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（山本幸一郎君） 11番、松田孝司君。

○11番（松田孝司君） 行政区単位で声をかければ町でも出るとは分かっていますけれども、私が言いたいのは、やっぱり行政区じゃなくて、地区ごとの、やっぱり町の町政懇談会では町全体をみんなで考えるじゃないですか。やっぱりその地区で行うと、その地区の課題とか見えてくると思うんですよね。やっぱりそういうことも検討してい

かないと、今後町に住んでいる人たちの意見を取り入れることも難しくなっていると私は思っています。そういうやっぱり地区ごとで、この地区でやることによって、その地区の課題、今後の町の運営に必要なだと思っているんですよ。その点は考えていないですか。

○議長（山本幸一郎君） 町長。

○町長（吉田栄光君） 私から松田議員の再質問にお答えいたします。

松田議員の旧行政区というような町村の単位の懇談会は開催しないのかというような単刀直入なご質問かと受け止めさせていただきます。

私も町長就任以来、この浪江町の一円の復興について様々考えをしていたところであります。東から請戸、幾世橋、浪江、苅野、そして大堀、津島、津島地区にあってはいまだに帰還困難区域がそのような状況であります。双葉郡内それぞれの8か町村の中で復興の進度が違う、差異が生じてるとというような表現をなされる方も大勢おられますけれども、当町にあっては、この旧町村の復興状況もかなり違っております。

私はこの町内それぞれの旧町村の復興をある意味核となるものを、その地域、地域で、その特性、そしてその地域の歴史、文化、そういったものをしっかりと受け止めながら、その旧町村単位での復興もしっかりと受け止めております。こういったお答えをするのは、表現するのは初めてかと思えます。それは浪江は一つとして考えております。しかしながら、議員のご質問で旧町村と懇談会ということでもありますから、あえてお答えをさせていただきました。

15年目に入りますけれども、それぞれの旧町村の中の復興が緒に就き始めてきております。今後、特定帰還居住区域等を踏まえて、帰還を希望される町民の方々も明確になってまいりました。時期を見ながら、これらについては検討してまいりたいと思っております。

○議長（山本幸一郎君） 11番、松田孝司君。

○11番（松田孝司君） ありがとうございます。

町長もやっぱり私と同じような考えを持っていることを知れて安心しました。やはり浪江町は双葉郡全体を背負っているような感じですか。復興が進んでいるところと、まだ始まったばかりとか、ただ、やっぱり地区ごとのそういう意見を取り入れて、これから町の運営生かしていかないと、町民の方がやっぱり避難している方も不安があると思うんですよ。やっぱりその地区ごとに集まって、こういう話をやっているんだよと、その地区ごとの課題をいかによくしていくか。そうすると、よそに住んでいる人も安心感があると思えます。その方向で進んでいってもらえばいいと思うんです。

あと、移住者の方も本当に町に住んでいる方の意見を聞くのはほんの一部しか聞けないんですね。地区でまとまっていれば、誰々に聞いてみればいいのか、移住者もやっぱり溶け込みやすくなると思うんです。その点よろしくお願ひしたいと思います。

次の質問に入りますけれども、次は町内生活環境について何点かお伺ひします。

水路などの冠水対策ですけれども、大雨が降ると路面や山林などから雨水が流入し、排水路から道路面が冠水するところがあります。あと、路面排水路から大型排水路に雨水が流入していますけれども、その大型排水路も手入れ整備もしていないところがあり、水路内に柳などの雑木などが育ち始め、そこに枯れ木や小枝などがせき止められ、大雨が降るたびに水路から周辺の道路や田畑などに冠水するところがありますが、道路パトロールなど頻繁に行っていると思いますけれども、町では水路などの冠水について把握し切れているのかお伺ひします。

○議長（山本幸一郎君） 建設課長。

○建設課長（宮林 薫君） ご質問にお答えいたします。

職員によるパトロールだけでは全ての異常を把握することが困難な状況となっております。このため、区長、町民の方からの情報共有のほか、復興組合の調査業務等により状況把握に努めているところでございます。

ご指摘のとおり、枯れ葉や小枝が詰まったことにより、側溝から水があふれる場所も散見されますので、現地を確認の上、職員による対応や復興組合の委託等により、土木施設の適切な維持管理を行ってまいります。

○議長（山本幸一郎君） 11番、松田孝司君。

○11番（松田孝司君） 役場職員は本当に大変だと思います。現実に今住んでいる人は1割強ぐらいしか住んでません。その中で今まで冠水してなかったところも、やっぱり排水によって道路があふれて冠水しているところも多々見られます。かといって住んでいる人は本当に幾らも住んでなくてどうしようもない状況です。

あと、その点聞くんですけれども、何か用水は管理しているんですけれども、排水路はみんな一応点検しているのかお伺ひしたいと思います。

○議長（山本幸一郎君） 建設課長。

○建設課長（宮林 薫君） 質問にお答えいたします。

排水路についても十分に点検されていない箇所もありますので、今後点検してまいりたいと思います。

○議長（山本幸一郎君） 11番、松田孝司君。

○11番（松田孝司君） 少ない人数ですが、よろしくお願ひしたいと思ひます。

あと、私の個人的なんですけれども、高速道路が開通しました。排水路を一応高瀬川に流すようにしてあります。ただ、どうしても手入れをしてなくて、ごみが詰まって、貯水槽みたいなどころがあふれて逆流して、町道にあふれているんですよ、大雨のたびに。車が通るにはやっぱり20センチぐらいの道路にずっと水路になって走りますから、本当に危ないです。もう少しNEXCOあたりにもきちんと整備するように町でお願ひしたらどうかと思ひてます。これは要望になるかもしれないけれど、町道は水路になっているんです、あそこ。

前も私、NEXCOでさんざん、やっぱりうち畑に冠水して、あれ畑だって何とかしろと言ひて、1回修理したんですけれども、どうしてもまだ年にもう6回、7回以上は冠水してあります。町で状況を把握して、やっぱり言うところには言ひてほしいと思ひます。

あと、次の質問に入りますけれども、町では景観条例制定に向け、進んでいると思ひますけれども、現在、エフレイの工事も始まっています。そのエフレイの建設予定地の北側にも工場跡や朽ち果てた住宅のあばら屋などが見かけられます。住んでいなくてもきちんと手入れしてればいいのですけれども、誰が見ても窓もみんなからっとして、もう住めない状況はみんな分かると思ひています。そのほかにも散歩や車で通ってみても、手入れもされないで朽ち果てたあばら家、住宅が見られますけれども、その点町ではどう対策を考えているのかお伺ひします。

○議長（山本幸一郎君） 住宅水道課長。

○住宅水道課長（金山信一君） ご質問にお答えします。

空き家や老朽化した建物などの個人の財産の管理については、原則として所有者の責任で適切に行ひていただく必要があります。しかしながら、長年にわたり管理されず、倒壊や景観への悪影響が懸念される建物は全国的にも問題となっており、平成26年には空家等対策の推進に関する特別措置法が制定されました。この特措法では、倒壊の危険がある、または著しく衛生上、景観上の問題を周囲に及ぼす空き家等に対し、市町村は、その所有者に対し指導、勧告、命令などの措置を取ることができ、必要に応じて代執行を行うことも可能とされております。

当町においても、こうした空き家への対策は重要な課題であると認識しており、昨年度には浪江町特定空家等認定審査会を設置し、

管理されていない住宅の所有者に対して、所有者の責務、特措法に基づく指導、勧告、そして勧告に従わない場合の税制上の影響など、本制度の内容について通知を行いました。

本年度も引き続き審査会を開催し、状況に応じた空き家対策を進めてまいります。

また、ご指摘のエフレイ周辺はもとより、町内の空き家ではない建物も周辺環境に悪影響を及ぼす場合には、各部署が連携し、必要に応じて所有者に管理を促すなど働きかけを行ってまいります。

以上でございます。

○議長（山本幸一郎君） 11番、松田孝司君。

○11番（松田孝司君） その点よろしくお願ひしたいと思います。

ただ、今特定帰還居住区域で解体、除染も行われています。そこで、解体をしない宅地などは残っているのでしょうか、ちょっとお伺ひします。

○議長（山本幸一郎君） 住民課長。

○住民課長（柴野一志君） 特定帰還居住区域で解体しないで残っている住宅についてでございますけれども、現在、特定帰還居住区域、昨年6月に工事発注されたばかりで、まだその工事進捗のほうが大きく進んでいるところではございませんので、ご質問にそのままお答えすることができませんけれども、まだ完全体でその結果が出ているわけではございません。今後推移を見守って、先ほど住宅水道課長が申し上げたとおり、危険家屋と、あるいは周辺の環境に影響を与えるような状況がございましたら、庁内各課連携しまして、そういった状況の解消に努めてまいりたいと考えているところでございます。

以上でございます。

○議長（山本幸一郎君） 11番、松田孝司君。

○11番（松田孝司君） せっかく特定帰還居住区域で解体して、田畑もきれいにしても、やっぱりそういうところが残っていたら戻りたいと思わない方も結構いるんですよ。私の部落でも、環境省にも再度言っているんですけども、困難区域と目と鼻の先が管理されていないから何とかしろって、環境省はやる、やるって、なかなかやってくれないんですよ。やっぱり自分の目の前が荒れ果てていると、生活しても、何かもう息苦しくなって駄目だと住民の方も言っている方もおられるんです。やっぱり何とか対応を考えて、解体、全部きれいにしてもらおうように進めてほしいと思います。なかなかやっぱり個人的な今までのあれがあって、なかなか解体もできない家も残るとは思うんですけども、何とか少しでもそういう家屋を少な

くしてほしいと思います。

次に、有害鳥獣について質問を何点かささせていただきます。

イノシシの実態なんですけれども、私もふるさとに戻って、8年目に入ろうとしていますけれども、戻る前から農地の東屋で、家の周りの畑でビニールハウス2棟、そして1反5畝ぐらいの畑で野菜を作っています。最初はイノシシの被害でてんやわんやして対策を行っていました。ただ、イノシシも新型コロナが流行していた時期には一挙に被害が少なくなり、一時期いなくなったと思っていました。

現在、谷津田地区のソーラー発電施設のフェンス内の草刈りを行政区で実施をして、作業を年に3回に分け草刈りを実施していますが、そこでイノシシの状況が分かります。一昨年、昨年とフェンス内では幾らもイノシシの被害はありませんでした。今年最初の草刈りが先月あったんですけれども、やはりところどころイノシシがいたずらして穴を掘っている跡が見かけられます。最近また少しずつ増えてきているイノシシの実態を把握しているのか、どのような状況なのか分かればお伺いしたいと思います。

○議長（山本幸一郎君） 農林水産課長。

○農林水産課長（大浦龍爾君） ご質問にお答えいたします。

町内におけるイノシシの出没状況につきましては、住民の皆様からの通報や浪江町有害鳥獣捕獲隊による現地報告を基に、日々実施把握に努めております。過去の捕獲頭総数の推移といたしましては、ピークである令和元年度には752頭の捕獲頭数がありましたが、年々減少し、昨年、令和6年度の捕獲頭数は65頭でございました。捕獲場所につきましても、ピーク時には町内の様々な場所で捕獲されておりましたが、昨年度は捕獲地点の9割以上が立野地区及び旧特定復興再生拠点区域など、山林に近接した地域に集中してございました。

他方、今年度、令和7年度につきましては、議員ご指摘のとおり、目撃数や捕獲数が増えておりました。4月から5月の2か月間の前年対比の捕獲数ですと、令和6年度が5頭であったのに対しまして、令和7年度では14頭が捕獲されてございます。山林のドングリ等の豊作、不作などによる個体数の自然増減もあることから、年度ごとの増減は今後も発生するかもしれませんが、引き続き有害鳥獣捕獲隊活動を継続し、固体調整と出没エリアの縮小化に努めてまいります。

以上です。

○議長（山本幸一郎君） 11番、松田孝司君。

○11番（松田孝司君） 私の感じていることと、やっぱり役場で現実に数を押さえて、やっぱり同じような状況であることに安心しました。くれぐれもやっぱり町民に被害のないようによろしくお願いしたいと思います。

次の質問ですけれども、次は猿の現況、増減についてちょっと質問させていただきます。帰ってから六、七年前から少しずつ猿の出没が多くなっているような気がします。私の家庭菜園で年間五、六十種類の野菜や、イチジク、ミカン、ビワ、プルーンなどの果樹を作っていますが、最初はイチジクやカボチャなど限られた野菜に被害がありましたけれども、最近はニンジンやジャガイモなどを掘り起こして食べるようになってきています。キャベツなども寒冷紗を破いて食べ始めている猿もいます。あと、ネギなども食べ散らかし、タケノコも地面から出たところを食べていきます。町でいろいろ対策を行っていると思いますけれども、現在、町内にどれくらいの猿がいるのか、群れはどれくらいの群れがいるのか、どんな対策を考えているのかお伺いします。

○議長（山本幸一郎君） 農林水産課長。

○農林水産課長（大浦龍爾君） ご質問にお答えいたします。

町内におけるニホンザルの群れにつきましては、GPSで行動範囲や群れの頭数などを把握しつつ、管理対策を行っている群れが4群ありまして、個体数は合計で約300頭となっております。ほかに帰還困難区域を生息域としている群れが7群、個体数で550頭以上存在していることが福島県の調査結果により、示唆されております。

対策の基本的な考え方といたしましては、ニホンザルをやみくもに捕獲、排除した場合、群れの分裂や行動範囲の広範化につながるため、群れの規模を計画的に縮小、維持しながら、猿の学習能力の高さに着目し、追い払いと防護により、猿に人は怖い、作物は容易に取れないと学習させることが重要だと考えてございます。

具体的には、計画的な捕獲を実施し、1群の頭数を30から50頭程度にしていくこと、追い払い用花火や防護柵等による追い払い、防護措置を講じ、猿の警戒心を保ち、人里への依存を抑制してまいりたいと考えてございます。

これまでの取組により、町内の一部地域では出没頻度と農作物被害が減少傾向にあり、一定の成果が出つつありますので、捕獲活動や資材提供支援に加えて、町民の皆様に日常的な追い払いを行っていただけるよう、普及啓発等にも力を入れてまいります。

以上です。

○議長（山本幸一郎君） 11番、松田孝司君。

○11番（松田孝司君） 猿は一般的に群れ10頭から100頭ぐらいが1つの群れなんですよね。平均して四、五十頭。それ以上増えると、群れが2つに分かれていくんですよ。だから、現在状況を見ると、かなり増えて、これを見ても増えてますけれども、野菜に影響は少なくなる、これはちょっと違うと思うんです。かなり今年になって極端に違うんですよ。なるべくやっぱり住民が戻ってきたのに、被害の内容を努めていってほしいと思います。猿は本当に対策難しいです。電気柵やるにしても、金額は普通の電気柵のもう10倍以上かかります。かといって私のところは高速道路の根元で花火をやったら、かえって道路公団から苦情来ますね。通っている車はパンクしたと驚いて、多分これは連絡がいくと思って、私は役場から花火とかもらってません。自分でやってから言われるのも切ないですから、何とか対策して、猿の被害を少なくしてほしいと思っています。

あと、次、町長が最後に熊の出没、最近、大熊町や津島の水境から近い場所、川俣町の菅ノ又って、水境から1キロぐらい行ったところですか、そこで熊が捕獲されたと載っていました。あと、相馬市でも、昨日も何かラジオで言ってましたけれども、大野台の元仮設住宅のあった近辺で何度かやっぱり熊を見かけています。あと、県内でも熊はかなり多くなっていますけれども、町の防災カメラがいろんなところに設置されていると思いますけれども、最近は防災カメラなどに熊などの姿を見かけていないのかお伺いしたいと思います。

○議長（山本幸一郎君） 総務課長。

○総務課長（戸浪義勝君） ご質問にお答えをいたします。

まず、防犯カメラにつきましては、町内各所に防犯カメラ及び車番認証カメラを設置、通常は自動車等の通行を監視し、犯罪の抑止、防犯対策を図ることで住民の不安を払拭し、安全・安心を確保することを目的としております。そのため、ご質問の熊の出没に関して、カメラでの監視はしておりませんが、仮にカメラの近くで熊の目撃情報があれば、画像の確認は可能ですので、確認ができれば防災無線等での注意喚起に努めたいと思います。

○議長（山本幸一郎君） 11番、松田孝司君。

○11番（松田孝司君） あと、何か熊とイノシシを見間違えとかよく流れますけれども、熊とイノシシははっきり言って全然違います。私、実際熊と30メートルぐらいで1対1で相対したときがあります。怖くて動けませんでした。ただ、熊のほうは逃げていきました。背を向ければ熊は向かってきます。あと、熊は本当は気が弱くて、山登

りするにしても、やっぱりクマ鈴とかラジオをつけながら歩きなさいと登山客には言われてます。だから、結局熊かイノシシか見間違えとか、役場職員の方はその差は分かりますよね。簡単ですよ。こんな質問で悪いですけども、熊とイノシシの違いは確認できますか、お伺いしたいと思います。

○議長（山本幸一郎君） 農林水産課長。

○農林水産課長（大浦龍爾君） 役場に有害鳥獣の被害が寄せられる中には、今、議員おっしゃったような部分なのか、あと、イノシシと見間違えて通報が来るようなことはこれまでもございました。実は4月にも熊の目撃ということで、とある地区から情報が寄せられて、私どもの職員が確認しに行ったところ、足跡がハート型で、イノシシだったのかなというところで、特に熊との見間違えということで私どものほうは捉えたんですが、実際のところ、私どもも直接目撃する機会というのはあまりないかもしれないんですが、足跡などの痕跡をもって確認をしてまいりたいと思ってございます。

以上です。

○議長（山本幸一郎君） 11番、松田孝司君。

○11番（松田孝司君） 今、課長言ったとおり、足跡で熊とイノシシの差は分かります。蹴り跡で分かります。あと、熊と相對したとき、熊は立ち上がります。イノシシは向かってほえるけれども、起きることはできません。そういうことも最近熊の被害が周りの近辺は多くなっていますので、担当課でも広報などにやっぱり、昔は猿は全然広報に載ってなかったですね、猿の対策。今後熊も、何度かでもいいですから、熊の対処の仕方とか、簡単な記事を載せることも考えたかどうかと思ってますけれども、その点どう考えてますか。

○議長（山本幸一郎君） 農林水産課長。

○農林水産課長（大浦龍爾君） 今、おただし、ご提案いただきました件については、近々の広報への掲載ということで前向きに考えてまいりたいと思います。

以上です。

○議長（山本幸一郎君） 11番、松田孝司君。

○11番（松田孝司君） 熊も私と同じく気が弱いですから、その点大丈夫ですけども、くれぐれもやっぱり背中を向けない。基本的なことです。あと、向かっていけば熊はなかなか向かってくることはありません。

○議長（山本幸一郎君） 副町長。

○副町長（成井 祥君） 熊の件について、ちょっと追加で答弁させていただきますけれども、今、県内各地でツキノワグマの目撃情報が

相次いでいる状況にありまして、福島県といたしましては、今、県内全域でツキノワグマ出没注意報を発令しているところがございます。こういった点で、県におきましては、熊対策のリーフレットなんかも作成しているところでありまして、今、議員ご指摘の熊に遭遇したらどうするかといったところも周知しているところでもありますので、今後も県と連携しながら、そういった周知活動をしっかりと町としても取り組んでまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（山本幸一郎君） 11番、松田孝司君。

○11番（松田孝司君） 本当に今、皆さん新聞見ると、必ず熊の話は毎日載ってます。ただ、今、会津面が多いですけども、だんだんこっちのほうに来ている可能性もなきにしもあらずというので、皆さんも相対したらくれぐれも背を向けないようにしてほしいと思っています。

次に、除染について簡単な質問をさせていただきたいと思います。

特定帰還居住区域ということで、現在、かなり帰還困難区域で解体や除染を行っていますけれども、以前、何か際除染ということで、道路から20メートル以上というか、1つの区画で除染をやって、それ以降何も手入れしないでいました。今回除染した以降は誰が管理することになるかお伺いしたいと思います。

○議長（山本幸一郎君） 企画財政課長。

○企画財政課長（吉田厚志君） ご質問にお答えをいたします。

帰還困難区域につきましては、特定帰還居住区域の制度によりまして、避難指示の解除を行うことが政府の基本方針で示されており、当町におきましては、令和6年1月に特定帰還居住区域復興再生計画の認定を受け、今年3月には特定帰還居住区域の範囲を約710ヘクタールから約940ヘクタールに拡大する変更計画について国の認定を受けたところがございます。昨年の6月からは特定帰還居住区域の一部で環境省による除染が開始をされておりますが、土地の管理につきましては、原則所有者が行うものとなりますが、避難指示が解除されるまでにおきましては、引き続き帰還困難区域でございますので、定常的な土地の保全管理は現状行われていないものと認識をしております。

町といたしましては、特定帰還居住区域の制度をしっかりと進め、早期の除染完了、避難指示解除につなげることで、所有者の方が適正に土地を管理できるよう取り組むとともに、避難指示解除の際には速やかな営農再開等に支障を来すことがないように、地力回復等を確実に実施し、土地の除草等を行った上で所有者へ引き渡すよう国

に求めているところでございます。

以上です。

○議長（山本幸一郎君） 11番、松田孝司君。

○11番（松田孝司君） 一応所有者でということですから分かりますけれども、町でもやっぱりすぐ解除すれば確かに所有者は管理できると思うんですけれども、現実には帰る人がなかなかなくて、戻ったとしても高齢者が多くなると思うんです。そういう対策を考えてほしいと思っています。

あと、最後の質問、非常食について質問したいと思います。

前回、12月にアレルギー対応の非常食について質問させていただきました。一応町では用意することでしたが、現在何食ぐらい準備しているかお伺いします。

○議長（山本幸一郎君） 総務課長。

○総務課長（戸浪義勝君） お答えをいたします。

非常食につきましては、現時点において、非常用米おかゆを約2,500食、非常用パンを約800個、みそ汁スープを約2,100食準備しております。そのうちアレルギー対応の非常食につきましては、非常用米おかゆを約1,600食、スープを1,100食準備しております。

○議長（山本幸一郎君） 11番、松田孝司君。

○11番（松田孝司君） 安心しました、今、町でやっぱりエフレイとか来て、外国の人方も多く来ると思います、研究者の。そこで、これは町で対応し切れないかなと思いますけれども、ムスリム、イスラム教徒というのは世界で16億人います。4人に1人がイスラム教徒です。ムスリム、ハラール食と言って、豚肉とかアルコールが取れない国が大部分です。日本では今700人に1人ぐらいが、ムスリム、イスラム教徒だと言われていています。ただ、福島県ではこの1割もないのではないかと考えています。町で対応することはないかもしれませんが、ただ、避難所にあつては、やっぱり自分で対応食を持っていくというのはなかなか厳しい状況なんですね。あつたとも思えば、それは自分で最後まで取っておくとか、そこまで用意しておけばと言いませんけれども、やっぱりエフレイの職員の対応をして、将来的にはそういうハラール対応食も必要なのかと私は思っています。現時点でまだ研究者の実態は分からないですけれども、そういう対応を想定されることもいいのかなと思っています。

あと、おかげさまで私も今回で多分一般質問20回目になります。その中でさんざん職員の方に怒られたことがあります。最初の質問がゆるキャラでした。この忙しいのに何考えてるんだと言っていた課長もおられたみたいです。ただ、現実にはそういう遊び心もやって

ないと、仕事一筋では大変だと思います。そういうやっぱり少しゆとりを持って職員の方も仕事をしてほしいと思います。

本日はどうもありがとうございました。

○議長（山本幸一郎君） 以上で11番、松田孝司君の一般質問を終わります。

ここで昼食休憩のため、1時まで休憩とします。

（午前10時58分）

○議長（山本幸一郎君） 再開します。

（午後 1時00分）

◇佐々木 茂 君

○議長（山本幸一郎君） 8番、佐々木茂君の質問を許可します。

8番、佐々木茂君。

[8番 佐々木茂君登壇]

○8番（佐々木茂君） 議長から許可を得たましたので、一般質問、それも一問一答で行わせていただきたいと思います。

改選されて初の議会でございますから、たくさん質問内容があります。簡潔にお答えをいただきたいと思います。

ちょっと昨年、体壊しまして、9月、12月、3月と一般質問を休ませていただきました。それでいっぱいいたまっておりましたので、ここで質問をさせていただきたいと思います。

まず、浪江町の職員の時間外手当・勤怠管理に関する諸問題について、詳しくは分からないものですから、お聞きしたいと思います。

浪江診療所の勤怠管理、令和4年度の時間外手当補正予算に対して伺いたいと思います。

平成29年から令和3年まで大体残業代というのは10万円ぐらいだったんだろうと思います。令和4年度の9月議会において40万に補正されております。この補正はどのような業務量の増加や政策判断に基づくものなのか伺いたいと思います。

また、予算編成時及び補正時の内部審査体制と決裁過程の透明性についても明らかにしていただきたいと思います。

○議長（山本幸一郎君） 浪江診療所事務長。

○浪江診療所事務長（中野隆幸君） お答え申し上げます。

令和4年3月末に1名の職員が退職となりまして、令和4年度の浪江診療所の事務職員が1名減の状況となりました。そのため、職員への業務量が増加したことが一因となりまして、時間外手当の増額補正を行っております。

○議長（山本幸一郎君） 企画財政課長。

○企画財政課長（吉田厚志君） それでは、予算編成の過程についてのご質問にお答えをいたします。

当初予算におきましては、各課において予算入力をした後、企画財政課による各課へのヒアリングを実施しております。各課ヒアリングの後、ヒアリング内容を踏まえて、企画財政課による予算査定を実施し、町長及び両副町長による1次査定、2次査定を経て、当初予算案を編成し、議案として議会のほうへ提案をさせていただいております。補正予算につきましてもおおむね同様の流れとなっております。

以上です。

○議長（山本幸一郎君） 8番、佐々木茂君。

○8番（佐々木茂君） ありがとうございます。

時間外勤務において、万が一不正が発見された場合、町は調査、処分、再発防止策はどのように行っていくのか。また、町民に説明できる責任体制というものが整っているのかどうか質問させていただきます。お願いします。

○議長（山本幸一郎君） 総務課長。

○総務課長（戸浪義勝君） ご質問にお答えをいたします。

仮に非違行為が明らかとなれば、該当者に対してヒアリングを行い、動機や対応、故意または過失の度合いを勘案し、浪江町職員の懲戒処分の基準に基づき処分を行います。

再発防止策については、そのケースによって様々でございますが、同様の問題が繰り返されることのないよう、原因を特定し、適切な対応を講じ、指導に努めてまいります。

また、公表等に関しましては、職員の懲戒処分等の公表基準に基づき、公表をいたします。

○議長（山本幸一郎君） 8番、佐々木茂君。

○8番（佐々木茂君） 出勤、退勤の、また休暇申請などの情報などは総務課ではどのようにチェックされているのかどうか。その運用に不備があった場合の原因はどこにあるのかというものを聞きたいと思います。ちょっと要は得てないんですが、また、現在実施されているシステムの再ダウンロードや再通知などの対策で再発防止が本当に可能かどうか考えているのか、総務課としての責任をどう捉えているのかを聞きたいと思います。よろしく願いいたします。

○議長（山本幸一郎君） 総務課長。

○総務課長（戸浪義勝君） ご質問にお答えをいたします。

職員の勤怠管理につきましては、システムを用いた管理を行って

おり、入庁時及び退庁時には専用のカードを機械にかざすことで職員の出退勤を記録しております。

休暇申請等については、所属課においてシステムを用いた本人からの申請及び担当課長等による承認をしております。仮に運用に不備があれば、改めて申請承認のプロセスを明確化し、改善を実施するなど、不正となるような行為を未然に防ぐ仕組みを整える必要があると考えております。

また、職員への教育、研修を通じて、労働法令や内部規則についての理解を深め、高い倫理観やコンプライアンス意識の向上にも努めてまいります。

なお、当町の勤怠管理システムはダウンロードしているものではなく、コンピューターサーバーにて全職員を一括管理するシステムとなっております。

○議長（山本幸一郎君） 8番、佐々木茂君。

○8番（佐々木茂君） 分かりました。

それでは、勤怠管理のチェック体制や、また、それに不備があった場合についてお伺いしたいと思います。運用ではどのような形式で、命令で行われているのか知りたいと思いますので、お願いします。

さらに文書での命令なのか、口頭での指示か、また実績管理がどのように行われ、職員に対して労働基準法などの法的要件を満たしているのか、現状と課題を明確にお答えいただきたいと思います。

○議長（山本幸一郎君） 総務課長。

○総務課長（戸浪義勝君） ご質問にお答えをいたします。

時間外勤務については、所属長が職員に対して時間外勤務命令を発するに当たって、その命令が自己の権限に基づいて行われることの明確な自覚の下に、かつその命令の結果に対する責任を自覚し、真にやむを得ない場合に限り、時間外勤務命令を発しております。

実際の運用としては、口頭により所属長が命令し、システムでは、事後に速やかな承認をいただいております。

また、勤怠記録については、システムにより職員ごとの実績管理がされております。

近年においては、公務員の時間外労働に関し、適切な労働環境の確保が求められており、町民のために行政サービスを提供する重要な役割を担っていることから、過度な時間外労働や命令が行われることのないよう、法令に沿って適切な管理に努めているところでございます。

○議長（山本幸一郎君） 8番、佐々木茂君。

○ 8 番（佐々木茂君） ありがとうございます。

それでは、例えば通勤手当の不正支給防止や確認体制の現状について伺いたいと思います。

町職員の通勤手当について、虚偽の申告や不正受給を防止するためのチェック体制はどのように構築されているのか伺いたいと思います。また、通勤経路の妥当性確認や定期的な再調査は行われておりますでしょうか。

また、町民に対する説明責任を果たす上で、今後の改善計画があればお示しいただきたいと思います。

○議長（山本幸一郎君） 総務課長。

○総務課長（戸浪義勝君） ご質問にお答えをいたします。

通勤手当の支給については、職員の給与の支給に関する規則に基づき、職員からの申請によって、居住地からの通勤経路や利用する交通機関、通勤費用の明細などを記載した申請書を提出いただき、その内容が正確であるかの確認により支給しております。

自家用車での通勤であれば、一般に利用し得る最短経路の距離、公共交通機関であれば、最も経済的かつ合理的と認められる通常の経路及び方法による運賃等の額とされております。

通勤経路が変更された場合は、再度申請が必要となる旨を周知しておりますが、今後も申告漏れ等がないように、毎年度ごとに状況確認を行い、手当支給の適正管理に努めてまいります。

○議長（山本幸一郎君） 8番、佐々木茂君。

○ 8 番（佐々木茂君） ありがとうございます。

次の質問に移りたいと思います。

昨年不正アクセスによる裁判内容について、私もちょっと裁判の傍聴などに行っておりました関係上、興味があり、なかなか時間がなくてというお話をさせていただきましたけれども、質問をさせていただきたいと思います。

昨年不正アクセスに対して、町として刑事告訴を行うに至った経緯についてお伺いします。

具体的には、本人の事情聴取や被害状況の確認などを踏まえて、どのような手続、判断の下で告訴に至ったのかご説明いただきたいと思います。

○議長（山本幸一郎君） 総務課長。

○総務課長（戸浪義勝君） ご質問にお答えをいたします。

町として不正アクセスについての刑事告訴はしておりません。

○議長（山本幸一郎君） 8番、佐々木茂君。

○ 8 番（佐々木茂君） 分かりました。

それでは、通常大体こういう問題が起きたときは、町としては懲罰委員会を開催して、行政内部で対応されるケースもあるかと思えます。今回はなぜ懲罰委員会を経ずに本人に対する刑事告訴という判断がなされたのか、その判断基準や背景について教えていただきたいと思えます。

○議長（山本幸一郎君） 総務課長。

○総務課長（戸浪義勝君） ご質問にお答えをいたします。

先ほどの繰り返しとなりますが、刑事告訴はしておりません。警察への相談の背景につきましては、当該職員による不正アクセスが確認されてから、当該職員の業務用パソコンを回収して、不正なアクセスの状況調査をいたしました。このパソコンから当該職員が複数年にわたり、複数の職員のID、パスワードを使い、他の職員の出勤簿等を閲覧していることも確認しました。そのほかにも業務上閲覧の権限のない資料等についてもパソコンに保存してあることが確認され、不正アクセス行為の禁止に抵触するおそれがあったため、警察に相談をしました。その結果、警察で事件性があると判断し、警察の捜査が始まり、当該職員の逮捕及び起訴につながったと推測いたします。

また、逮捕後に、浪江町役場本庁舎に警察による異例の家宅捜査が入り、執務室から証拠物件が押収されるなど、今回の事件は重大な問題であり、大変ゆゆしき事態であったと認識をしております。

○議長（山本幸一郎君） 8番、佐々木茂君。

○8番（佐々木茂君） 分かりました。ありがとうございます。

これまでも同様に刑事事件に相当する事案があったと思えます。それにはどのように町として今回のケースと別に対応されてきたのであるのか。また、その理由や判断基準についてどういうふうにして、基準があればご説明いただきたいと思えます。

○議長（山本幸一郎君） 総務課長。

○総務課長（戸浪義勝君） ご質問にお答えをいたします。

東日本大震災の以前になりますが、刑事事件にはなっておりませんが、職員による関係団体の資金を横領した事件がございました。こちらについては、事件発覚後、当該職員が依願退職し、横領したお金も関係団体に返金されたため、関係団体から刑事告訴はされませんでした。

今回の事件については、町職員の行動が法律に抵触するおそれがあったため、警察に相談をしたものでございます。

○議長（山本幸一郎君） 8番、佐々木茂君。

○8番（佐々木茂君） はい、分かりました。

今回、警察に相談、告発した内容についてなんですが、不正アクセスに関する件のみであるということでありましてけれども、それ以外の公務員としての違法行為、地方公務員法違反などについて相談された事実があるかどうか教えていただきたいと思っております。

○議長（山本幸一郎君） 総務課長。

○総務課長（戸浪義勝君） 繰り返しになりますけれども、刑事告発はしておりません。相談の内容につきましては、守秘義務があるため、お答えできません。

○議長（山本幸一郎君） 8番、佐々木茂君。

○8番（佐々木茂君） 無難な答えだとは思いますがけれども、私はしつこい人間なんで、またいろいろ機会があればお聞きしたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

それでは、次の質問に移りたいと思っております。

町顧問弁護士と職員の弁護士の業務についてお聞かせいただきたいと思っております。

震災から14年が経過し、法律相談件数が減少している現状においても、町顧問弁護士及び町弁護士を継続的に配置する必要性は本当にあると考えておりますか。その根拠をお伺ひしたいと思っております。

○議長（山本幸一郎君） 総務課長。

○総務課長（戸浪義勝君） ご質問にお答えをいたします。

町顧問弁護士については、震災以前より顧問契約を締結しており、法律調査、契約書類の審査、点検、簡易な文書作成のほか、訴訟等のトラブル発生時に代理人として問題解決していただくなど、継続的な法的サポートをいただいております。

町の職員弁護士については、住民の簡易な法律相談や、賠償支援などに対応いただくとともに、業務上の法的解釈への助言などを担っております。東日本大震災以降、住民ニーズの多様化、自治体活動における法的知識の不足など、誤った法的解釈が当町の不利益に直結することも想定されることから、トラブルを未然に防ぎ、発生したトラブルを迅速かつ適正に解決するために弁護士を配置する必要性は十分にあるものと思料いたします。

○議長（山本幸一郎君） 8番、佐々木茂君。

○8番（佐々木茂君） 大体町で採用している職員弁護士についての業務についてはある程度理解をしたつもりであります。賠償問題以外で具体的にどのような業務が行われて、具体的な業務内容の実績などがもしあれば、簡単に結構でございますから教えていただきたいと思っております。

○議長（山本幸一郎君） 介護福祉課長。

○介護福祉課長（木村順一君） 具体的な業務内容とその実績についてお答えいたします。

業務としましては、町職員からの町事業に関する相談と町民からの相談となっております。町職員からの相談は、町民に対する債権回収、契約書や例規などの内容精査、成年後見申立て、クレーム対応などとなっております。

次に、町民からの相談は、相続、離婚、近隣紛争、不動産関係などとなっております。

実績につきましては、相談件数については令和7年度で賠償0件、その他でほか48件となっております。また、相談後の結果について把握できているものは、成年後見申立てのみでございます。

○議長（山本幸一郎君） 8番、佐々木茂君。

○8番（佐々木茂君） 大分相談件数が少ないかに思います。現在も町弁護士に対して相談の予約制を採用しているのかどうかお伺いします。

○議長（山本幸一郎君） 介護福祉課長。

○介護福祉課長（木村順一君） お答えいたします。

相談会の予約制については広報で周知しておりますが、予約制は採用してございません。

○議長（山本幸一郎君） 8番、佐々木茂君。

○8番（佐々木茂君） 町民からの行政に対する仮に違法行為などがあって、相談に対応する場合、利害関係や公平性の観点から問題が生じないのかどうか、利益相反になるのではないかと。また、その対応方針はどのように定められているのか説明していただきたいと思っております。

○議長（山本幸一郎君） 介護福祉課長。

○介護福祉課長（木村順一君） ご質問にお答えいたします。

相談内容が町に対する法的措置を検討しているものであることが分かれば相談は受け付けておりません。

なお、相談途中でそのように判明した場合も相談は中止しております。

また、職員であることから町へのクレーム案件は対応しておりますが、その際には利益相反行為に該当しないよう注意しております。

対応方針については、弁護士法や弁護士職務基本規定を基準として判断しており、日頃から利益相反行為が発生しないよう心がけております。

○議長（山本幸一郎君） 8番、佐々木茂君。

○8番（佐々木茂君） ありがとうございます。

そのとおりだと思います。今後ともそれを頭に入れてお願いしたいと思います。

町の顧問弁護士もいらっしゃいます。日常的に法的業務については、主に顧問弁護士ではなくて、職員弁護士を利用しているように私は感じているのですが、職員弁護士を便利に使っているのではないかという疑念を抱いてもおります。顧問弁護士がいらっしゃるならば、職員弁護士の必要性は薄いと考えられますが、この点についても見解をお伺いします。

○議長（山本幸一郎君） 総務課長。

○総務課長（戸浪義勝君） ご質問にお答えをいたします。

先ほど大きな3番の（1）で答弁しましたとおり、顧問弁護士と町弁護士の役割が違うため、町弁護士を配置する必要性は十分にあるものと思料いたします。

○議長（山本幸一郎君） 8番、佐々木茂君。

○8番（佐々木茂君） 分かりました。

それでは、（4）番の町営大平山霊園について、しつこいようですが、また質問させていただきますので、ご容赦いただきたいと思ひます。

大平山霊園の工事に関して、区画利用者への事前説明、また意見聴取が行われなかったのはなぜでしょうか。管理者である町が独断で変更工事を進めたのは正当な手続だったと考えているのかどうか伺いたしたいと思います。

○議長（山本幸一郎君） 建設課長。

○建設課長（宮林 薫君） ご質問にお答えいたします。

請戸行政区の総会において、大平山霊園等の工事に関する要望があり、町に対し請戸行政区長から、令和4年4月27日付で要望書の提出がありました。町としても要望書の提出を受け、区長と様々な話し合いを行う中、行政区の費用で自らが工事を行うとの話になりましたので、地域の総意があったと受け止めており、区画利用者への事前説明、意見聴取は実施しませんでした。着工前に町から区画利用者の皆様に対し、管路改修に係る工事内容、工事期間及び施工会社等をお知らせする通知をさせていただいたところであり、独断で変更工事を進めたわけではございません。

○議長（山本幸一郎君） 8番、佐々木茂君。

○8番（佐々木茂君） 前に副町長が工事施工承認書を提出されているが承認はしていない、預かっているだけだというような答弁をされたかと思ひます。

一方で、普通財産借受等申込書、つまり工事用の石の仮置場使用

地の承認を得て、令和6年1月頃まで工事用の石を仮置きしていた事実があります。工事施工承認が下りていない状態での仮置き仮設は行政手続上、重大な問題ではないのか、このご認識をお伺いさせていただきます。

○議長（山本幸一郎君） 建設課長。

○建設課長（宮林 薫君） ご質問にお答えいたします。

町では請戸行政区から大平山霊園改修工事における使用石材の仮置場の要望申出があり、令和4年11月21日付で普通財産借受等申込書の提出を受けました。請戸行政区と町有地の一時使用の土地賃貸貸借について、受理日から土地賃貸借の契約を締結し、仮置場の町有地の使用を許可しております。

なお、仮置きを許可した場所は、防災集団移転促進事業で町が取得した町有地となっており、許可の要件として、できる限り被災地の用に資する目的であることから、請戸行政区に対して町有地の一時使用を無償により許可をしております。工事施工書にはしていない中で、まずは工事施工の承認とは切り離して町有地の一時使用について許可をさせていただき、特段問題はないと考えております。

○議長（山本幸一郎君） 8番、佐々木茂君。

○8番（佐々木茂君） なぜこのような質問をさせていただくかということ、実は施工業者予定者に対して、請戸行政区から既に請負金額、大体概算金額なんでしょうけれども、半額ほど前払い金が発生しております。行き場がない、この支払いであるがために、今日までの町の対応が正しかったのかどうか。下手をすると訴訟に発展する可能性もあるから、よく整理をしていただきたいと思いますと思って警告するために私は質問をさせていただいております。

区画利用者約400基の事前説明や合意形成がなされなかったということは町はどのように考えているのか。また、責任が取れるのかどうか。また、今後このような手続不備を繰り返さないための対策は講じられたのでしょうか、お聞きしたいと思います。

○議長（山本幸一郎君） 建設課長。

○建設課長（宮林 薫君） ご質問にお答えいたします。

請戸行政区の総意として、町へ要望書の提出をいただいております、事前説明や合意形成が請戸行政区内においてなされていたと解釈しており、手続上問題はなかったと認識しております。

しかしながら、請戸行政区内で十分な合意形成がなされておらず、請戸行政区が自らの費用を使用し、自ら工事を施工することについて、一部の住民の方から工事に対する反対の意見があり、町としても慎重に対応するべき点もあったと考えてはおります。

行政財産は行政が工事管理を行うことが大原則であり、行政以外の方々が利活用する場合には、法令等はもちろんのこと、地域や関係者の皆様と合意形成等を十分に確認した上で、引き続き適切な対応を図ってまいります。

○議長（山本幸一郎君） 8番、佐々木茂君。

○8番（佐々木茂君） なかなか苦しい答弁だったのかなと思っています。この工事承認に関して、一連の流れが町建設課と町営大平山霊園の癒着などはなかったのかどうか。町行政の責任逃れに見えるとの住民の声もあります。町としてはこのような不信感をどう受け止め、住民の信頼を回復するつもりなのかお聞かせいただきたいと思っています。

○議長（山本幸一郎君） 建設課長。

○建設課長（宮林 薫君） ご質問にお答えします。

今般の事案について、町としては地域のために、地域の要望に応えたいとの思いで対応してまいりました。結果、円滑に手続が進まなかったことは大変遺憾であります。

他方、様々行政上の手続を進めるためには、住民の皆様、関係者の皆様のご理解が不可欠であります。今回の経験を踏まえ、情報の共有、そして合意形成を図ることの重要性を再認識し、きめ細かな対応を心がけてまいりたいと考えております。

○議長（山本幸一郎君） 8番、佐々木茂君。

○8番（佐々木茂君） 分かりましたと言いたいんですが、工事もしないで、前渡金半分ほど見積金額の金額を業者のほうにお支払いをされており、行政区としてこれをどのようにして回収できるのかどうか頭を痛めているというのが実情であります。

当時の町建設課の対応が非常にうやむやであった。そして行政区も前のめりになっていた。要するに行政区の解散を目指すためには、ある財産である金銭的なものを早く処分しなくちゃいけないというようなことで迷われたんではないのかなと。前のめりになって業者の言いなりになってしまったのかなというふうに私は考えております。何とか行政としてこの支払われた前渡金なるものをやっぱり回収するのを行政区に対してお手伝いする義務があるだろうと、こう思っています。要するに半々で賠償金を取り戻すとか、そういう話も出てくるかもしれません。私はやっぱり行政はきちっと判断力を持って、いいこと、悪いこともあるんで、行政区が前のめりにならないように、やっぱり注意して喚起を促していくと、こういうようなことが私は必要ではないのかなと、このように考えております。

それでは、最後になりますけれども、次の質問に移らせていた

だきたいと思います。

浪江町の復興推進計画についてお伺いします。

僕もホームページとか、いろいろ眺めるんですけども、どうも復興庁のホームページには載っておったんですが、浪江町のホームページには載っていませんでした。興味がありましたので、質問をさせていただきたいと思います。

この競走馬育成施設の新設事業でありますけれども、J R Aとは関係がないように聞いております。J R Aも北海道日高牧場、さらに三島の育成牧場、宮崎の育成牧場、美浦のトレセン、栗東のトレセン、各競馬場、いろいろ施設があるようであります。県内においても小野町のテンコー・トレセン、ノルマンディファームが経営しているんですかね。そのテンコー・トレセン。あと、天栄村のノーザンファーム、あと、桑折では山元トレセン、新地から山元にかけて、ごめんなさい、県内でほかに桑折町がにぐらや、あと、山元トレセンと、いろいろあるようであります。さらに双葉町では、重賞馬の老馬というか、引退された馬の育成牧場の、育成というか養老院みたいな形なんでしょうけれども、そうした牧場の計画もあります。非常に馬だらけの福島県内になってしまうのかなという感じがしております。

そんな形の中で、私はこの計画は民民の話と理解しておりました。どのようなものなのかお伺いしたいと思います。

○議長（山本幸一郎君） 産業振興課長。

○産業振興課長（蒲原文崇君） ご質問にお答えいたします。

本事業は、民間事業者である株式会社ブルーミングステーブルス
が実施する事業でございます。競走馬の大規模外厩牧場を整備、
運営する事業でございます。対象地は浪江町大字末森地内で、約39
ヘクタールの敷地に外厩牧場施設として1,200メートルの周回コース、
それから1,000メートルの坂路コース、16棟の厩舎と、その中
に512馬房を備えるほか、従業員宿舎、食堂などが整備される予定
で、本年度着工し、令和9年度に事業開始予定と聞いているところ
でございます。

また、本事業は、国の自立・帰還支援雇用創出企業立地補助金の
採択を受け、施設整備を行うものでありまして、整備対象地の用地
取得から施設整備、それから、その後の施設運営、事業の経営を民
間事業者が行うものでございます。

町といたしましては、新たな雇用の創出はもとより、新たな交流
人口増加や地元産業との連携など、町内の経済波及効果が見込まれる
こと、さらには特定復興再生拠点区域の再生につながる取組とし

て、地元住民の方々も期待されている事業であり、町としても実現に向けて伴走支援を行ってきたところでございます。

以上でございます。

○議長（山本幸一郎君） 8番、佐々木茂君。

○8番（佐々木茂君） 質問がちょっと長いので、答弁を短くお願いしたいと思います。

この事業では128人の新規雇用を見込んでいるというような計画であります。その内訳、フルタイム、パート、季節雇用などはどうなっているのか。また、仮に想定どおりの雇用が創出されなかった場合、町はその責任をどこに求め、どう対応するものなのか。税金を用いる事業として、その成果未達時の責任と説明責任があれば、その所在について明確にお答えください。

○議長（山本幸一郎君） 産業振興課長。

○産業振興課長（蒲原文崇君） ご質問にお答えいたします。

雇用する従業員の内訳でございますが、事業者によりますと、全員を正規雇用で確保することを目指しながら、採用状況等に応じて一時的にパートタイム雇用で対応する予定であると伺っております。

また、新規雇用者人数につきましては、整備財源である自立・帰還支援雇用創出企業立地補助金の要件としましては、60人の新規雇用が求められております。事業者の責任において、補助要件である60人の新規雇用を確保しつつ、事業の進捗等の状況に応じ、最大128名の雇用が想定されているものでありますので、町としましては、求人に関する支援などの伴走支援に努めてまいりたいと考えております。

○議長（山本幸一郎君） 8番、佐々木茂君。

○8番（佐々木茂君） 今、パートというようにお話をいただきましたけれども、現実的にこの町がふるさとを取り戻すためには、やはり定期雇用、要するにフルタイムで働けるようなやっぱり組織じゃなければ、なかなか人口増加にはつながってこないんだろうという考えを私は持っています。ですから、パートタイムでそこに勤めて、果たしてどのような生活を想像されるのか私にはよく分かりませんが、あまりいい方向ではないような気がしています。

また、次に移りますけれども、3億円以上の資金貸付けが国から行われるんだろうと思いますけれども、復興特区支援利子補給金により実施されるということでもありますけれども、貸倒れリスクをどのように評価しているのか。また、当該事業者が資金返済を滞らせた場合、町民の税金や復興予算にどのような影響が出るのか、事前に想定されている最悪ケースと、その対策について具体的にお答え

ください。

○議長（山本幸一郎君） 産業振興課長。

○産業振興課長（蒲原文崇君） ご質問にお答えいたします。

議員おただしの復興特区支援利子補給金につきましては、事業者が金融機関から融資を受ける際、利子の負担を軽減するため、国から金融機関に直接利子補給がなされる仕組みとなっております。

また、本制度の活用にあたって、事業の評価及びリスク分析等は、融資を行う金融機関が行っておりまして、本事業につきましても金融機関の審査を経て融資が決定されているところでございます。

したがいまして、万が一事業者の返済が滞った場合は、金融機関からの融資を受けて実施する他の民間事業と同様に、金融機関と事業者の間において解決が図られるものでありまして、町として財政的負担や未回収金等が生じることはありません。

以上でございます。

○議長（山本幸一郎君） 8番、佐々木茂君。

○8番（佐々木茂君） この復興協議会の中に、金融シンジケートと言われる組織の中に浪江町が入っているのではないかと考えています。その浪江町がこの金融団の中に入っているのかどうかをお聞きして、答えをいただきたいんですが、もし入っているとしたら浪江町はどういう立ち位置になるのか、それについてもお聞かせいただきたいと思えます。

○議長（山本幸一郎君） 答弁調整のため、暫時休議します。

（午後 1時39分）

○議長（山本幸一郎君） 再開します。

（午後 1時39分）

○議長（山本幸一郎君） 産業振興課長。

○産業振興課長（蒲原文崇君） 今ほど議員からご質問のありました町として貸付者に入っているかという部分については、入っておりません。

以上でございます。

○議長（山本幸一郎君） 8番、佐々木茂君。

○8番（佐々木茂君） ありがとうございます。安心しました。

あと、本事業におきまして、株式会社ブルーミングステーブルスの選定はどのような基準、手続を経たものなのか。あくまでも民からスタートしているかとは思いますが、そういうものがあつたのかどうか。特定の事業者に多額の公的資金や制度的支援が集

中する以上、町が主導して公募、審査、評価のプロセスを設けたのか明確にさせていただきたいと思います。町職員や協議会関係者との間に資本関係や人的関係といった利益相反の懸念は一切ないと断言できるのかどうか、具体的な資料があれば簡単に結構でございますから、ご説明いただきたいと思います。

○議長（山本幸一郎君） 産業振興課長。

○産業振興課長（蒲原文崇君） ご質問にお答えいたします。

繰り返しのご説明となりますが、本事業は民間事業者が実施する事業でありまして、町が事業主体を選定したものではありません。さきに答弁申し上げましたとおり、本事業は新たな雇用創出、交流人口増加や地元産業との連携など、町内の経済波及効果が見込まれること、さらには特定復興再生拠点区域の再生など、民間でありつつも町の復興につながり得る取組として認識しております。

事業の評価に関しましては、本事業の整備財源となっている自立・帰還支援雇用創出企業立地補助金の採択過程において、補助金事務局や国の審査をクリアする必要があるございますし、融資を受けるためには金融機関の審査を受ける必要があるございますので、これらを通して事業の評価を得ているものと考えております。

また、町職員等と本事業との関係でございますが、これまでの事業者との協議や事業化に必要な諸手続において、議員ご懸念の点は確認しておりませんので、問題ないものと考えております。

以上でございます。

○議長（山本幸一郎君） 8番、佐々木茂君。

○8番（佐々木茂君） ちょっと解せないんですが、町でなくて民間事業者の事業だというようなご発言ありましたけれども、実はこの復興推進計画の認定状況というものがありまして、認定番号福島第140号、つまり浪江町復興庁宛てになっているようなホームページになっているのが事実であります。ということは、町が関係してないものを何で民間の代行を行わなくちゃならないのか。あくまでも民間なら民間の活力で民間が頑張ればいいだけの話ではありませんか。そんな仕事に職員の力を注ぐ必要は私はないんだろうと思っています。そんなのはコンサルと請負業者がやればいいだけの話だと、そういうふうに私は思っています。

また、この事業は地域経済の活性化と住民帰還を促すとされているようですが、娯楽・観光施設の建設が帰還をためらう高齢者や子育て世代の実情と本当に一致しているのか。町民に対する説明会、アンケートなども行われているようでありますけれども、方向性が一致しているという客観的な根拠があればご教示いただきたいと思います。

います。

さらに実態と乖離している場合は、町としては軌道修正や再評価を行う仕組みがあるのかどうか、これもお聞きしたいと思います。

○議長（山本幸一郎君） 産業振興課長。

○産業振興課長（蒲原文崇君） ご質問にお答えいたします。

繰り返しの答えとなりますけれども、本事業は民間事業でございまして、町は事業者からまず事業計画を伺った上で、雇用創出の面や地域経済波及効果が期待できる事業と判断し、伴走支援を行っているところでございます。復興計画等に基づき展開される公共事業とは異なるものでございます。また、町の復興には公共事業だけじゃなく、民間の強みを生かした幅広い取組が不可欠だと考えております。

本事業は国の補助金を活用しつつ、民間の力で競走馬育成事業を展開する、まさに民間ならではの取組と考えております。町といたしましては、直接事業内容を修正する立場にありませんが、事業の進捗に合わせ、雇用創出や地域への経済波及等が予定どおり進んでいるかなどを伺いながら、引き続き伴走支援を行っていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（山本幸一郎君） 8番、佐々木茂君。

○8番（佐々木茂君） よろしく申し上げます。

実は私も小出谷バイパストンネルの印鑑を押ささせていただきました。検討させていただきましたけれども、私が議員をやっているということで、私の私有地に対して火薬庫を置きたいという話がありました。しかし、私が議員をやっているということで、贈収賄に値する可能性があるので、お断りさせていただきというような話がありました。横浜のほうで似たようなケースがあったように聞いております。そのうち皆さんにお知らせしたいと思います。

さらに私の記憶の中では、この39ヘクタールの中に田んぼや畑が相当数含まれているやに思っています。帰還困難区域、今、帰還居住区ですかね、そういう区域になるわけでありましてけれども、帰還困難区域における水田等の取引は禁止されていたんじゃないのか確認のため、最後の質問とさせていただきます。

○議長（山本幸一郎君） 答弁調整のため、暫時休議します。

（午後 1時46分）

○議長（山本幸一郎君） 再開します。

（午後 1時48分）

-
- 議長（山本幸一郎君） 農業委員会事務局長。
- 農業委員会事務局長（大浦龍爾君） ご質問にお答えいたします。
帰還困難区域での農地の取引については問題はありません。
以上です。
- 議長（山本幸一郎君） 8番、佐々木茂君。
- 8番（佐々木茂君） 今の答弁で間違いはないんですね。私は農業委員会の方から、帰還困難区域の農地の取引については禁止されているというふうに聞いておりました。また、公共の事業とか、そういう用に供する場合はいいですよということも聞いておりましたので、あえて質問させていただきました。じゃ、そのように理解をこれからもしてよろしいということですね。はい、分かりました。議長、ありがとうございました。
- 以上で終わります。
- 議長（山本幸一郎君） 以上で8番、佐々木茂君の一般質問を終わります。
ここで14時5分まで休憩とします。

（午後 1時49分）

-
- 議長（山本幸一郎君） 再開します。

（午後 2時05分）

◇横 字 史 年 君

- 議長（山本幸一郎君） 1番、横字史年君の質問を許可します。
1番、横字史年君。
[1番 横字史年君登壇]
- 1番（横字史年君） 1番の横字史年でございます。
議長より許可をいただきましたので、一般質問させていただきます。
なお、質問方法としては、通告書に記載のとおり一括質問で行います。
本日は、浪江町が未来に向けてさらに希望を持ち、持続可能な社会を築いていくため、5つの重要事項を町長並びに関係各位にお伺いしたく存じます。
まず第1に、浪江町役場の職員体制と業務効率に関してお伺いします。
他の自治体で生活していた者にとって、浪江町役場の職員の皆様の業務が特殊であるということは、移住をして最初に気づかされる

ことです。東日本大震災以降、住民サービスを提供し、そして同時に原発事故からの復興のために、双葉郡、福島県、そして国と連携してプロジェクトを進める姿には、町民としてもどうか頑張ってほしいという声が多くあります。同時に、多忙を極める職員の方々に対する要望がありつつも、それを伝えることについての遠慮も見られます。

そこで第1に、町長は、各地に分散して勤務する全ての職員に対してどのような訓示や集会、面談を通じて職員の声を拾い、町政運営に反映しているのかお伺いします。

第2に、正職員、臨時職員、そして応援職員の現在の人数はどのようになっているか、それぞれの部署において必要な人員数を満たしているのかお伺いします。

第3に、正職員、臨時職員、応援職員の離職率や平均在職期間についてお伺いします。

第4に、応援職員は、浪江町の業務内容や地域性に不慣れな場合が多いと想定されますが、その中で既存の職員とどのような方針や指導体制の下で連携を図っているのかお伺いします。

第5に、町役場内の業務効率化を進める上で、デジタルトランスフォーメーション、いわゆるDX化の推進は不可欠と考えますが、町としてはその現状をどのように認識し、人材不足や業務効率化をどのように進めているのかお伺いします。

次に、第2の質問事項として、浪江町の公共施設の整備と活用についてお伺いいたします。

町内には多数の公共施設が存在し、今後も新たな施設の建設や居住人口の増加が見込まれる中、それらの施設がどのように整備され、活用されているかが今後の町の発展に大きく関わってまいります。

そこで質問いたします。まず第1に、スポーツ及び文化に関連する施設において、震災以降、町はどのような方針と必要性を持って整備を進めてきたのか。また、今後の展望をどのように描いているのかお伺いします。

第2に、既存の施設における収支状況や維持管理費、利用者数及び利用頻度は町の想定と比してどのような状況にあるのかお伺いします。

第3に、地域スポーツセンターにおいて、休日の当日予約ができないという事例が町民より寄せられておりますが、そのような実態を町としてはどのように認識しておられるのかお伺いします。

第4に、町が所有、管理、もしくは整備しているスポーツ及び文化施設について、町民からの意見や要望をどのような手段で収集し、

それを反映する体制が整っているのかお伺いします。

続いて、第3の質問事項として、なみえ創成小・中学校における教育の在り方について伺います。

小中一貫校であるなみえ創成小・中学校は、町の未来を担う子供たちを育てる重要な教育機関であります。保護者の方々からは、閉塞感、部活動の少なさ、人間関係の固定化など、様々な課題の声が寄せられています。

そこで質問いたします。第1に、小中一貫校の制度に伴う課題や不満について、教育委員会はどのように認識されているのかお伺いします。

第2に、学力に関して、保護者の中には不安の声もありますが、町及び教育委員会として学力の現状をどう捉え、どのような対応をしているのかお伺いします。

第3に、現在、PTAが存在しない中、学校と保護者の意見交換や相互理解はどのように図られているのか、具体的な取組をお伺いします。

第4に、なみえ創成小・中学校の立地や地域性を踏まえた防災教育について、どのような内容をどのような方法で実施しておられるのかお伺いします。

第5に、将来、国際研究学園都市として発展が期待される浪江町において、なみえ創成小・中学校をどのような特色ある教育機関として位置づけ、育てていくお考えをお伺いします。

続いて、第4の質問事項として、浪江町における起業環境の整備についてお伺いします。

復興の先にある持続可能な地域経済の創出には、新たな起業支援と、それを取り巻く環境の整備が不可欠です。

そこで質問いたします。第1に、ナミエシンカにおける移設前後の利用状況及び起業者数、そして具体的にどのような成果があったのか、現時点での評価をお聞かせください。

第2に、ナミエシンカの立地が駅前から現在離れていることについて、利便性や町民の声を踏まえ、今後の配置方針をどのように検討しているのかお伺いいたします。

第3に、旧浪江小学校跡地に計画されている産官学連携施設において、起業者への支援やナミエシンカとの役割の違いはどのように想定されているのでしょうか。両者の連携やすみ分けも含めた方針をお伺いいたします。

第4に、町営住宅や旧浪江小学校跡地など、今後町が整備や管理をしていく施設について、法人登記が可能となるような制度設計や

支援体制は整っているのでしょうか。また、登記可能な場所が不足しているという課題にどう対応していくのか、町の見解をお伺いいたします。

最後に、第5の質問として、新たな財源と森林由来のカーボンクレジットの活用についてお伺いいたします。

脱炭素社会の実現が求められる中で、浪江町に存在する田畑、森林を活用したカーボンクレジットの創出をすることは、浪江町に田畑や森林を所有する方全てにとって新たな収入、もしくは町の財源確保、そして脱炭素目標への貢献と両面で重要な方策であると考えています。

そこで質問いたします。第1に、町が将来的に期待している新たな税収や財源にはどのようなものがあるのかお伺いいたします。

第2に、町における町有林、国などの公有林及び民間所有の森林の面積と町全体に対する割合、さらに帰還困難区域における調査のための民間人の立入りの制限等の状況についてお伺いいたします。

第3に、町として森林由来のカーボンクレジットの創出、もしくは民間所有者へのサポートなどに取り組む方針はあるのか、その可能性と課題についてお伺いいたします。

第4に、帰還困難区域において、森林を活用したカーボンクレジット創出を実施する場合、想定される行政的、もしくは技術的、さらには法的な障害や課題はどのようなものがあるのかお伺いいたします。

以上、町の未来を見据え、町民の声に耳を傾けながら、持続可能で誇れる浪江町をともに築いていくための質問をさせていただきました。町長並びに執行部の誠意あるご答弁を賜りますようお願い申し上げます。私の一般質問を終わらせていただきます。答弁を求めます。

○議長（山本幸一郎君） 町長。

○町長（吉田栄光君） 横字議員のご質問にお答えいたします。

当町では、月初めに全職員を対象とした朝礼を実施しており、ここでは、国・県への要望、意見交換の結果、私自身が考えている復興への思いなどを共有しているところであります。ここでは多様な行政ニーズに対応する職員等の労をねぎらいつつも、ふるさとを再生する一翼を担っているのは間違いなく職員であることを自覚していただいております。

震災前とは比べものにならない事業を抱える当町においては、正職員だけの力で復興を成し遂げることはできず、任期付職員、応援職員、会計年度任用職員など、全ての職員が一丸となって様々な課題を解決していく必要があります。具体的な業務の指示は、所属長

の指示の下で鋭意ご精励いただいておりますが、過度な責任は業務に支障を来すおそれがありますので、職員には精いっぱい業務に取り組んでいただきつつ、全責任は私が持つと常々伝えているところであります。

加えて、全ての職員一人一人、今、震災から15年を迎えて、町民が避難する中での行政サービス含め、業務の遂行、そして、まだまだ時間がかかる復興に挑戦する職員の方々は、私にとって全てが大切な職員であります。

また、昨年度より第2、第4水曜日をノー残業デーとして位置づけ、17時45分までの退庁を積極的に促すなど、職員のワーク・ライフ・バランスの改善の取組を実施しているところであります。

その他の質問は、担当課長より答弁をさせます。

○議長（山本幸一郎君） 総務課長。

○総務課長（戸浪義勝君） それでは、大きな1番の（2）現時点での臨時職員及び応援職員の人数をお伺いしたい。また、それぞれの部署においての必要な定数を充足しているのかお伺いしたいのご質問にお答えをいたします。

令和7年6月時点の会計年度任用職員は88名、他自治体等からの応援職員は50名となっております。会計年度任用職員及び応援職員の方々には様々な部署で幅広くご活躍いただいております。当町の復興は、こうした方々のご支援の下に成り立っているものと理解をしております。それぞれの部署において定数はなく、事業量等を鑑み、人員配置を行っておりますが、復興事業、特に大規模事業や専門的技術を必要とした事業を担当する部署においては、有資格者を中心として人材不足となっております。また、周辺市町村も同様な環境下にあることから、人材確保には苦慮している状況でございます。

続きまして、（3）正職員、臨時職員及び応援職員の離職率、もしくは平均在籍期間をお伺いしたいのご質問にお答えをいたします。

まず、正職員についてお答えをいたします。正職員は令和6年4月現在で177名在籍しており、令和6年度中に退職した職員は6名となり、離職率は約3.4%となっております。また、退職した正職員の平均在籍期間は16年4か月であります。

次に、会計年度任用職員についてお答えをいたします。会計年度任用職員は、令和7年3月時点で75名在籍しており、令和6年度末に退職した職員は8名となり、離職率は10.7%となります。なお、会計年度任用職員は、任用期間が1年度単位となっております。

最後に、応援職員についてお答えをいたします。応援職員は、令和7年3月末現在で55名在籍しており、原則的に応援の期間は2か

年で、派遣元自治体等へ帰任されることとなりますので、離職という形ではないと考えております。

続いて、（４）応援職員にとって従来の勤務先と比べて就業内容や環境も著しく異なり、また地縁関係のない方も多いと予想される。そこで、どのような具体的な指導や方針を持っているかというようなことのご質問にお答えをいたします。

応援職員の方々については、様々なスキームで全国から浪江町の復興を応援するため、慣れない土地での業務にご尽力をいただいております。こうした応援職員の方々には、浪江町を復興するという崇高な精神の下、当町に着任されており、業務に取り組む姿勢は職員としても見習うことが多いところでございます。応援職員の方々の着任時には、町長講話等で町の現状や課題を共有するとともに、町内の現地視察や東京電力第一原子力発電所を見学していただき、原発被災地の生の現状を体感していただいております。

また、所属長の指導の下、正職員と連携して業務に当たっていただいております。また、配属課及び職員共助会において、親睦会等を通じて親睦を図り、職場内外のクラブ活動に参加いただくなど、業務外でも親交を深めているところであります。

続いて、（５）浪江町役場においては、ますます高まる住民サービスの水準と復興を進めるに当たり、人材不足や業務効率化など、諸課題をどのように認識、改善に向けて対応しているかのご質問にお答えをいたします。

議員お示しのとおり、当町におきましても住民ニーズの多様化、大規模復興事業の実施に伴い、人材不足が深刻な問題となっております。さきに答弁したとおり、建築、土木、保健師、保育士の資格職が不足しており、職員採用試験で充足を図っているところですが、全国的な人手不足、働き方改革など様々な要因が複合的に作用していることから、当町としても大きな課題であると認識をしております。職員採用に関しては、採用試験の事前説明会やインターンシップなどを実施し、当町の現状について発信することで、当町に興味を持っていただく機会をつくっております。

こうした状況を踏まえ、当町では少ない人員で効率的に業務が遂行できるように、庁舎内にDX作業部会を立ち上げました。当部会では、業務プロセスを根本的に見直し、慣れない作業業務であってもスムーズな執行ができるような仕組みを検討しているところです。また、窓口に来庁しなくても証明書が発行できるコンビニ交付や、Zoom等を活用したオンライン会議の推奨、タブレットを活用したペーパーレス会議などを実施しており、特にコンビニ交付は窓口

負担の軽減だけではなく、町民の利便性につながっており、町民の皆様からは一定の評価をいただいております。町としてもこうした働き方改善に向けた取組を加速させてまいります。

○議長（山本幸一郎君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（長岡秀樹君） それでは、私のほうから、大きな項目の2番、浪江町の施設について、（1）スポーツ及び文化施設の整備等、今後の展望についてのご質問にお答えいたします。

町では、浪江町復興計画に基づき、生涯学習に取り組める環境の充実により、町民の健康づくりと生きがいを推進するため、スポーツ施設等の整備を進めてまいりました。地域スポーツセンターにつきましては、震災前に整備を進めていきましたが、震災により工事が長らく中断し、平成29年3月の一部避難指示解除前に改修工事を行い、町民の健康増進と多種多様なスポーツ活動の機会を提供する場として、その機能のみならず、災害時の避難所としての活用や、町式典、十日市祭の行事など、町内唯一の体育館として多種多様に利用されてきたところです。

また、生涯学習を通じた交流によるコミュニティ形成を図る場として、令和4年度にはなみえ運動公園の開場、昨年度は町営高瀬野球場を復旧し、再開したところです。現在は、今年度末完成を目指し、請戸地区において交流人口の拡大、町民の健康促進の場として、復興海浜緑地（多目的広場）を整備しているところです。

今後は、町民の健康づくり等を推進するため、既存施設を最大限活用できるよう努めてまいりたいと考えております。

続きまして、（2）スポーツ関連施設の収支と利用者数の町の想定との比較についてのご質問にお答えいたします。

既存スポーツ施設関連の収支についてですが、令和5年度の実績におきましては、地域スポーツセンター使用料などの歳入について232万6,000円となっております。また、歳出につきましては、地域スポーツセンターの維持管理費が主なものとなりますが、4,044万1,046円となっております。

続いて、利用者数についてですが、令和5年度の実績で、地域スポーツセンターにおきましては1万9,548人、なみえ運動公園におきましては2,761人にご利用いただき、新型コロナウイルスの影響により、一定期間利用者数の減少はあったものの、現在は回復傾向にある状況となっております。

次に、町の想定との比較ですが、震災による長期避難等で、現在も特殊な状況下であり、各スポーツ団体等におきましては、部員の確保や世代交代に苦慮している状況となっております。そのため、

各団体とも震災前の活動ができず、利用率が上がらない一因となっております。

今後も町スポーツ協会等とも連携を図りながら、利用者数の確保に努めてまいりたいと考えております。

また、民間事業者のノウハウを活用した指定管理者制の導入について準備しており、サービスの向上と経費削減についても検討しているところです。

次に、(3) 地域スポーツセンターの休日等の当日予約の課題認識についてのご質問にお答えいたします。

地域スポーツセンターの施設の使用につきましては、町スポーツ施設の管理規則において、施設の利用には原則として事前の申請が必要であることと定めておりますが、議員おただしのとおり、利用者の利便性を考えた上では課題として認識しております。

今後の運用に関しましては、管理運営体制の見直しも含め、検討してまいりたいと考えております。

次に、(4) スポーツ及び文化関連施設の住民からの課題改善についてのご質問にお答えいたします。

住民等からの施設の課題収集につきましては、スポーツ団体等の会合等や関係者等の打合せの際に、施設の課題収集等の意見を伺っております。町としても伺った意見を精査しながら、既存施設等の短期、中期、長期の施設の維持管理や、町の個別施設計画を参考に、施設改修等や予算確保などを進めていく考えです。

今後も施設の在り方につきましては、関係者等とコミュニケーションを取りながら、利便性のある施設を運用していく考えです。

○議長（山本幸一郎君） 教育長。

○教育長（笠井淳一君） それでは、なみえ創成小・中学校の教育についてお答えしたいと思います。

まず1点目についてですが、議員のお話の中、保護者の声を踏まえますと、なみえ創成小・中学校が小規模だという、そういうところからの課題なのかなと考えまして、お答えさせていただきます。

まず1点です。なみえ創成小・中学校は、小中学校それぞれが独立しておりまして、併設という形で、同一校舎という中での教育環境の下、基本となる学校の教育目標を同一にしまして、共有しまして、9年間の連続性を考慮しながら教育活動を進めている学校であります。

各学年が少人数ということから、小学校におきましては複数の学年による複式学級、そういう学級編成になるということがまず課題の一つでございます。そのため、複式を解消し、学年単独での授業

が行えるよう、教職員定数以上の教員を配置していただくよう要望し、そのように配置していただいております。

また、その少人数の教育環境を生かしまして、町採用の講師や学習支援員を加え、子に応じたきめ細かな指導を行うとともに、指導充実のため、各校における教職員の研修や、町教育委員会指導主事による研修支援も行っております。

集団での運動や活動などができないこと、また、多様な考えなどに触れ、大人数の中で考えを構築する機会がないことなども課題として挙げられます。そのため、体育や道徳の授業を複数の学年で行うことや、教育活動に応じて、全学年の児童生徒をグループ分けした、いわゆる縦割り班で行うとともに、Z o o mなどのオンラインにより、複数の学校との合同授業も行っております。

このような状況は震災後の当地区に共通したものですので、双葉郡8町村の教育委員会が県教育委員会とも連携し、小学校絆づくり交流会、中高生交流会、また総合的な学習の発表、交流の場としてのふるさと創造学サミットなど、双葉地区全体で交流できる機会も設定しております。

2つ目、学力についての質問にお答えいたします。

各学校においては、全国学力・学習状況調査や福島学力調査等、各種調査の結果を基に、一人一人の状況について課題を明確にし、少人数の教育環境を生かしながら、子に応じた指導の改善に努めております。

各教科に共通している点といたしましては、基礎的な知識、理解について一定程度の定着が図られ、経年の変化におきましても学力の伸びが顕著である学年及び児童生徒の数が徐々に増加している一方、知識を活用して課題を解決する力や考えを的確に表現する力に課題が見られます。

各学校では、知識のより一層の定着と知識を活用する力の育成のため、タブレットを活用したAI教材や問題演習を取り入れるとともに、一人一人に応じた表現力を高める指導や、授業、学校行事等における発表機会を計画的に設けているところであります。

また、今年度より町採用の講師を活用しまして、小学校5、6年生の算数の授業において習熟度別の指導を取り入れ、よりきめ細かな指導を進めております。児童生徒のアンケート結果からは、家庭での学習習慣の定着に個人差が見られることから、学習習慣の確立に向け、学校と家庭との一層の連携を進めることも重要であると考えております。

今後とも児童生徒が自ら学びに向かう態度や探求する力の育成、

向上も含め、学校教育の充実に努めてまいります。

3点目です。どのように保護者の声を吸い上げ、学校の考えを伝えていくかということについてのご質問にお答えいたします。

各学校では、ホームページや学校だより、学級通信等により、日々の教育活動や学校経営の方針等を発信するとともに、テトルというコミュニケーションツールを保護者のスマートフォン等の端末と共有しまして、学校と保護者が直接連絡や相談ができる環境を整えております。また、学校教育についてのアンケートの実施や学期ごとの授業参観後には、小中学校全体及び学級ごとの懇談会、2学期後半には全てのご家庭との教育相談会を実施するとともに、保護者対象の茶話会も開催し、教員やスクールカウンセラー、保健師等を交えながら、子育てについての相談にも応じております。

今後とも保護者との連携、協働を一層進めてまいりたいと考えております。

4点目、防災教育についてのご質問にお答えいたします。

各校ではこれまでも津波などの災害時の心がけなどをまとめた手作りの防災ブックづくり、津波避難経験者からの体験談を聞くこと、また、3月には震災遺構請戸小学校から震災当日に児童が避難した経路を実際に歩くなど、防災意識の向上に取り組んでまいりました。今年度は立命館大学の支援による新たな安全・安心マップづくりや、双葉警察署のご協力による学校や自宅周辺の危険箇所の再確認等も行います。また、夏季休業中には、町教育委員会主催事業の中で、防災教育に係る体験学習も予定しております。訓練につきましては、5月に浪江警察署のご協力の下、こども園とともに地震時想定避難訓練を行い、避難移動と保護者への引渡し訓練も行っております。11月には浪江消防署のご協力の下、火災を想定した避難訓練も予定しております。

今後、引渡し訓練時における安全な避難ルートについて、福島大の地域未来デザインセンターによる検証や助言等をいただき、来年度の避難計画に反映させてまいります。

今後とも関係課、関係機関と連携しながら、防災教育を進めてまいりたいと考えております。

5点目です。特色ある教育についてのご質問にお答えいたします。

各校におきましては、町の国際化への対応と連動しながら、英語教育の推進をはじめ、地域や日本の伝統文化への理解も含めた多様な文化の相互理解等、国際化に対応した教育や、町のゼロカーボンシティ推進を踏まえた環境教育等をより一層進めてまいります。

また、小中学校が一貫して取り組んでいるふるさと創造学におい

て、伝統文化や大堀相馬焼などの伝統産業とともに、水素、ロボット、エフレイの取組など、新たなフィールドも取り入れた学びを進め、町の子ども議会での提案につなげるなど、地域と一体となった探究的な学びを一層進めるとともに、エフレイとの連携により、出前講座や研究者との対話ができる機会を提供していただくことで、児童生徒の将来設計や目標設定等、キャリア教育につながる取組を進めてまいりたいと考えております。

なお、ふるさと創造学とは、震災後、二本松市で避難先再開後から始まったふるさとなみえ科を基に、双葉地区全体で取り組んでいる探究的な学びであり、中学校社会科の教科書でも紹介されているものであります。

今後とも地域の歴史伝統を引き継ぐとともに、町の復興と連動しながら、特色ある教育を一層推進してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（山本幸一郎君） 企画財政課長。

○企画財政課長（吉田厚志君） それでは、浪江町における起業環境について、（１）ナミエシンカにおける利用状況、起業者数のご質問についてお答えをいたします。

ナミエシンカは、令和４年10月より浪江駅東側にて運用しておりましたが、浪江駅周辺整備事業における基盤整備工事の着工に伴い、本年３月末に駅西側のふれあいセンターなみえ敷地内に移設しております。

利用状況でございますが、移設前の昨年４月の利用者数が77人に対しまして、本年４月の利用者数は57人となっております。

また、令和６年度に支援をした起業数につきましては9社ございまして、今年度も同程度の支援を考えておりますが、より多くの方にシンカをご利用いただき、1社でも多く起業支援ができるよう、請負事業者とも連携をしながら、取組を強化してまいりたいと考えております。

続きまして、（２）シンカの立地についてのご質問にお答えをいたします。

ナミエシンカについては、現在ふれあいセンターなみえの敷地内に立地をしておりますが、将来的には令和９年度中に完成予定の駅前交流施設に機能を移管する予定としております。議員おただしのおり、現在ふれあいセンターなみえの駐車場の一部を占有していることから、来場者の利便性を考慮し、同敷地内での再配置を計画をしているところでございます。

なお、トレーラーハウスを活用しておりますことから、トイレが

ついておりませんので、設置場所の選定に当たりましては、公衆トイレと近接していることを条件として場所の選定をしてきたものでございます。

以上です。

○議長（山本幸一郎君） 産業振興課長。

○産業振興課長（蒲原文崇君） （3）産学官連携施設における起業者向け支援について、ナミエシンカとの違いも含めてというご質問にお答えいたします。

産学官連携施設につきましては、町内で新たな産業が長期的に生み出される環境づくりを目的に整備するものでありまして、町内で研究開発等を行う事業者や町内を拠点に活動する大学などの入居を想定しております。一方、ナミエシンカにつきましては、起業をお考えの方や、創業間もない方向けの支援を行い、町内での起業環境づくりと起業をきっかけとして移住・定住につなげることを目的としております。

産学官連携施設における入居者支援体制は、現在検討中ではございますが、議員おただしの起業者向け支援の観点では、ナミエシンカ及びその後機能を移管する予定の駅前交流施設が担い、産学官連携施設では、事業者や大学などの入居者の活動支援及び入居者同士、または入居者と町内事業者などをおつなぎする支援を想定しております。

次に、（4）の法人登記が可能かどうかにつきましてでございます。

こちら産学官連携施設の入居要件等については現在検討中ではございますが、入居された方は法人登記を可能にしたいということで考えております。

以上でございます。

○議長（山本幸一郎君） 住宅水道課長。

○住宅水道課長（金山信一君） 町営住宅に法人登記が可能かについてのご質問にお答えいたします。

公営住宅は、住宅に困窮する低所得者に対して、低廉な家賃で賃貸することにより、国民生活の安定と社会福祉の増進に寄与することを目的とされております。公営住宅の入居者は、当該公営住宅の用途を変更してはならない。ただし、事業主体の承認を得たときは、他の用途に併用することができると規定されております。事業主体が承認できる例といたしましては、身体に障害を持つ方が公営住宅内において、あんま、マッサージ、もしくは指圧、はり、または灸の営業を行うときに限定されており、議員おただしの町営住宅の法

人登記につきましては、浪江町が承認することができないと認識しております。

○議長（山本幸一郎君） 住民課長。

○住民課長（柴野一志君） それでは、5の（1）浪江町として新たな財源として期待している税収はどういった種類で、どのようにして増加させるかのご質問にお答えします。

東日本大震災と原発事故による町全域の避難指示の影響で、大幅な人口減少や、そして、町内で事業活動が行えなくなる等の状況もございまして、町税の中心となる町民税、それから固定資産税においては、条例による減免や法による減額課税を続けてきたため、震災前後における決算額の対比としては著しく減少しております。

町民税については、令和3年度に通常課税を再開したものの、固定資産税についてはいまだに帰還困難区域で課税を再開しておらず、解除された地域においてのみ地方税法による減額課税と条例による減免を適用させながら、急激な負担とならないよう、段階的に通常課税へ移行させているところでございます。

一方で、一部地域での避難指示解除後、事業者の方向けには、福島復興再生特別措置法や東日本大震災復興特別区域法等による課税免除等、税制優遇措置を行っております。

これらで税収が減収するものは、東日本大震災復興特別交付税により財源補填されており、企業、事業者への税制上の優遇措置を行いながら、町内での事業再開や新規の企業立地を進めながら、歳入の確保を図っているところでございます。こちらはひいては雇用の創出や人口の定着、そして増加、または将来的な税収の確保につながるものであると捉えているところでございます。新たな財源、将来的な期待ではございませんが、こういった復興税制等を活用して税収の回復に努めているところでございます。

以上でございます。

○議長（山本幸一郎君） 企画財政課長。

○企画財政課長（吉田厚志君） それでは、ご質問の（2）浪江町における森林の面積、そして立入り制限についてのご質問にお答えをいたします。

当町の総面積は223.14平方キロメートルで、うち森林の面積は163.52平方キロメートルとなっております、町の総面積に占める森林の割合は73.3%となっております。

森林のうち国有林の面積は118.92平方キロメートルで、町の面積に占める割合の約53.3%となっております。

浪江町財産区の森林面積は0.79平方キロメートル、財産区以外の

公有林の森林面積は0.72平方キロメートルで、合計しますと1.51平方キロメートルとなっており、町の面積に占める割合は約0.7%程度となっております。

民有林の面積でございますが、43.09平方キロメートルで、町の面積に占める割合の約19.3%となっております。

また、当町の帰還困難区域に占める森林の面積は154.77平方キロメートルで、町の面積に占める割合は69.36%となっております。

帰還困難区域の立入りにつきましては、現在立ち入りが制限されておりまして、個人または公益の目的についても国が運営する一時立入りコールセンターへの申請により、通行証の交付を受ける必要がございます。

以上です。

○議長（山本幸一郎君） 農林水産課長。

○農林水産課長（大浦龍爾君） それでは、（3）森林由来のカーボンクレジットについて、町として創出を考えているかのご質問にお答えいたします。

広大な森林を有し、ゼロカーボンシティを掲げている当町において、将来的に森林J-クレジット制度の活用を検討していくことは必要だと考えてございます。他方、森林J-クレジット制度は、森林法に基づく森林経営計画に沿って適切に施業されている森林が対象となりまして、クレジット創出の主体は森林所有者や管理者となります。現在、町内の森林整備については、主に福島森林再生事業を活用して、自身での森林整備、管理が難しい森林所有者に代わり、町が森林整備を行っておりますが、J-クレジットの認定条件でもある森林経営計画に基づく施業とは異なるため、直ちに森林J-クレジットの活用は難しい状況でございます。

今後、適正な森林管理の方法等について、検討を深めつつ、森林J-クレジットの活用についても研究してまいります。

なお、農業分野におきましては、令和6年度より町内の生産法人が水田における中干し延長によるクレジット創出に取り組んでおるところでございます。町といたしましても、町内の先進的な取組の普及拡大を図って、農業における脱炭素と生産者の追加収入確保を目指すために、本年1月には生産者向けの説明会を行わせていただいたところでございます。

令和7年度においてもその取組を継続し、中干し延長による脱炭素の効果やクレジットの取引状況などを広く生産者の方に周知を図ることを予定してございます。

続きまして、（4）帰還困難区域において、森林由来のカーボン

クレジット創出などを進めることについての課題や障害のご質問にお答えをいたします。

課題は大きく2点ございます。1点目は、帰還困難区域への森林整備自体が現時点では行えないことでございます。こちらにつきましては、林野庁において帰還困難区域への森林整備を進めるため、令和7年度中に作業中の被曝を抑えるためのガイドラインを策定予定としていることから、今後帰還困難区域への森林整備が少しずつ再開できる環境に移行していくものと考えてございます。

2点目でございます。帰還困難区域での森林整備が可能となった場合でも、直ちに森林所有者や管理者が森林経営計画に基づいて、自身で保全管理する体制に移行するのは難しいということでございます。こちらについては、現在の避難指示解除区域への森林整備と同様のプロセスをたどっていくものと想定しておりますが、状況や環境の変化等を踏まえながら、将来的に森林由来のクレジット価値を森林所有者や管理者に還元できる取組を模索してまいりたいと考えてございます。

以上です。

○議長（山本幸一郎君） 1番、横字史年君。

○1番（横字史年君） 再質問をいたします。

では、まず第1の2、正職員、臨時職員、そして応援職員等の人数と、あと必要な人員数を満たしているのかに関連した再質問をいたします。

こちら特に専門職員等が地域全体でも不足しており、実質取り合いになってしまっている状況なのかなと思案いたします。その上で、少し説明ありましたけれども、具体的にどのような方法で、ただでさえほかの地域でも人材が不足されている専門職員をリクルートしようとしていたのか、募集していたのか、具体的な内容をお伺いいたします。

次に、1の5、町内の業務効率化、DX化について再質問いたします。

こちら、DX化のための作業部会があるとのこと、答弁いただきました。こちらについて、実際に作業部会はどのようなもので、つまりどのような構成員で、そして、どの程度の頻度でDX化を進められているのか具体的にお伺いしたいです。

続きまして、2番目の質問事項の2の3、地域スポーツセンターの休日の当日予約ができないということについて再質問いたします。

こちら、まず事情を認識されているとのこと、理解いたしました。その上で、そもそも利用者数が少ない、人口が回復していないとい

う答弁がありましたけれども、まずはその使いやすさを最大限に向上させた上で、なるべく多く使ってもらう。結果的に利用料などが安定して支払われて、維持管理が楽になるのではないのでしょうか。つきましては、住民の施設の使いやすさですね、それについてどのような優先順位で考えていらっしゃるのかお伺いしたいです。

次に、3の1、教育において、学力に関して保護者の不安があるということについて再質問いたします。

確かに学校だけでなく、家庭での学習が重要というのはそのとおりだと思います。ただ、家庭といっても様々な事情、千差万別だと思いますので、やはり学校が教育の中心であるべきではないかなと思うのですが、それについてお伺いいたします。

そして、同じく教育に関する3の3、PTAが存在しない中、学校と保護者の意見交換についてなんですけれども、様々な方法で学校と保護者が連携をしていることが確認できました。こういった内容は私のヒアリングではあまり出てこなかったものにつきまして、いつから、例えばテトルですとか、そういったアンケート等を行っているのか。震災以降始めたものなのかなどをお伺いしたいと思っています。

続きまして、4の4、実際に町営住宅等や旧浪江小学校跡地などの施設で法人登記可能かという質問に関してなんですけれども、こちら、登記可能な場所が不足しているという課題についてどう対応していくのか。今現在不足している状況に対してどう対応していくのかという質問に関してお答えをいただいていないと思いますので、質問いたします。

以上、答弁を求めます。

○議長（山本幸一郎君） 総務課長。

○総務課長（戸浪義勝君） それでは、再質問の大きな1番の（2）専門職の不足の関係でございますけれども、どのような手法で募集されているかということでございますが、通常は定期の採用について、土木、建築の専門技師について募集をしているところでございます。こちら、なかなか応募される方もいらいらっしゃらないということで、長年空いているところでございます。

ただ、傾向につきましては、県とか、他自治体の応援職員を募集するに当たっても、どこの自治体でもその専門職自体が不足しているので、当町へ派遣することがなかなかできないというようなことでのご意見もいただいておりますので、そのような形となっております。

また、継続的にこれからも、先ほど保健師とかお答えさせていた

だきましたが、人員不足については新卒及び社会人枠も含めて今後も継続して採用の枠を持っていきたいと思っております。

以上です。

○議長（山本幸一郎君） 暫時休議します。

（午後 2時54分）

○議長（山本幸一郎君） 再開します。

（午後 2時55分）

○議長（山本幸一郎君） 企画財政課長。

○企画財政課長（吉田厚志君） それでは、DXの体制についてのご質問にお答えをいたします。

まず、浪江町DX推進本部という体制ですが、町長を本部長として、山本副町長を最高デジタル責任者としまして、補佐官として外部民間の方に補佐官をお願いをしております。その下にDX推進員として各課等の長が推進員として入っております。その下に作業部会ということがございまして、令和6年度の実績で言いますと、年4回程度開催をしております。今年度、7年度につきましても、既に一度は開催しているんですが、同じく年4回程度の開催を予定して、DXの推進を図ってまいる予定としておるところでございます。

以上です。

○議長（山本幸一郎君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（長岡秀樹君） それでは、3番の使いやすさを向上させる優先順位についてのご質問にお答えします。

スポーツ施設につきましては、開所当時につきましては、スポーツ団体の育成と利用率の向上を図るため、利用料については減免をしているところでございます。令和4年度まで減免をしていた経過となっております。

また、今後の施設の使いやすさにつきましてはですが、先ほどもご説明いたしましたが、今後の運用に関しましては、指定管理者の導入も検討しており、指定管理者を導入すれば、利用率の向上につながるのではないかと考えておるところです。

以上です。

○議長（山本幸一郎君） 教育長。

○教育長（笠井淳一君） なみえ創成小・中学校の教育、2点目の学力についてのご質問にお答えいたします。

確かに教員の資質向上、これが児童生徒の学力向上には欠かせません。各学校では校長が毎日各授業を少しずつではありますけれど

も、回しまして、助言等を行うとともに、いわゆる現職教育という仕組みがございまして、授業を見てもらったり、各ベテランの先生から指導をもらったり、また、教育事務所、先ほどは町の教育委員会の指導主事の助言というのもありましたけれども、教育事務所や県の教育委員会の指導主事なども要請して、指導に当たっているところではございます。また、学校外、教育センターを含め、ほかの先進的な学校への研修視察なども積極的に進めているところであります。

そして、家庭での学習ということでございますけれども、タブレット、これは先ほど言いましたように、AI教材、これは一人一人の理解の程度に応じた問題などが繰り返し何度も取り組むことができます。そういったAI教材を基にしたタブレットを家庭に持って行って、子供たちは自分の力でそれぞれの理解の程度に応じた学びを進めることができるようになっております。そういったところを保護者の方とも連携しながら進めていければなと思っております。

3つ目です。PTAが存在しない中でのことですけれども、テトルにつきましましては3年目の運用となっております。また、アンケートにつきましましては開設当時から行っているところであります。それぞれのお声、いわゆる数値的なことでの回答をいただくものと、それから記述的なもので回答いただくものを踏まえながら、次年度の教育計画に反映することとしております。

以上でございます。

○議長（山本幸一郎君） 産業振興課長。

○産業振興課長（蒲原文崇君） 大きな4番の（4）法人登記のできる施設についてのご質問についてお答えをいたします。

こちらについては議員おただしのとおり、多くの方々からそういったニーズがあるというのを伺っているところでございまして、それに伴いまして、今回、産学官連携施設を整備するという計画の上、今進めているところでございます。

産学官連携施設につきましましては、早ければ来年度中には整備が整うということになりますので、その段階では法人登記ができるような事務所ができるということで進めているところでございます。

以上でございます。

○議長（山本幸一郎君） 1番、横字史年君。

○1番（横字史年君） 再々質問させていただきます。

まず、1の5、DX化についての頻度について答弁いただきました。年4回行っているということで、今年度も既に1回行ったということで、どのような内容を実際に作業部会で話されているのかに

ついて答弁を求めます。

次に、2の3、教育に関して、現在PTAが存在しない中、学校と保護者の意見交換がどのように行えているかについての再々質問です。

こちら、3年目の運用ということで、少し保護者の方も学校も慣れてきているのかなと思います。実際にテトルのような先進的な組がある中で、それにもかかわらず、学校と保護者の間で距離があるというような声を実際いただきました、つきましては、例えばテトルの運用等がどのように、健全にされているのか等の見直しとか改善とか管理、そういったものについてはどのように教育委員会ではしているのでしょうか。

以上、答弁を求めます。

○議長（山本幸一郎君） 企画財政課長。

○企画財政課長（吉田厚志君） DX作業部会の会議の中身のご質問にお答えいたします。

DX推進計画におきまして3つの柱がございまして、その下に16の取り組むべき事業というものをひもづけております。この16のうち15事業がほとんど業務の行政DXに関わるもの、いわゆる窓口業務とか、そういったものの効率化、そして省力化、そして質の向上というものに当たっているもので、こちらのほうを主に窓口のほうをどうやったらそういった効率化ができるか、そういうものを主にやっているものでございます。そのほか実際コンビニ交付なども始まっていますので、そういった実績の共有や、あとは7年度初回でしたので、年間スケジュール、そういったものを共有をさせていただきました。

○議長（山本幸一郎君） 教育長。

○教育長（笠井淳一君） 再々質問にお答えいたします。

テトルは緊急のときの斉配信などが非常に有効となっております。過日行われました避難訓練の際も、引渡し訓練のときに、今このような状況ですというのを斉配信することができます。また、保護者の声を拾い上げるという点でも、保護者が学校へ声を届ける上でハードルが下がるよう、気軽に声を届けることができるようお伝えしておりますし、また、学校だよりもコメントを書く欄を設けて、保護者の声をいろんなチャンネルを通して集めようとしているところではあります。

以上でございます。

○1番（横字史年君） 私からの質問は以上です。

○議長（山本幸一郎君） 以上で1番、横字史年君の一般質問を終わり

ます。

◎散会の宣告

○議長（山本幸一郎君） 以上で本日の日程は全部終了しました。
本日はこれで散会します。

（午後 3時04分）

6 月 定 例 町 議 会

(第 2 号)

令和7年浪江町議会6月定例会

議事日程(第2号)

令和7年6月11日(水曜日)午前9時開議

日程第1	請願・陳情の付託	
日程第2	議案第35号	浪江町企業版ふるさと納税基金条例の制定について
日程第3	議案第36号	請戸川さけ放流施設の設置及び管理に関する条例の制定について
日程第4	議案第37号	浪江町復興海浜緑地(多目的広場)の設置及び管理に関する条例の制定について
日程第5	議案第38号	浪江町水道事業給水条例の一部改正について
日程第6	議案第39号	浪江町下水道条例の一部改正について
日程第7	議案第40号	浪江町スポーツ施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について
日程第8	議案第41号	工事請負契約の締結について(交流・関係人口拡大推進拠点施設(福島いこいの村なみえ)整備工事(建築工事))
日程第9	議案第42号	工事請負契約の締結について(交流・関係人口拡大推進拠点施設(福島いこいの村なみえ)整備工事(機械設備工事))
日程第10	議案第43号	工事請負契約の締結について(交流・関係人口拡大推進拠点施設(福島いこいの村なみえ)整備工事(電気設備工事))
日程第11	議案第44号	工事請負契約の締結について(畜産施設敷地外構工事)
日程第12	議案第45号	工事請負契約の締結について(麦ノ沢ため池環境保全整備工事(再対策))
日程第13	議案第46号	工事請負契約の締結について(山田ため池環境保全整備工事(再対策))
日程第14	議案第47号	工事請負契約の締結について(堤上第2ため池環境保全整備工事(再対策))
日程第15	議案第48号	工事請負契約の締結について(さけ採捕施設基礎ブロック製作工事)
日程第16	議案第49号	工事請負契約の締結について(橋梁補修工

		事（谷津田橋）
日程第 1 7	議案第 5 0 号	工事請負契約の締結について（R 7 年度町道修繕事業（特定復興再生拠点区域内））
日程第 1 8	議案第 5 1 号	物品購入契約の締結について（避難所における炊出し用備品購入）
日程第 1 9	議案第 5 2 号	物品購入契約の締結について（宅地用除草剤購入（単価契約））
日程第 2 0	議案第 5 3 号	工事請負契約の変更について（棚塩 R E 1 0 0 産業団地造成工事）
日程第 2 1	議案第 5 4 号	浪江町道路線の廃止について
日程第 2 2	議案第 5 5 号	令和 7 年度浪江町一般会計補正予算（第 1 号）
日程第 2 3	議案第 5 6 号	令和 7 年度浪江町水道事業会計補正予算（第 1 号）
日程第 2 4	報告第 1 号	令和 6 年度浪江町一般会計継続費繰越計算書について
日程第 2 5	報告第 2 号	令和 6 年度浪江町一般会計繰越明許費繰越計算書について
日程第 2 6	報告第 3 号	令和 6 年度浪江町水道事業会計継続費繰越計算書について
日程第 2 7	報告第 4 号	令和 6 年度浪江町水道事業会計予算繰越計算書について
日程第 2 8	同意第 2 号	教育委員会教育長の任命について
日程第 2 9	同意第 3 号	苅野財産区管理会委員の選任について
日程第 3 0	同意第 4 号	津島財産区管理会委員の選任について
日程第 3 1	同意第 5 号	浪江町固定資産評価審査委員会委員の選任について

出席議員（12名）

1 番	横 字 史 年 君	2 番	佐 藤 勝 伸 君
3 番	鈴 木 幸 治 君	4 番	山 本 幸 一 郎 君
5 番	紺 野 豊 君	6 番	武 藤 晴 男 君
7 番	紺 野 則 夫 君	8 番	佐々木 茂 君
9 番	佐々木 勇 治 君	10 番	半 谷 正 夫 君
11 番	松 田 孝 司 君	12 番	平 本 佳 司 君

欠席議員（なし）

地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町	吉 田 栄 光 君	副 町 長	山 本 邦 一 君
副 町 長	成 井 祥 君	教 育 長	笠 井 淳 一 君
代 表 監 査 委 員 長	宮 口 勝 美 君	総 務 課 長 兼 選 挙 管 理 委 員 会 書 記 長	戸 浪 義 勝 君
企 画 財 政 課 長	吉 田 厚 志 君	住 民 課 長	柴 野 一 志 君
産 業 振 興 課 長	蒲 原 文 崇 君	農 林 水 産 課 長 兼 農 業 委 員 会 事 務 局 長	大 浦 龍 爾 君
住 宅 水 道 課 長	金 山 信 一 君	建 設 課 長	宮 林 薫 君
市 街 地 整 備 課 長	今 野 裕 仁 君	健 康 保 険 課 長	松 本 幸 夫 君
浪 江 診 療 所 事 務 長 兼 仮 設 津 島 診 療 所 事 務 長	中 野 隆 幸 君	介 護 福 祉 課 長	木 村 順 一 君
会 計 管 理 者 兼 出 納 室 長 兼 津 島 支 所 長	西 健 一 君	教 育 総 務 課 長	鈴 木 清 水 君
生 涯 学 習 課 長 兼 浪 江 町 公 民 館 長 兼 浪 江 町 図 書 館 長	岡 秀 樹 君		

職務のため出席した者の職氏名

事	務	局	長	次	今	野	長	一	君
		中	野				雄		
書			記						
		岡	本						
			ち						
			り						
			君						

◎開議の宣告

- 議長（山本幸一郎君） おはようございます。
ただいまの出席議員数は12人であります。
定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。
(午前 9時00分)
-

◎議事日程の報告

- 議長（山本幸一郎君） 本日の議事日程は、タブレット端末の格納のとおりです。
-

◎請願・陳情の付託

- 議長（山本幸一郎君） 日程第1、請願・陳情の付託を行います。
今期定例会において受理した陳情1件は、会議規則第95条の規定により、タブレット端末に格納した請願・陳情文書表のとおり所管の常任委員会に付託します。
なお、所管の常任委員会は、会期中に審議の上、議長宛てに報告願います。
-

◎議案第35号から同意第5号の一括上程、説明

- 議長（山本幸一郎君） お諮りします。日程第2、議案第35号 浪江町企業版ふるさと納税基金条例の制定についてから日程第31、同意第5号 浪江町固定資産評価審査委員会委員の選任についてまでを一括議題としたいと思います。ご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

- 議長（山本幸一郎君） 異議なしと認めます。
よって、日程第2、議案第35号から日程第31、同意第5号までを一括議題といたします。
日程第2、議案第35号 浪江町企業版ふるさと納税基金条例の制定についてを議題とします。
提案理由の説明を求めます。
町長。

- 町長（吉田栄光君） おはようございます。
議案第35号 浪江町企業版ふるさと納税基金条例の制定についてをご説明いたします。
本案は、地域再生法第5条第4項第2号に規定するまち・ひと・しごと創生寄附活用事業に要する資金を積み立てる基金を設置するため、浪江町企業版ふるさと納税基金条例を制定するものでありま

す。

詳細については、企画財政課長に説明をさせます。

○議長（山本幸一郎君） 企画財政課長。

○企画財政課長（吉田厚志君） それでは、議案第35号資料によりご説明をさせていただきます。

議案集の6ページをご覧ください。

1、制定の趣旨でございますが、地域再生法第5条第4項第2号に規定するまち・ひと・しごと創生寄附活用事業に要する資金を積み立てる基金を設置するため、浪江町企業版ふるさと納税基金条例を制定するものでございます。

企業版ふるさと納税を活用して頂いた金員は、寄附を頂いた年度内に使い切るということが原則となっております。今回基金化をすることにより、年度末の駆け込みでの寄附や多額の寄附申込みなどあった際に基金への積立てを行い、複数年にわたり活用することが可能となります。

町はゼロカーボン推進、水素利活用、駅西を含む駅周辺整備事業など、複数年にわたり財政支出を伴う大型事業を予定しておりますので、基金化することによって寄附を有効に活用することを目的として条例を制定するものでございます。

2、主な規定の内容でございます。

第2条については基金への積立てに関する規定、第3条は基金の管理に関する規定、第4条につきましては基金の処分に関する規定、第5条につきましては基金から生ずる益金の処理に関する規定、第7条につきましては委任に関する規定をしております。

3、施行期日でございます。

この条例は公布の日から施行する。

説明は以上でございます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（山本幸一郎君） 日程第3、議案第36号 請戸川さけ放流施設の設置及び管理に関する条例の制定についてを議題とします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 議案第36号 請戸川さけ放流施設の設置及び管理に関する条例の制定についてご説明をいたします。

本案は、地域に水産業の振興とさけ資源増大を図るとともに、さけふ化等技術を次世代へ継承し、地域観光資源の開発と情報発信していくことによる地域活性化を目的とし、請戸川さけ放流施設を設置及び管理するため、条例の制定を行うものであります。

詳細については、農林水産課長より説明をさせます。

○議長（山本幸一郎君） 農林水産課長。

○農林水産課長（大浦龍爾君） それでは、議案第36号につきまして議案書によりご説明申し上げます。

議案集10ページの資料1をご覧ください。

1ポツの趣旨であります。

請戸川さけ放流施設の整備に伴い、施設の設置及び管理について必要な事項を定めるため、本条例の制定を行うものでございます。

2ポツ、主な内容でございます。

まず、第1条におきまして設置の目的、放流施設を設置することで地域の水産業振興とさけ資源増大を図るとともに、さけふ化等技術を次世代へ継承し、地域観光資源の開発及び情報発信を通じて、地域活性化に資する事業を行うことを目的とするものです。

続きまして、（2）第2条では、放流施設の構成について規定しておりまして、（1）がさけふ化施設、2つ目がさけふ化施設用ポンプ場、（3）が漁具倉庫、4つ目がさけ採捕施設の4つの施設を記載してございます。

続きまして、（3）第3条、放流施設の位置ということで、後ほど位置図にてご説明申し上げますが、第2条で規定した各施設の所在地を記載してございます。

（4）放流施設が行う事業ということで、第4条に規定してございまして、さけに係る事業を記載してございます。

続きまして、（5）第5条から7条においては、使用の許可と制限並びに取消しについて記載してございます。

次のページをご覧ください。

（6）第8条でございまして、使用権の譲渡等の禁止について記載してございます。

（7）第9条につきましては、指定管理者による管理についての記載、そして（8）第10条において、指定管理者が行う業務について記載してございます。

3ポツの施行期日でございまして、この条例は、公布の日から施行する。ただし、将来施設に係る第2条第4号及び第3条第4号の規定については、規則で定める日から施行するというもので、こちら、各条項でうたっているものはさけ採捕施設で、こちらについてはまた完成後に施行するという形でございます。

次のページ、資料2をご覧ください。

こちら今回の条例で制定する設置施設の位置図でございまして、さけふ化施設、さけふ化施設用ポンプ施設については、浪江町内の

小野田地内、この図面でいうと中央辺りに位置してございます。続いて、漁具倉庫とさけの採捕施設につきましては、北幾世橋荒井、この地図でいうと右側に位置してございます。

次のページをご覧ください。

資料3でございますが、請戸川さけ放流施設の主な施設の写真でございます。さけふ化施設の全景等をご覧くださいいただければと存じます。

次のページ、資料4をご覧ください。

こちらは請戸川さけ放流施設、漁具倉庫の写真になってございます。

ご説明は以上となります。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（山本幸一郎君） 日程第4、議案第37号 浪江町復興海浜緑地（多目的広場）の設置及び管理に関する条例の制定についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 議案第37号 浪江町復興海浜緑地（多目的広場）の設置及び管理に関する条例の制定についてご説明をいたします。

本案は、浪江町復興海浜緑地（多目的広場）の整備に伴い、施設の設置及び管理について必要な事項を定めるため、条例の制定を行うものであります。

詳細については、生涯学習課長より説明をさせます。

○議長（山本幸一郎君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（長岡秀樹君） それでは、議案第37号についてご説明いたします。

議案資料20ページをお開きください。

1、制定の趣旨でございます。

浪江町復興海浜緑地（多目的広場）の整備に伴い、施設の設置及び管理について必要な事項を定めるため、条例の制定を行うものとなります。

2、主な内容。

第1条は、施設の設置目的として、交流人口の拡大及び健康づくりなど、にぎわいあふれる交流の場として活用するとともに、災害時において防災活動拠点として活用することを目的としております。

第2条は、施設の名称を多目的広場、施設の位置を浪江町大字請戸字御壇ノ西及び持平地内に置くことを規定しております。

第3条は、施設においてパークゴルフ施設、管理棟、屋根つき広場、ふれあい広場、その他関連附帯施設を置くことを規定しており

ます。

第4条は、多目的広場の業務について規定しております。

次ページをお開きください。

第5条は、開場時間及び休場日について、別に教育委員会規則で定めることを規定しております。

第6条は、使用許可について、あらかじめ教育長の許可が必要となることを規定しております。

第7条は、使用許可の制限として使用を許可しない場合について規定しております。

第8条は、使用許可を受けた使用者に対する使用許可の取消し、または使用の中止について規定しております。

第9条は、使用者が施設の使用権を他人に譲渡し、または転貸しを禁じることを規定しております。

第10条は、使用者が施設の使用終了または使用許可の取消し、中止を命じられた場合の施設の設備の原状回復義務について規定しております。

次ページをお開きください。

第11条は、賠償責任に関する規定で、故意または過失により施設設備等を滅失または毀損した者は、その損害を賠償し、または原状に回復しなければならないことを規定しております。

第12条は、使用料について規定しており、別表の使用料を前納することを規定しております。

第13条は、使用料の減免について教育委員会規則で定めることを規定しております。

第14条は、指定管理者に多目的広場の管理を行わせることができることを規定しております。また、指定管理者が必要に応じ、開場時間等を変更することができることを規定しております。

第15条は、指定管理者が管理を行う場合において行う業務について規定しております。

第16条は、指定管理者は施設の設置目的の範囲内であらかじめ町長の許可を受け、自主事業が行うことができることを規定しております。

次ページをお開きください。

第17条は、指定管理者に管理を行わせる場合の利用料については、別表に定める額に消費税相当額を加算した額を上限とすることができる。また、利用料金については指定管理者の収入とすることを規定しております。別表につきましては18ページと19ページとなっておりますので、後ほど確認を願います。

第18条は、この条例の施行に関し必要な事項は教育委員会規則で定めることを規定しております。

別表第12条関係となります。

別表第12条で規定している使用料については、（１）基本使用料として、パークゴルフ施設、管理棟、会議室、屋根つき広場及びふれあい広場の使用料を定めております。また、備考には使用者が入場者から入場料を徴収する場合は、この表の10割に相当する額を徴収する、また開場時間以外に使用する場合は、使用料の4分の1に相当する額を徴収することを規定しております。

（２）につきましては、設備等の使用料として、放送設備、パークゴルフクラブ、ボール、照明設備、屋根つき広場、持込み電気器具の使用料について規定しております。

（３）については、営利等の目的により多目的広場の一部を使用する場合の使用料について規定しております。

３、施行期日等。

この条例は教育委員会規則で定める日から施行する。ただし、第14条第1項の規定は公布の日から施行するものとなります。

次ページをお開きください。

（２）指定管理者の指定の手続は、この条例の施行の前においても行うことができることを規定しております。

説明は以上です。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（山本幸一郎君） 日程第5、議案第38号 浪江町水道事業給水条例の一部改正についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 議案第38号 浪江町水道事業給水条例の一部改正についてご説明をいたします。

本案は、当町が、災害、その他非常の場合において、ほかの地方公共団体の長が指定した給水装置工事事業者による工事を可能とするため、所要の改正を行うものであります。

詳細については、住宅水道課長より説明をさせます。

○議長（山本幸一郎君） 住宅水道課長。

○住宅水道課長（金山信一君） 議案集26ページをお開きください。

議案第38号資料によりご説明いたします。

２、主な改正内容です。第7条第1項に、災害、その他非常の場合における取扱いについてのただし書を加えるものでございます。

３、施行期日です。この条例は公布の日から施行するものです。

次ページに新旧対照表がございますので、後ほどご覧ください。

説明は以上でございます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（山本幸一郎君） 日程第6、議案第39号 浪江町下水道条例の一部改正についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 議案第39号 浪江町下水道条例の一部改正についてご説明をいたします。

本案は、当町が、災害、その他非常の場合において、他の地方公共団体の長が指定した排水設備工事店による工事を可能にするため、所要の改正を行うものであります。

詳細については、住宅水道課長より説明をさせます。

○議長（山本幸一郎君） 住宅水道課長。

○住宅水道課長（金山信一君） 議案集29ページをお開きください。

議案第39号資料により説明いたします。

2、主な改正内容です。第6条第1項に、災害、その他非常の場合における取扱いについてのただし書を加えるものでございます。

3、施行期日です。この条例は公布の日から施行するものです。

次ページに新旧対照表がございますので、後ほどご覧ください。

説明は以上でございます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（山本幸一郎君） 日程第7、議案第40号 浪江町スポーツ施設の設置及び管理に関する条例の一部改正についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 議案第40号 浪江町スポーツ施設の設置及び管理に関する条例の一部改正についてご説明をいたします。

本案は、スポーツ施設において指定管理者制度を導入する等のため、所要の改正を行うものであります。

詳細については、生涯学習課長より説明をさせます。

○議長（山本幸一郎君） 生涯学習課長。

○生涯学習課長（長岡秀樹君） それでは、議案資料よりご説明いたします。

39ページをお開きください。

改正の趣旨でございます。

改正の主な内容ですが、浪江町スポーツ施設の管理運営について、指定管理者制度を適用させるために必要な事項を定めるため、条例

の一部を改正するものとなります。

2、主な改正の内容についてです。

第4条は、浪江町スポーツ施設の開場時間及び休場日について、教育委員会規則で定めることを追加しております。

第7条は、スポーツ施設の使用料についての改正となります。

46ページをお開きください。

新旧対照表となります。

別表第2は、浪江町地域スポーツセンター及びなみえ運動公園を除く浪江町スポーツ施設使用料を町営野球場の使用料に改正しております。

次に、別表第3は、浪江町地域スポーツセンター使用料を町営幾世橋グラウンドの使用料に改正しております。

次に、52ページをお開きください。

別表第4については、なみえ運動公園の使用料を町営高瀬野球場の使用料に改正しております。

54ページをお開きください。

別表第5については、町営加倉運動公園の使用料について規定しております。

次に、別表第6については、町営津島総合グラウンドの使用料について規定しております。

55ページをお開きください。

別表第7については、なみえ運動公園の使用料について規定しております。

57ページをお開きください。

別表第8については、浪江町地域スポーツセンターの使用料について規定しております。

40ページにお戻りください。

第13条は、浪江町スポーツ施設の管理について、指定管理者による管理を行わせることもできることを規定しております。また、指定管理者に管理を行わせる場合、教育長の承認を受けて、開場時間、または休場日を変更することができることを規定しております。

次ページをお開きください。

第14条は、指定管理者が管理を行う場合の業務の範囲について規定しております。

第15条は、指定管理者が管理を行う場合、施設の設置目的の範囲内で自主事業ができることを規定しております。

第16条は、指定管理者に管理を行わせる場合の利用料については、別表に定める額に消費税相当額を加算した額を上限とすることがで

きることを規定しております。また、利用料金については、指定管理者の収入とすることを規定しております。

3、施行期日等。

(1) 施行日等でございますが、公布の日から施行する。

(2) 浪江町スポーツ施設のうち休止している町営野球場、幾世橋グラウンド、加倉運動公園、津島総合グラウンドについては、当面の間、休止施設とすることとしております。

説明は以上です。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（山本幸一郎君） 説明中の私語は慎んでください。

日程第8、議案第41号 工事請負契約の締結について（交流・関係人口拡大推進拠点施設（福島いこいの村なみえ）整備工事（建築工事））を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 議案第41号 工事請負契約の締結についてご説明いたします。

本案は、交流・関係人口拡大推進拠点施設（福島いこいの村なみえ）整備工事（建築工事）について、地方自治法第234条第1項の規定による指名競争入札により落札者となった株式会社泉田組、代表取締役、泉田征慶と契約を締結するに当たり、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に基づき、議会の議決を求めるものであります。

詳細については、産業振興課長より説明をさせます。

○議長（山本幸一郎君） 産業振興課長。

○産業振興課長（蒲原文崇君） それでは、議案書によりご説明いたします。

62ページをお開きください。

1、契約の目的、交流・関係人口拡大推進拠点施設（福島いこいの村なみえ）整備工事（建築工事）。

2、施工箇所、浪江町大字高瀬字丈六地内。

3、契約の方法、指名競争入札。

4、契約金額、1億7,930万円、うち取引に係る消費税及び地方消費税の額1,630万円。

5、契約の相手方、福島県双葉郡浪江町大字権現堂字上蔵役目17番地1、株式会社泉田組、代表取締役、泉田征慶。

6、工期、議会の議決を得た日から令和8年3月22日となっております。

ページ右側の資料1をご覧ください。

今回の整備箇所は、いこいの村本館、図面で網かけとなっている部分でございます。

次のページをお開きください。

資料2、左側の図面が改修範囲となります。2階から4階の廊下、各宿泊部屋の改修、それから5階のテントハウスの改修が黒の網かけで図示している箇所、そして緑で網かけしている箇所がベランダや屋上の防水改修を行う場所となっております。

資料3、右側の図面が改修前の宿泊部屋の平面図となっております。

次のページをお開きください。

資料4が、改修後の宿泊部屋の平面図であります。基本的に改修前と部屋の大きさは変わっておりません。特別室が2部屋、一般室が15部屋の計17部屋を改修するものであり、改修内容としましては、天井仕上げ、壁仕上げ、床、巾木仕上げの改修、建具の改修、間仕切り壁の変更などであり、一般室につきましてはシャワーユニットを新たに設けることとしております。

資料5、右の表が入札の執行結果表となっております。

説明は以上でございます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（山本幸一郎君） 日程第9、議案第42号 工事請負契約の締結について（交流・関係人口拡大推進拠点施設（福島いこいの村なみえ）整備工事（機械設備工事））を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 議案第42号 工事請負契約の締結についてご説明をいたします。

本案は、交流・関係人口拡大推進拠点施設（福島いこいの村なみえ）整備工事（機械設備工事）について、地方自治法第234条第1項の規定による指名競争入札により落札者となった株式会社小黒設備工業、代表取締役、小黒陽子と契約を締結するに当たり、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に基づき、議会の議決を求めものであります。

詳細については、産業振興課長より説明をさせます。

○議長（山本幸一郎君） 産業振興課長。

○産業振興課長（蒲原文崇君） それでは、議案書によりご説明いたします。

ページは68ページをご覧ください。

1、契約の目的、交流・関係人口拡大推進拠点施設（福島いこい

の村なみえ) 整備工事(機械設備工事)。

2、施工箇所、浪江町大字高瀬字丈六地内。

3、契約の方法、指名競争入札。

4、契約金額、1億1,330万円、うち取引に係る消費税及び地方消費税の額1,030万円。

5、契約の相手方、福島県双葉郡浪江町大字高瀬字小高瀬原197番地、株式会社小黒設備工業、代表取締役、小黒陽子。

6、工期、議会の議決を得た日から令和8年3月22日となっております。

ページ右側の資料1をご覧ください。

今回の整備箇所は、いこいの村本館、図面で網かけとなっている部分と、下水道への切替え、169メートルとなります。

次のページをお開きください。

資料2、左側の図面が本館客室などの改修工事であります。主な内容は、給排水管の改修や衛生設備の改修となります。

資料3、右側の図面は昇降機、エレベーターの改修図となります。

次のページをお開きください。

資料4は、入札の執行結果表となっております。

説明は以上でございます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長(山本幸一郎君) 日程第10、議案第43号 工事請負契約の締結について(交流・関係人口拡大推進拠点施設(福島いこいの村なみえ)整備工事(電気設備工事))を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長(吉田栄光君) 議案第43号 工事請負契約の締結についてご説明いたします。

本案は、交流・関係人口拡大推進拠点施設(福島いこいの村なみえ)整備工事(電気設備工事)について、地方自治法第234条第1項の規定による随意契約により対象者となった有限会社浪江電設、代表取締役、阿部雅彦と契約を締結するに当たり、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に基づき、議会の議決を求めるものであります。

詳細については、産業振興課長より説明をさせます。

○議長(山本幸一郎君) 産業振興課長。

○産業振興課長(蒲原文崇君) 議案書によりご説明いたします。

ページは73ページをお開きください。

1、契約の目的、交流・関係人口拡大推進拠点施設(福島いこい

の村なみえ) 整備工事(電気設備工事)。

2、施工箇所、浪江町大字高瀬字丈六地内。

3、契約の方法、随意契約。

4、契約金額、1億8,370万円、うち取引に係る消費税及び地方消費税の額1,670万円。

5、契約の相手方、福島県双葉郡浪江町大字小野田字下川原41番地、有限会社浪江電設、代表取締役、阿部雅彦。

6、工期、議会の議決を得た日から令和8年3月22日となっております。

次のページをお開きください。

左側の資料1、今回の整備箇所は図面で網かけとなっているいこの村本館、それから右上のほうにも網かかっているところあるんですけども、非常用自家発電設備の改修となっております。

資料2、右側の図面が本館客室などの改修工事となっております。主な内容は、電灯設備、動力設備、構内情報通信設備網工事、拡声設備、誘導支援設備、テレビ共同受信設備、監視カメラ設備、火災報知器設備の改修となっております。

次のページをご覧ください。

資料3は、入札の執行結果表となります。

指名競争入札を実施しましたが、再入札を行っても最低入札価格が予定価格を下回りませんでした。

そのため、地方自治法施行令167条の2に随意契約によることができる場合が定められており、第1項第8号に競争入札に付し入札者がいないとき、又は再度の入札に落札者がいないときに該当するため、随意契約に移行したところでございます。

右側、資料4をご覧ください。

見積りの執行結果表となります。

指名競争入札における最低価格の入札者であった有限会社浪江電設から見積書の提出を受け、見積額が予定価格を下回りました。

説明は以上でございます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長(山本幸一郎君) 日程第11、議案第44号 工事請負契約の締結について(畜産施設敷地外構工事)を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長(吉田栄光君) 議案第44号 工事請負契約の締結についてご説明をいたします。

本案は、畜産施設敷地外構工事について、地方自治法第234条第

1項の規定による指名競争入札により落札者となった横山建設株式会社、代表取締役社長、佐藤祥一と契約を締結するに当たり、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に基づき、議会の議決を求めるものであります。

詳細については、農林水産課長より説明をさせます。

○議長（山本幸一郎君） 農林水産課長。

○農林水産課長（大浦龍爾君） それでは、議案第44号につきまして議案書によりご説明申し上げます。

議案集78ページをお開きください。

1、契約の目的、畜産施設敷地外構工事。

2、施工箇所、浪江町大字棚塩地内。

3、契約の方法、指名競争入札。

4、契約金額、3億140万円、うち取引に係る消費税及び地方消費税の額2,740万円。

5、契約の相手方、福島県双葉郡浪江町大字幾世橋字辻前12番地2、横山建設株式会社、代表取締役社長、佐藤祥一。

6、工期、議会の議決を得た日から令和8年3月31日までとなっております。

次に、議案資料により説明いたします。

本工事は、畜産施設敷地の外構工事を行うものです。

次のページ、議案第44号資料1をご覧ください。

こちら舗装工事の範囲図となります。赤で示した範囲がアスファルト舗装となりまして、青で示した範囲が碎石舗装となっております。

次のページ、資料2をご覧ください。

こちら植栽工事の範囲図となっております。左下の凡例に、植物の種別と数量、面積がございますので、ご参照いただければと存じます。

次のページ、資料3をご覧ください。

入札の執行結果表となります。

説明は以上になります。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（山本幸一郎君） 日程第12、議案第45号 工事請負契約の締結について（麦ノ沢ため池環境保全整備工事（再対策））を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 議案第45号 工事請負契約の締結についてご説明いたします。

本案は、麦ノ沢ため池環境保全整備工事（再対策）について、地方自治法第234条第1項の規定による指名競争入札により落札者となった東北土木株式会社、代表取締役、鈴木仁根と契約を締結するに当たり、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に基づき、議会の議決を求めるものであります。

詳細については、農林水産課長より説明をさせます。

○議長（山本幸一郎君） 農林水産課長。

○農林水産課長（大浦龍爾君） それでは、議案第45号につきまして議案書によりご説明いたします。

議案集82ページをお開きください。

1、契約の目的、麦ノ沢ため池環境保全整備工事（再対策）。

2、施工箇所、浪江町大字末森字麦ノ沢地内。

3、契約の方法、指名競争入札。

4、契約金額、1億4,080万円、うち取引に係る消費税及び地方消費税の額1,280万円。

5、契約の相手方、福島県双葉郡浪江町大字川添字中上ノ原120番地1、東北土木株式会社、代表取締役、鈴木仁根。

6、工期、議会の議決を得た日から令和8年3月23日までとなっております。

次に、議案資料によりご説明申し上げます。

本工事は、農業用ため池の管理を行う農業者の被曝を防止する目的で、放射性セシウム濃度が8,000ベクレルパーキログラムを超える底質の除去を行うものです。

本ため池は、令和3年から令和4年度にかけて放射性物質対策工事を行いました。対策後の大雨等の影響で、再度ため池内の放射性物質濃度が基準値を超えていることが判明したため、再対策を行うものです。

議案資料1をご覧ください。

上流側に位置する麦ノ沢第1ため池の平面図になります。

前回の対策範囲を黒い太線で示しております。再対策の範囲はオレンジ色で示した範囲となりまして、40センチの深さでバックホウによる直接掘削を行うもので、面積は2,972平米でございます。

続きまして、議案資料2をご覧ください。

麦ノ沢第2ため池の平面図となります。

前回の対策範囲を黒い太線で示しております。再対策の範囲はオレンジ色で示した範囲となり、40センチの深さでバックホウによる直接掘削を行うもので、面積は1,636平米です。

なお、第1、第2ため池の事前調査による放射性物質濃度は、図に示したとおりでございます。ご参照ください。

次に、議案資料3をご覧ください。

入札状況が記載してございます。

説明は以上となります。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（山本幸一郎君） 日程第13、議案第46号 工事請負契約の締結について（山田ため池環境保全整備工事（再対策））を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 議案第46号 工事請負契約の締結についてご説明をいたします。

本案は、山田ため池環境保全整備工事（再対策）について、地方自治法第234条第1項の規定による指名競争入札により落札者となった横山建設株式会社、代表取締役社長、佐藤祥一と契約を締結するに当たり、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に基づき、議会の議決を求めるものであります。

詳細については、農林水産課長より説明をさせます。

○議長（山本幸一郎君） 農林水産課長。

○農林水産課長（大浦龍爾君） それでは、議案第46号につきまして議案書によりご説明申し上げます。

議案集86ページをお開きください。

1、契約の目的、山田ため池環境保全整備工事（再対策）。

2、施工箇所、浪江町大字室原字山田地内。

3、契約の方法、指名競争入札。

4、契約金額、9,460万円、うち取引に係る消費税及び地方消費税の額860万円。

5、契約の相手方、福島県双葉郡浪江町大字幾世橋字辻前12番地

2、横山建設株式会社、代表取締役社長、佐藤祥一。

6、工期、議会の議決を得た日から令和8年3月23日まででございます。

続きまして、議案資料によりご説明申し上げます。

本工事は、農業用ため池の管理を行う農業者の被曝を防止する目的で、放射性セシウム濃度が8,000ベクレルパーキログラムを超える底質の除去を行うものです。

本ため池は、令和3年から令和4年度にかけて放射性物質対策工事を行いました。対策後の大雨等の影響で、再度ため池内の放射

性物質濃度が基準値を超えていることが判明したため、再対策を行うものです。

それでは、議案資料1をご覧ください。

山田ため池の平面図となります。

前回の対策範囲を黒い太線で示しております。再対策の範囲はオレンジ色で示した範囲となります。35センチの深さで直接バックホウによる掘削を行うもので、面積は3,132平米です。また、当該ため池の事前調査による放射性物質濃度は、図に示したとおりとなっております。

次に、議案資料2をご覧ください。

入札状況が記載しております。

説明は以上となります。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（山本幸一郎君） 日程第14、議案第47号 工事請負契約の締結について（堤上第2ため池環境保全整備工事（再対策））を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 議案第47号 工事請負契約の締結についてご説明いたします。

本案は、堤上第2ため池環境保全整備工事（再対策）について、地方自治法第234条第1項の規定による指名競争入札により落札者となった豊工業株式会社、代表取締役、岩野廣秀と契約を締結するに当たり、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に基づき、議会の議決を求めるものであります。

詳細については、農林水産課長より説明をさせます。

○議長（山本幸一郎君） 農林水産課長。

○農林水産課長（大浦龍爾君） それでは、議案第47号につきまして議案書によりご説明申し上げます。

議案集89ページをお開きください。

1、契約の目的、堤上第2ため池環境保全整備工事（再対策）。

2、施工箇所、浪江町大字末森字堤ノ上地内。

3、契約の方法、指名競争入札。

4、契約金額、7,810万円、うち取引に係る消費税及び地方消費税の額710万円。

5、契約の相手方、福島県双葉郡浪江町大字樋渡字土淵2番地3、豊工業株式会社、代表取締役、岩野廣秀。

6、工期、議会の議決を得た日から令和8年3月23日まででござ

います。

続きまして、議案資料によりご説明申し上げます。

本工事は、農業用ため池の管理を行う農業者の被曝を防止する目的で、放射性セシウム濃度が8,000ベクレルパーキログラムを超える底質の除去を行うものです。

本ため池は、令和3年から令和4年度にかけて放射性物質対策工事を行いました。対策後の大雨等の影響で、再度ため池内の放射性物質濃度が基準値を超えていることが判明したため、再対策を行うものです。

議案資料1のほうをご覧ください。

こちら堤上第2ため池の平面図となります。

前回の対策範囲を黒い太線で示しております。再対策の範囲はオレンジ色で示した範囲となり、35センチの深さでバックホウによる直接掘削を行うもので、面積は2,712平米となります。また、当該ため池の事前調査による放射性物質濃度は、図に示したとおりでございます。

次に、議案資料2のほうをご覧ください。

入札状況を記載してございます。

説明は以上となります。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（山本幸一郎君） 日程第15、議案第48号 工事請負契約の締結について（さけ採捕施設基礎ブロック製作工事）を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 議案第48号 工事請負契約の締結についてご説明いたします。

本案は、さけ採捕施設基礎ブロック製作工事について、地方自治法第234条第1項の規定による指名競争入札により落札者となった横山建設株式会社、代表取締役社長、佐藤祥一と契約を締結するに当たり、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に基づき、議会の議決を求めるものであります。

詳細については、農林水産課長より説明をさせます。

○議長（山本幸一郎君） 農林水産課長。

○農林水産課長（大浦龍爾君） それでは、議案第48号につきまして議案書によりご説明いたします。

議案集92ページをお開きください。

- 1、契約の目的、さけ採捕施設基礎ブロック製作工事。
- 2、施工箇所、浪江町大字北幾世橋字北御門地内。

3、契約の方法、指名競争入札。

4、契約金額、7,865万円、うち取引に係る消費税及び地方消費税の額715万円。

5、契約の相手方、福島県双葉郡浪江町大字幾世橋字辻前12番地2、横山建設株式会社、代表取締役社長、佐藤祥一。

6、工期、議会の議決を得た日から令和8年3月20日までとなっております。

発言の訂正をお願いいたします。

冒頭、さけ採捕施設基礎ブロック作製工事と申し上げたところを、さけ採捕施設基礎ブロック製作工事と訂正させていただきます。申し訳ございません。失礼しました。

続きまして、議案資料によりご説明申し上げます。

本工事は、さけ採捕施設、いわゆるやな場を再整備するために必要な河床等に設置する各種基礎ブロックを製作するものでございます。

議案資料1をご覧ください。

本工事での各種基礎ブロックの製作個数は、コンクリート造の河床の起伏ブロック520個、コンクリート造のかさ上げブロックAタイプ211個、同ブロックBタイプ4個となります。

議案資料1が起伏ブロックの詳細図、続いて議案資料2がかさ上げブロック2種類の詳細図となっております。

続きまして、議案資料3をご覧ください。

今回制作する基礎ブロックの設置予定数となります。

震災前と同様の箇所でのやな場再整備を計画してございまして、河川の非出水期に合わせて、今期設置工事を予定しておりますが、製作したブロックの設置予定河床及び予定断面を示しております。

議案資料4をご覧ください。

入札状況を記載しております。

説明は以上です。ご審議のほどよろしくをお願いいたします。

○議長（山本幸一郎君） 日程第16、議案第49号 工事請負契約の締結について（橋梁補修工事（谷津田橋））を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 議案第49号 工事請負契約の締結についてご説明いたします。

本案は、橋梁補修工事（谷津田橋）について、地方自治法第234条第1項の規定による指名競争入札により落札者となった横山建設株式会社、代表取締役社長、佐藤祥一と契約を締結するに当たり、

議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に基づき、議会の議決を求めるものであります。

詳細については、建設課長より説明させます。

○議長（山本幸一郎君） 建設課長。

○建設課長（宮林 薫君） 議案書によりご説明いたします。

97ページをお開きください。

1、契約の目的、橋梁補修工事（谷津田橋）。

2、施工箇所、浪江町大字谷津田地内。

3、契約の方法、指名競争入札。

4、契約金額、1億3,530万円、うち取引に係る消費税及び地方消費税の額1,230万円。

5、契約の相手方、福島県双葉郡浪江町大字幾世橋字辻前12番地

2、横山建設株式会社、代表取締役社長、佐藤祥一。

6、工期、議会の議決を得た日から令和8年3月18日でございます。

続きまして、98ページの議案資料1をご覧ください。

谷津田橋の位置図でございます。谷津田地区にあります高瀬川に架かる橋梁でございます。

99ページの資料2をご覧ください。

補修一般図となります。補修項目につきましては、図面右側をご覧ください。

施工延長101メートル、幅員10メートル、舗装打替え工857.1平米、表面防水工881.6平米、伸縮装置補修工5箇所でございます。

100ページの資料3をご覧ください。

入札の執行結果表でございますので、後ほどご確認願います。

説明は以上です。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（山本幸一郎君） 日程第17、議案第50号 工事請負契約の締結について（R7年度町道修繕事業（特定復興再生拠点区域内））を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 議案第50号 工事請負契約の締結についてご説明いたします。

本案は、R7年度町道修繕事業（特定復興再生拠点区域内）について、地方自治法第234条第1項の規定による指名競争入札により落札者となった株式会社泉田組、代表取締役、泉田征慶と契約を締結するに当たり、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条の規定に基づき、議会の議決を求めるもので

あります。

詳細については、建設課長より説明をさせます。

○議長（山本幸一郎君） 建設課長。

○建設課長（宮林 薫君） 議案書によりご説明いたします。

101ページでございます。

1、契約の目的、R7年度町道修繕事業（特定復興再生拠点区域内）。

2、施工箇所、浪江町大字赤字木地内ほか。

3、契約の方法、指名競争入札。

4、契約金額、5億380万円、うち取引に係る消費税及び地方消費税の額4,580万円。

5、契約の相手方、福島県双葉郡浪江町大字権現堂字上蔵役目17番地1、株式会社泉田組、代表取締役、泉田征慶。

6、工期、議会の議決を得た日から令和8年3月31日。

102ページの議案資料1をご覧ください。

補修箇所の位置図でございます。

対象路線は、室原地区1路線、末森地区13路線、大堀地区8路線でございます。

次に、103ページの議案資料2をご覧ください。

津島地区の舗装補修箇所の位置図でございます。対象路線は津島地区5路線でございます。

102ページの議案資料1にお戻りいただきまして、道路補修事業の概要でございます。

対象路線数27路線、舗装工、施工延長が1億3,680メートル、施工面積が4億6,554.8平米でございます。

104ページの議案資料3をご覧ください。

失礼しました。施工延長について訂正させていただきます。1万3,680メートルでございます。施工面積につきましては4万6,554.8平米でございます。

次に、104ページの議案資料3をご覧ください。

こちらには入札の執行結果表でございますので、後ほどご確認願います。

説明は以上です。ご審議のほどよろしくお願いたします。

○議長（山本幸一郎君） 日程第18、議案第51号 物品購入契約の締結について（避難所における炊出し用備品購入）を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 議案第51号 物品購入契約の締結についてご説

明いたします。

本案は、避難所における炊出し用備品購入について、地方自治法第234条第1項の規定による指名競争入札により落札者となった東洋安全防災株式会社、代表取締役、鈴木雅憲と契約を締結するに当たり、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第3条の規定に基づき、議会の議決を求めるものであります。

詳細については、総務課長より説明をさせます。

○議長（山本幸一郎君） 総務課長。

○総務課長（戸浪義勝君） それでは、議案書により説明をさせていただきます。

議案集105ページをご覧ください。

1、契約の目的、避難所における炊出し用備品購入。

2、納入場所、浪江町大字室原字八龍内地内。

3、契約の方法、指名競争入札。

4、契約金額、708万6,090円、うち取引に係る消費税及び地方消費税の額64万4,190円。

5、契約の相手方、福島県いわき市平塩字風内73番地2、東洋安全防災株式会社、代表取締役、鈴木雅憲。

6、納期、議会の議決を得た日から令和7年9月30日までです。

続きまして、次のページ、議案第51号資料をご覧ください。

1、目的です。

浪江町防災交流センター及び各防災コミュニティセンターを避難所とした際に、避難生活環境充足のため、避難所で使う炊き出しに使用する資機材を購入するものです。

2の購入品目の表をご覧ください。

上段から、大型炊き出し器セット50リットル並びに50リットル炊き出し器バーナーセットは4か所の各コミュニティセンターに、その下、85リットルのは防災交流センターに配置をいたします。調理用具セットの下、簡易テント及び三方幕については、2.4メートル掛ける4.8メートルのものは各コミュニティセンターに、3メートル掛ける6メートルのものは防災交流センターに配置をいたします。中段の調理器具セット、簡易テント用ウエイト、LEDバルーン投光器は、各施設に同じものを配置をいたします。

次のページの資料2は入札の執行結果ですので、後ほどご覧ください。

説明は以上です。ご審議のほどよろしくお願ひ申し上げます。

○議長（山本幸一郎君） 日程第19、議案第52号 物品購入契約の締結について（宅地用除草剤購入（単価契約））を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 議案第52号 物品購入契約の締結についてご説明いたします。

本案は、宅地用除草剤購入（単価契約）について、地方自治法第234条第1項の規定による指名競争入札により落札者となった株式会社諸井緑樹園、代表取締役、諸井道雄と契約を締結するに当たり、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第3条の規定に基づき、議会の議決を求めるものであります。

詳細については、住民課長より説明をさせます。

○議長（山本幸一郎君） 住民課長。

○住民課長（柴野一志君） それでは、議案第52号を議案書により説明いたします。

108ページをお開きください。

1、契約の目的、宅地用除草剤購入（単価契約）。

2、納入場所、浪江町大字幾世橋字六反田地内。

3、契約の方法、指名競争入札。

4、契約単価、8,250円、うち取引に係る消費税及び地方消費税の額750円。

5、契約の相手方、福島県南相馬市原町区栄町1丁目15番地、株式会社諸井緑樹園、代表取締役、諸井道雄。

6、納期、議会の議決を得た日から令和7年12月31日でございます。

続きまして、次ページ、右側のページに移ります。

議案第52号、資料1でございます。購入の概要が記載されております。

2の購入品目でございます。2種類ございまして、1つ目が液剤で、名称がネコソギロングシャワーV9、容量が4リットルで34から200平米用となっております。2つ目が粒剤で名称がネコソギエースV、容量が2キログラムで100から400平米用。表の枠下に記載をしておりますけれども、①液剤タイプ掛ける2、プラス②粒剤タイプ掛ける1を1セット価格とすると記載しておりますけれども、こちらは液剤タイプ2個と粒剤タイプ1個を1セットとした価格とするものとしたものを表しております。さきの議案書で説明いたしました単価8,250円は、この1セットの価格となっております。

今回、配布は1対象者につき、この1セットを配付することを予定しております。

3、予定数量でございます。2,000セットで推定総額が1,650万円。

この推定総額でございますが、本契約は単価契約でございます、議案書で説明のとおり、落札価格となった単価8,250円に期間中に発注する予定数量でございます2,000セットに乗じた額が、推定総額の1,650万円となります。

予定数量の2,000個につきましては、申請等の状況に応じて発注を行いますので2,000個を下回る場合もあることから推定総額としているところでございます。

続きまして、次ページをご覧ください。

こちらは入札の執行結果でございます。後ほどご覧いただければと思います。

説明は以上でございます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（山本幸一郎君）　ここで、10時20分まで休議といたします。
（午前10時05分）

○議長（山本幸一郎君）　再開します。
（午前10時20分）

○議長（山本幸一郎君）　日程第20、議案第53号　工事請負契約の変更について（棚塩RE100産業団地造成工事）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君）　議案第53号　工事請負契約の変更についてご説明いたします。

本案は、棚塩RE100産業団地造成工事について契約変更を行うものであります。現在の契約金額である15億3,450万円について、2億1,705万2,000円を減額し、13億1,744万8,000円に変更するものであります。

詳細については、産業振興課長より説明をさせます。

○議長（山本幸一郎君）　産業振興課長。

○産業振興課長（蒲原文崇君）　それでは、議案書によりご説明いたします。

111ページをお開きください。

- 1、契約の目的、棚塩RE100産業団地造成工事。
- 2、施工箇所、浪江町大字棚塩地内。
- 3、契約の方法、指名競争入札。
- 4、契約金額、変更前15億3,450万円、うち取引に係る消費税及

び地方消費税の額 1 億3,950万円。変更後13億1,744万8,000円、うち取引に係る消費税及び地方消費税の額 1 億1,976万8,000円。

5、契約の相手方、福島県双葉郡浪江町大字幾世橋字辻前12番地2、横山建設株式会社、代表取締役社長、佐藤祥一。

6、工期、令和5年6月13日から令和7年6月30日となっております。

次のページ、資料1、理由書をご覧ください。

変更の理由でございますが、工事を施工する上で以下の内容が変更となったためでございます。

主な変更内容の1つ目は、造成土工であります。造成土工において流用土を使用したことにより購入土費用を抑制できたため、減額となったところでございます。購入土が2万202.7立米の全てが流用土を使用したことによる変更でございます。

次に、地盤改良工でございます。既存ため池の水抜きの後、再度土壌解析を行った結果、地盤改良を行わなくても十分な強度を確保できることが判明したため、改良に係る費用が減額となりました。地盤改良工8,486平米がゼロということで変更でございます。

また、伐採処分工につきましても、下刈り及び樹木伐採による木くずなどの処分について、処分実績により減額となったところでございます。こちら木くず処分料3,773.8トンが1,294.9トンへ変更となっております。

右側の資料2が平面図となっております。

図面右側、調整池の下に赤い囲いがあると思えますけれども、この場所が以前ため池だった箇所で、当初地盤改良を予定した範囲となっております。

説明は以上でございます。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（山本幸一郎君） 日程第21、議案第54号 浪江町道路線の廃止についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 議案第54号 浪江町道路線の廃止についてご説明いたします。

本案は、浪江駅周辺整備事業に伴い、町道路線の廃止をするため、道路法第10条第3項の規定により議会の議決を求めるものであります。

詳細については、建設課長より説明をさせます。

○議長（山本幸一郎君） 建設課長。

○建設課長（宮林 薫君） 議案資料に基づいてご説明いたします。

114ページをご覧ください。

廃止路線の一覧が掲載されています。廃止となる路線は、下柳町1号線、下柳町2号線の2路線でございます。

115ページの議案資料1をご覧ください。

廃止路線の位置図、青い線で示されている青丸のついたところが路線の起点、矢印の先が終点となります。こちらは浪江駅周辺整備事業に伴い路線を廃止するものです。

説明は以上です。ご審議のほどよろしくお願ひいたします。

○議長（山本幸一郎君） 日程第22、議案第55号 令和7年度浪江町一般会計補正予算（第1号）を議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 議案第55号 令和7年度浪江町一般会計補正予算（第1号）についてご説明いたします。

本案は、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ51億2,851万8,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を405億151万8,000円とするものであります。

詳細については、企画財政課長より説明をさせます。

○議長（山本幸一郎君） 企画財政課長。

○企画財政課長（吉田厚志君） それでは、事項別明細書によりご説明をさせていただきます。

議案集124ページをお開きください。

まず、歳入の主なものからご説明をさせていただきます。

款10地方交付税、項1地方交付税、目1地方交付税4億1,709万1,000円の増につきましては、福島再生加速化交付金を主たる財源として駅前に整備する公営住宅整備事業及び酒田地区に整備する野菜等集出荷貯蔵施設等敷地造成事業などの補助裏財源として交付される震災復興特別交付税の増額によるものとなっております。

款14国庫支出金、項2国庫補助金、目1総務費国庫補助金30億891万8,000円の増につきましては、今ほど申し上げました駅前公営住宅整備事業及び野菜等集出荷貯蔵施設等敷地造成事業などの主たる財源となります福島再生加速化交付金（帰還・移住等環境整備）の増額及び定額減税補足給付金の財源となります物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金の増によるものとなっております。

125ページをご覧ください。

款18繰入金、項2基金繰入金、目2浪江町復旧・復興基金繰入金1億5,639万9,000円の増及び目7浪江町帰還・移住等環境整備交付

金基金繰入金10億8,919万4,000円の増につきましては、基金型で整備をいたします駅前公営住宅整備事業などに充当するため、基金から繰入金を増額するものとなっております。

126ページをご覧ください。

款20諸収入、項4雑入、目1雑入1,616万8,000円の増につきましては、主に一括受電により電気料金契約の形態変更に伴い、道の駅なみえの営利部分に係る電気料金が当該施設の指定管理者から納入されることとなったため、予算を計上しておるものでございます。

款21町債、項1町債、目4公営住宅建設事業債4億円の増につきましては、駅前公営住宅の財源とするものでございます。その下、目5デジタル活用推進事業債2,780万円につきましては、道路台帳をデジタル化する道路情報公開サービス導入事業などの財源とするものでございます。

127ページをご覧ください。

ここからは歳出の主なご説明となります。

款2総務費、項1総務管理費、目6企画費31億円の増につきましては、節24積立金において、複数年で整備を予定しております駅前公営住宅整備事業の財源とするため、福島再生加速化交付金を浪江町帰還・移住等環境整備交付金基金などに積立てをするものでございます。

款3民生費、項1社会福祉費、目1社会福祉総務費3,179万3,000円の増につきましては、令和6年度事業として実施した定額減税補足給付金におきまして、令和6年度の所得、扶養の状況により推計し給付を実施しましたが、確定申告等により本来給付すべき額と実際の給付額との間に差額が生じた方などを対象に、追加で不足分を交付するための予算を計上しております。

なお、財源につきましては全額、国庫補助金となっております。

128ページをご覧ください。

款4衛生費、項3上水道費、目1上水道費3,625万5,000円の増につきましては、節18負担金補助及び交付金におきまして、福島再生加速化交付金などを財源として実施する上水道事業補助金の増額によるものとなっております。

款6農林水産業費、項1農業費、目3農業振興費1億3,711万9,000円の増につきましては、福島県から開発行為の許可を受けたことに伴いまして野菜等集出荷貯蔵施設の敷地造成に係る費用を計上しております。

129ページをご覧ください。

款7商工費、項1商工費、目5道の駅なみえ維持管理事業費

1,559万9,000円の増につきましては、歳入のほうでも申し上げました、一括受電により電気料金の契約の形態変更に伴いまして、役場で電気料金を一括で計上することとなりましたので、節10で光熱水費の増額、指定管理委託料の電気料金相当分を節12の委託料で減額をしております。

なお、道の駅なみえのほうから歳入される金額と歳出の金額は同額となっております。

130ページをご覧ください。

款8土木費、項5住宅費、目2住宅整備費17億6,000万円の増につきましては、節14工事請負費において、実施設計の完了に伴い令和9年度完成を予定しております駅前権現堂地区公営住宅整備工事費を計上しております。

款10教育費、項1教育総務費、目7学習支援事業費2,802万6,000円の増につきましては、放課後児童クラブ等の整備に係ります用地購入費を計上しております。

120ページにお戻りください。

第2表、継続費補正追加でございます。

款8土木費、項5住宅費、事業名、権現堂地区公営住宅整備工事につきましては、効率的に事業を執行するため、同地区で予定されております緑地空間整備工事に合わせ、令和7年度から令和9年度まで継続費を設定するものでございます。

続きまして、第3表地方債補正でございます。記載の事業につきまして、財源調整の結果、限度額を記載のとおりに変更するものでございます。

121ページをご覧ください。

記載をしております2事業につきましては、事業執行の財源とするため、記載のとおり条件で借入れをするものでございます。

最後に、131ページは補正予算後の基金の運用状況となっておりますので、後ほどご確認いただければと存じます。

説明は以上です。ご審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（山本幸一郎君） 日程第23、議案第56号 令和7年度浪江町水道事業会計補正予算（第1号）を議題とします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 議案第56号 令和7年度浪江町水道事業会計補正予算（第1号）についてご説明いたします。

本案は、水道事業資本的収入を3,625万5,000円増額し、資本的支出を5,179万6,000円増額するものであります。

詳細については、住宅水道課長より説明させます。

○議長（山本幸一郎君） 住宅水道課長。

○住宅水道課長（金山信一君） 議案書136ページをご覧ください。

補正予算説明書によりご説明いたします。

本定例会で計上しております補正予算につきましては、震災後の適正な水道施設に関する整備並びに特定帰還居住区域である大字酒井地区の復旧のために、復興事業の交付金等を利用して実施するものです。交付率は事業費の3分の2の福島再生加速化交付金と復興特別交付税30分の1となっております。

それでは、上の段、資本的収入になります。

款1 資本的収入、項2 補助金、目1 補助金3,625万5,000円の増は、資本的支出、建設改良費に対する国の福島再生加速化交付金等を財源とした町からの補助金でございます。

次に、下の段、資本的支出になります。

款1 資本的支出、項1 建設改良費、目2 配水及び給水施設改良費5,179万6,000円の増は、節工事請負費で、県道長塚請戸浪江線の県拡張工事に伴う配水管布設工事等による3,113万8,000円の増並びに節委託料で大字酒井地区の配水管復旧のための詳細設計2,065万8,000円の増によるものです。

説明は以上となります。ご審議のほどよろしく申し上げます。

○議長（山本幸一郎君） 日程第24、報告第1号 令和6年度浪江町一般会計継続費繰越計算書についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 報告第1号 令和6年度浪江町一般会計継続費繰越計算書についてご説明いたします。

本件は、令和6年度において、地方自治法第212条第1項の規定に基づき設定した継続費に係る予算の繰越しについて、同法施行令第145条第1項の規定により、別紙計算書のとおり報告するものであります。

よろしく願いいたします。

○議長（山本幸一郎君） 日程第25、報告第2号 令和6年度浪江町一般会計繰越明許費繰越計算書についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 報告第2号 令和6年度浪江町一般会計繰越明許費繰越計算書についてご説明いたします。

本件は、令和6年度において、地方自治法第213条第1項の規定

に基づき設定した繰越明許費に係る予算の繰越しについて、同法施行令第146条第2項の規定により、別紙計算書のとおり報告するものであります。

よろしくお願いいたします。

- 議長（山本幸一郎君） 日程第26、報告第3号 令和6年度浪江町水道事業会計継続費繰越計算書についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

- 町長（吉田栄光君） 報告第3号 令和6年度浪江町水道事業会計継続費繰越計算書についてご説明いたします。

本件は、令和6年度において、地方自治法第212条第1項の規定に基づき設定した継続費に係る予算の繰越しについて、地方公営企業法施行令第18条の2第1項の規定により、別紙計算書のとおり報告するものであります。

よろしくお願いいたします。

- 議長（山本幸一郎君） 日程第27、報告第4号 令和6年度浪江町水道事業会計予算繰越計算書についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

- 町長（吉田栄光君） 報告第4号 令和6年度浪江町水道事業会計予算繰越計算書についてご説明いたします。

本件は、令和6年度において、地方公営企業法第26条第1項の規定に基づき設定した繰越明許費に係る予算の繰越しについて、同条第3項の規定により、別紙計算書のとおり報告するものであります。

詳細については、住宅水道課長より説明をさせます。

- 議長（山本幸一郎君） 住宅水道課長。

- 住宅水道課長（金山信一君） 初めに、冒頭説明ありましたとおり、報告第4号を差し替えております。直前の差し替えとなり、申し訳ありませんでした。

水道事業会計予算繰越計算書によりご説明いたします。

差し替えました議案書146ページをお開きください。

款1資本的支出、項1建設改良費、事業名、管網モデルに基づく基幹管路整備工事権現堂2-2工区、翌年度繰越額4,558万4,000円につきましては、旧東邦銀行浪江支店付近の交差点の県道において、施工中に図面にないコンクリート路盤とヒューム管があったことから、県との処分方法についての協議に時間を要したため繰り越すものです。

財源内訳については記載のとおりであります。

説明は以上でございます。よろしく申し上げます。

○議長（山本幸一郎君） 日程第28、同意第2号 教育委員会教育長の任命についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 同意第2号 教育委員会教育長の任命についてご説明いたします。

本案は、教育委員会教育長の任期満了に伴い、後任の教育長を任命するため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第4条第1項の規定により、議会の同意を求めるものであります。

今回同意を求める横山氏の略歴については、資料に記載のとおりであります。なみえ創成小学校の校長を歴任されるなど、教育行政の識見を有し、人格が高潔で教育長として適任であり、引き続き本町の教育振興にご尽力いただきたいと考えておりますので、議員各位のご賛同をよろしくをお願いいたします。

○議長（山本幸一郎君） 日程第29、同意第3号 苅野財産区管理委員会委員の選任についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 同意第3号 苅野財産区管理委員会委員の選任についてご説明いたします。

本案は、苅野財産区管理委員会委員の任期が令和7年6月28日で満了になることから、新たな苅野財産区管理委員会委員を選任するため、苅野財産区管理条例第2条第2項の規定に基づき、議会の同意を求めるのであります。

今回、同意を求める苅野財産区管理委員会委員は、小澤晴久氏、矢口貞行氏、熊本嘉博氏、佐藤良樹氏、末永章氏、阿部壯司氏及び丹伊田拓氏の7名の方で、行政区より推薦がありましたので、苅野財産区管理委員会委員に選任したいと考えております。

議員各位のご賛同をよろしくをお願いいたします。

○議長（山本幸一郎君） 日程第30、同意第4号 津島財産区管理委員会委員の選任についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 同意第4号 津島財産区管理委員会委員の選任についてご説明いたします。

本案は、津島財産区管理委員会委員の任期が令和7年6月28日で満了となることから、新たな津島財産区管理委員会委員を選任するため、津

島財産区管理会条例第2条第2項の規定に基づき、議会の同意を求めるものであります。

今回、同意を求める津島財産区管理会委員は、佐々木保彦氏、嶋原眞三氏、石崎茂氏、今野勝彦氏、菅野一利氏、佐野富寿雄氏及び関場健治氏の7名の方で、行政区より推薦がありましたので、津島財産区管理会委員に選任したいと考えております。

議員各位のご賛同をよろしくお願いいたします。

○議長（山本幸一郎君） 日程第31、同意第5号 浪江町固定資産評価審査委員会委員の選任についてを議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

町長。

○町長（吉田栄光君） 同意第5号 浪江町固定資産評価審査委員会委員の選任についてご説明いたします。

本案は、令和7年7月31日をもって任期満了となります3名の浪江町固定資産評価審査委員会委員の選任について、地方税法第423条第3項の規定により、議会の同意を求めるものであります。

今回、同意を求める吉田俊哉氏は、司法書士であり、法律に関する専門知識に精通しております。また、令和2年9月から浪江町内で司法書士業務を再開しております。

吉田公明氏と清水佳宗氏の両名は地方行政に精通しております。

この3名の方々に、固定資産評価及び当該委員会の公平性確保に適任と考えておりますので、ご賛同くださいますようよろしくお願いを申し上げます。

○議長（山本幸一郎君） 以上で提案理由の説明が終わりました。

◎延会について

○議長（山本幸一郎君） お諮りします。質疑については、17日に行うこととし、本日の会議はこれで延会したいと思います。これにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（山本幸一郎君） 異議なしと認めます。

よって、本日はこれで延会することに決定しました。

17日は、午前9時から本会議を開きますので、ご参集をお願いします。

◎延会の宣告

○議長（山本幸一郎君） 本日はこれで延会します。

（午前10時46分）

令和7年	6月12日（木曜日）	常任委員会
令和7年	6月13日（金曜日）	常任委員会
令和7年	6月14日（土曜日）	休日
令和7年	6月15日（日曜日）	休日
令和7年	6月16日（月曜日）	休会

6 月 定 例 町 議 会

(第 3 号)

令和7年浪江町議会6月定例会

議事日程(第3号)

令和7年6月17日(火曜日)午前9時開議

日程第1	議案第35号	浪江町企業版ふるさと納税基金条例の制定について
日程第2	議案第36号	請戸川さけ放流施設の設置及び管理に関する条例の制定について
日程第3	議案第37号	浪江町復興海浜緑地(多目的広場)の設置及び管理に関する条例の制定について
日程第4	議案第38号	浪江町水道事業給水条例の一部改正について
日程第5	議案第39号	浪江町下水道条例の一部改正について
日程第6	議案第40号	浪江町スポーツ施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について
日程第7	議案第41号	工事請負契約の締結について(交流・関係人口拡大推進拠点施設(福島いこいの村なみえ)整備工事(建築工事))
日程第8	議案第42号	工事請負契約の締結について(交流・関係人口拡大推進拠点施設(福島いこいの村なみえ)整備工事(機械設備工事))
日程第9	議案第43号	工事請負契約の締結について(交流・関係人口拡大推進拠点施設(福島いこいの村なみえ)整備工事(電気設備工事))
日程第10	議案第44号	工事請負契約の締結について(畜産施設敷地外構工事)
日程第11	議案第45号	工事請負契約の締結について(麦ノ沢ため池環境保全整備工事(再対策))
日程第12	議案第46号	工事請負契約の締結について(山田ため池環境保全整備工事(再対策))
日程第13	議案第47号	工事請負契約の締結について(堤上第2ため池環境保全整備工事(再対策))
日程第14	議案第48号	工事請負契約の締結について(さけ採捕施設基礎ブロック製作工事)
日程第15	議案第49号	工事請負契約の締結について(橋梁補修工事(谷津田橋))

日程第 1 6	議案第 5 0 号	工事請負契約の締結について（R 7 年度町道修繕事業（特定復興再生拠点区域内））
日程第 1 7	議案第 5 1 号	物品購入契約の締結について（避難所における炊出し用備品購入）
日程第 1 8	議案第 5 2 号	物品購入契約の締結について（宅地用除草剤購入（単価契約））
日程第 1 9	議案第 5 3 号	工事請負契約の変更について（棚塩 R E 1 0 0 産業団地造成工事）
日程第 2 0	議案第 5 4 号	浪江町道路線の廃止について
日程第 2 1	議案第 5 5 号	令和 7 年度浪江町一般会計補正予算（第 1 号）
日程第 2 2	議案第 5 6 号	令和 7 年度浪江町水道事業会計補正予算（第 1 号）
日程第 2 3	報告第 1 号	令和 6 年度浪江町一般会計継続費繰越計算書について
日程第 2 4	報告第 2 号	令和 6 年度浪江町一般会計繰越明許費繰越計算書について
日程第 2 5	報告第 3 号	令和 6 年度浪江町水道事業会計継続費繰越計算書について
日程第 2 6	報告第 4 号	令和 6 年度浪江町水道事業会計予算繰越計算書について
日程第 2 7	同意第 2 号	教育委員会教育長の任命について
日程第 2 8	同意第 3 号	苅野財産区管理会委員の選任について
日程第 2 9	同意第 4 号	津島財産区管理会委員の選任について
日程第 3 0	同意第 5 号	浪江町固定資産評価審査委員会委員の選任について
日程第 3 1	浪江町選挙管理委員会委員及び補充員の選挙について	
日程第 3 2	請願・陳情審査報告	
	陳情第 1 号	「国の『被災児童生徒就学支援等事業』の継続と、被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書」の提出を求める陳情書
日程第 3 3	発議第 1 号	国の『被災児童生徒就学支援等事業』の継続と、被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書（案）
日程第 3 4	委員会の閉会中の継続審査又は調査の申し出について	

出席議員（12名）

1 番	横 字 史 年 君	2 番	佐 藤 勝 伸 君
3 番	鈴 木 幸 治 君	4 番	山 本 幸 一 郎 君
5 番	紺 野 豊 君	6 番	武 藤 晴 男 君
7 番	紺 野 則 夫 君	8 番	佐々木 茂 君
9 番	佐々木 勇 治 君	10 番	半 谷 正 夫 君
11 番	松 田 孝 司 君	12 番	平 本 佳 司 君

欠席議員（なし）

地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町	吉 田 栄 光 君	副 町 長	山 本 邦 一 君
副 町 長	成 井 祥 君	教 育 課 長	笠 井 淳 一 君
代 表 監 査 委 員 長	宮 口 勝 美 君	総 務 課 長 兼 選 挙 管 理 委 員 会 書 記 長	戸 浪 義 勝 君
企 画 財 政 課 長	吉 田 厚 志 君	住 民 課 長	柴 野 一 志 君
産 業 振 興 課 長	蒲 原 文 崇 君	農 林 水 産 課 長 兼 農 業 委 員 会 事 務 局 長	大 浦 龍 爾 君
住 宅 水 道 課 長	金 山 信 一 君	建 設 課 長	宮 林 薫 君
市 街 地 整 備 課 長	今 野 裕 仁 君	健 康 保 険 課 長	松 本 幸 夫 君
浪 江 診 療 所 事 務 長 兼 仮 設 津 島 診 療 所 事 務 長	中 野 隆 幸 君	介 護 福 祉 課 長	木 村 順 一 君
会 計 管 理 者 兼 出 納 室 長 兼 津 島 支 所 長	西 健 一 君	教 育 総 務 課 長	鈴 木 清 水 君
生 涯 学 習 課 長 兼 浪 江 町 公 民 館 長 兼 浪 江 町 図 書 館 長	岡 秀 樹 君		

職務のため出席した者の職氏名

事	務	局	長	次	今	野	長	一	君
		中	野	夕華子			雄		
書			記						
		岡	本	ちり					
				君					

◎開議の宣告

- 議長（山本幸一郎君） おはようございます。
ただいまの出席議員数は12人であります。
定足数に達しておりますので、直ちに本日の会議を開きます。
(午前 9時00分)
-

◎議事日程の報告

- 議長（山本幸一郎君） 本日の議事日程は、タブレット端末の格納のとおりです。
-

◎議案第35号の質疑、討論、採決

- 議長（山本幸一郎君） 日程第1、議案第35号 浪江町企業版ふるさと納税基金条例の制定についてを議題とします。
これより質疑を行います。質疑ありませんか。
[「なし」と呼ぶ者あり]
- 議長（山本幸一郎君） 質疑なしと認めます。
質疑を終わります。
これより討論を行います。討論ありませんか。
[「なし」と呼ぶ者あり]
- 議長（山本幸一郎君） 討論なしと認めます。
討論を終わります。
これより議案第35号 浪江町企業版ふるさと納税基金条例の制定についてを採決します。
採決は起立により行います。
本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。
[起立全員]
- 議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。
よって、議案第35号は原案のとおり可決されました。
-

◎議案第36号の質疑、討論、採決

- 議長（山本幸一郎君） 日程第2、議案第36号 請戸川さけ放流施設の設置及び管理に関する条例の制定についてを議題とします。
これより質疑を行います。質疑ありませんか。
[「なし」と呼ぶ者あり]
- 議長（山本幸一郎君） 質疑なしと認めます。
質疑を終わります。
これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本幸一郎君） 討論なしと認めます。

討論を終わります。

これより議案第36号 請戸川さけ放流施設の設置及び管理に関する条例の制定についてを採決します。

採決は起立により行います。

本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

○議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。

よって、議案第36号は原案のとおり可決されました。

◎議案第37号の質疑、討論、採決

○議長（山本幸一郎君） 日程第3、議案第37号 浪江町復興海浜緑地（多目的広場）の設置及び管理に関する条例の制定についてを議題とします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本幸一郎君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本幸一郎君） 討論なしと認めます。

討論を終わります。

これより議案第37号 浪江町復興海浜緑地（多目的広場）の設置及び管理に関する条例の制定についてを採決します。

採決は起立により行います。

本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

○議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。

よって、議案第37号は原案のとおり可決されました。

◎議案第38号の質疑、討論、採決

○議長（山本幸一郎君） 日程第4、議案第38号 浪江町水道事業給水条例の一部改正についてを議題とします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本幸一郎君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本幸一郎君） 討論なしと認めます。

討論を終わります。

これより議案第38号 浪江町水道事業給水条例の一部改正についてを採決します。

採決は起立により行います。

本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

○議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。

よって、議案第38号は原案のとおり可決されました。

◎議案第39号の質疑、討論、採決

○議長（山本幸一郎君） 日程第5、議案第39号 浪江町下水道条例の一部改正についてを議題とします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本幸一郎君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本幸一郎君） 討論なしと認めます。

討論を終わります。

これより議案第39号 浪江町下水道条例の一部改正についてを採決します。

採決は起立により行います。

本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

○議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。

よって、議案第39号は原案のとおり可決されました。

◎議案第40号の質疑、討論、採決

○議長（山本幸一郎君） 日程第6、議案第40号 浪江町スポーツ施設の設置及び管理に関する条例の一部改正についてを議題とします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本幸一郎君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本幸一郎君） 討論なしと認めます。

討論を終わります。

これより議案第40号 浪江町スポーツ施設の設置及び管理に関する条例の一部改正についてを採決します。

採決は起立により行います。

本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

○議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。

よって、議案第40号は原案のとおり可決されました。

◎議案第41号の質疑、討論、採決

○議長（山本幸一郎君） 日程第7、議案第41号 工事請負契約の締結について（交流・関係人口拡大推進拠点施設（福島いこいの村なみえ）整備工事（建築工事））を議題とします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本幸一郎君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本幸一郎君） 討論なしと認めます。

討論を終わります。

これより議案第41号 工事請負契約の締結について（交流・関係人口拡大推進拠点施設（福島いこいの村なみえ）整備工事（建築工事））を採決します。

採決は起立により行います。

本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

○議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。

よって、議案第41号は原案のとおり可決されました。

◎議案第42号の質疑、討論、採決

○議長（山本幸一郎君） 日程第8、議案第42号 工事請負契約の締結について（交流・関係人口拡大推進拠点施設（福島いこいの村なみえ）整備工事（機械設備工事））を議題とします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本幸一郎君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本幸一郎君） 討論なしと認めます。

討論を終わります。

これより議案第42号 工事請負契約の締結について（交流・関係人口拡大推進拠点施設（福島いこいの村なみえ）整備工事（機械設備工事））を採決します。

採決は起立により行います。

本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

○議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。

よって、議案第42号は原案のとおり可決されました。

◎議案第43号の質疑、討論、採決

○議長（山本幸一郎君） 日程第9、議案第43号 工事請負契約の締結について（交流・関係人口拡大推進拠点施設（福島いこいの村なみえ）整備工事（電気設備工事））を議題とします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本幸一郎君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本幸一郎君） 討論なしと認めます。

討論を終わります。

これより議案第43号 工事請負契約の締結について（交流・関係人口拡大推進拠点施設（福島いこいの村なみえ）整備工事（電気設備工事））を採決します。

採決は起立により行います。

本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

○議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。

よって、議案第43号は原案のとおり可決されました。

◎議案第44号の質疑、討論、採決

- 議長（山本幸一郎君） 日程第10、議案第44号 工事請負契約の締結について（畜産施設敷地外構工事）を議題とします。
これより質疑を行います。質疑ありませんか。
[「なし」と呼ぶ者あり]
- 議長（山本幸一郎君） 質疑なしと認めます。
質疑を終わります。
これより討論を行います。討論ありませんか。
[「なし」と呼ぶ者あり]
- 議長（山本幸一郎君） 討論なしと認めます。
討論を終わります。
これより議案第44号 工事請負契約の締結について（畜産施設敷地外構工事）を採決します。
採決は起立により行います。
本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。
[起立全員]
- 議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。
よって、議案第44号は原案のとおり可決されました。
-

◎議案第45号の質疑、討論、採決

- 議長（山本幸一郎君） 日程第11、議案第45号 工事請負契約の締結について（麦ノ沢ため池環境保全整備工事（再対策））を議題とします。
これより質疑を行います。質疑ありませんか。
[「なし」と呼ぶ者あり]
- 議長（山本幸一郎君） 質疑なしと認めます。
質疑を終わります。
これより討論を行います。討論ありませんか。
[「なし」と呼ぶ者あり]
- 議長（山本幸一郎君） 討論なしと認めます。
討論を終わります。
これより議案第45号 工事請負契約の締結について（麦ノ沢ため池環境保全整備工事（再対策））を採決します。
採決は起立により行います。
本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。
[起立全員]
- 議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。
よって、議案第45号は原案のとおり可決されました。
-

◎議案第46号の質疑、討論、採決

○議長（山本幸一郎君） 日程第12、議案第46号 工事請負契約の締結について（山田ため池環境保全整備工事（再対策））を議題とします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本幸一郎君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本幸一郎君） 討論なしと認めます。

討論を終わります。

これより議案第46号 工事請負契約の締結について（山田ため池環境保全整備工事（再対策））を採決します。

採決は起立により行います。

本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

○議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。

よって、議案第46号は原案のとおり可決されました。

◎議案第47号の質疑、討論、採決

○議長（山本幸一郎君） 日程第13、議案第47号 工事請負契約の締結について（堤上第2ため池環境保全整備工事（再対策））を議題とします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本幸一郎君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本幸一郎君） 討論なしと認めます。

討論を終わります。

これより議案第47号 工事請負契約の締結について（堤上第2ため池環境保全整備工事（再対策））を採決します。

採決は起立により行います。

本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

○議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。

よって、議案第47号は原案のとおり可決されました。

◎議案第48号の質疑、討論、採決

- 議長（山本幸一郎君） 日程第14、議案第48号 工事請負契約の締結について（さけ採捕施設基礎ブロック製作工事）を議題とします。
これより質疑を行います。質疑ありませんか。
[「なし」と呼ぶ者あり]
- 議長（山本幸一郎君） 質疑なしと認めます。
質疑を終わります。
これより討論を行います。討論ありませんか。
[「なし」と呼ぶ者あり]
- 議長（山本幸一郎君） 討論なしと認めます。
討論を終わります。
これより議案第48号 工事請負契約の締結について（さけ採捕施設基礎ブロック製作工事）を採決します。
採決は起立により行います。
本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。
[起立全員]
- 議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。
よって、議案第48号は原案のとおり可決されました。
-

◎議案第49号の質疑、討論、採決

- 議長（山本幸一郎君） 日程第15、議案第49号 工事請負契約の締結について（橋梁補修工事（谷津田橋））を議題とします。
これより質疑を行います。質疑ありませんか。
[「なし」と呼ぶ者あり]
- 議長（山本幸一郎君） 質疑なしと認めます。
質疑を終わります。
これより討論を行います。討論ありませんか。
[「なし」と呼ぶ者あり]
- 議長（山本幸一郎君） 討論なしと認めます。
討論を終わります。
これより議案第49号 工事請負契約の締結について（橋梁補修工事（谷津田橋））を採決します。
採決は起立により行います。
本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。
[起立全員]
- 議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。

よって、議案第49号は原案のとおり可決されました。

◎議案第50号の質疑、討論、採決

- 議長（山本幸一郎君） 日程第16、議案第50号 工事請負契約の締結について（R7年度町道修繕事業（特定復興再生拠点区域内））を議題とします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

- 議長（山本幸一郎君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

- 議長（山本幸一郎君） 討論なしと認めます。

討論を終わります。

これより議案第50号 工事請負契約の締結について（R7年度町道修繕事業（特定復興再生拠点区域内））を採決します。

採決は起立により行います。

本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

- 議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。

よって、議案第50号は原案のとおり可決されました。

◎議案第51号の質疑、討論、採決

- 議長（山本幸一郎君） 日程第17、議案第51号 物品購入契約の締結について（避難所における炊出し用備品購入）を議題とします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

9番、佐々木勇治君。

- 9番（佐々木勇治君） なぜ物品購入が今なのかというのと、これはコミュニティセンター4か所と交流センター1か所に配置すると思うんですけども、何を作る目的で購入するのかお伺いします。

- 議長（山本幸一郎君） 総務課長。

- 総務課長（戸浪義勝君） それでは、ご質問にお答えいたします。

今回の備品購入につきましては、非常時の際の非常食とか、お汁物を作る際に、お湯が必要であるというようなことが、まず第一点あります。

それに対してお湯を沸かすのに、1回に100食とか200食作るので、ポットの1つ、2つでは間に合わないことも含めると、大型の鍋でお湯を沸かすのが一つの目的でございます。

また、お湯を沸かすだけでなく様々調理も、今後含めて、避難が長期になった際に必要となると考えまして、今回の購入となったわけでございます。

なぜ今の時期になったかと申しますと、いろいろ運用上の検討をしまして、先ほども申し上げましたとおり、ポットだけでお湯を沸かすような対応では、ちょっと直接的な対応はできないと思ひまして、必要であると考えまして、今回この時期となったわけでございます。

以上です。

○議長（山本幸一郎君） 9番、佐々木勇治君。

○9番（佐々木勇治君） 分かりましたけれども、コミュニティセンターは、消防法では、290人まで収容可能と、防災交流センターは、収容可能が500人だと思ふんですけれども、この50リットルとか85リットルで足りるのかという質問をしたいんですけれども、そこをどう考えているのかお伺いします。

○議長（山本幸一郎君） 総務課長。

○総務課長（戸浪義勝君） まず、容量につきましては、アルファ米ですと、約130ミリリットルのお湯が、1つのアルファ米を調理するのに必要でありまして、これに対してそれぞれの箇所に85リットルであれば、約600個までの対応は可能かと思ひまして、あと、汁物につきましても、汁物を作るのに約150ミリリットルのお湯を要するというので、それで、それぞれのコミュニティセンター及び防災交流センターでの対応人数に対応できるものと考えております。

以上です。

○議長（山本幸一郎君） ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本幸一郎君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本幸一郎君） 討論なしと認めます。

討論を終わります。

これより議案第51号 物品購入契約の締結について（避難所における炊出し用備品購入）を採決します。

採決は起立により行います。

本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

○議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。

よって、議案第51号は原案のとおり可決されました。

◎議案第52号の質疑、討論、採決

○議長（山本幸一郎君） 日程第18、議案第52号 物品購入契約の締結について（宅地用除草剤購入（単価契約））を議題とします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

5番、紺野豊君。

○5番（紺野 豊君） 宅地用の除草剤購入、この分の金額的に数字は分かりました。

根拠のほうなんですけれども、予定数量が2,000セットということなんですけれども、この出した数字の根拠をお示してください。よろしくをお願いします。

○議長（山本幸一郎君） 住民課長。

○住民課長（柴野一志君） 予定数量の根拠というところで、除草剤は3年目の事業でございます、1年目の結果として受付は1,178、それから、2年目は1,647と、徐々に伸びてきているところがございます。

そういったところもございまして、キリのいいというような形というのは言葉が悪いかもしれませんが、そういった形で今年度も広く広報して、増加を見込んだところでございます。

以上でございます。

○議長（山本幸一郎君） 5番、紺野豊君。

○5番（紺野 豊君） 分かりましたけれども、もう一点、液剤と粒剤の関係、4リッター2キロというセットで、単価が8,250円という話なんですけれども、この分の数字的には、結局、家屋で一個一個足りるのかなという心配がまだあって、根拠は、確かに資金面で増えてきたということは分かるんですけども、もう少し面積とかが多い方もおられるわけで、その辺などは、平均していかないといけない分もあるだろうけれども、やはり少しは考えるべきではないかと思うんで、その辺の考えはどういうふうになっているのかお聞きします。

○議長（山本幸一郎君） 住民課長。

○住民課長（柴野一志君） 面積が多い方もいて、いわゆる個数が不足する部分もあるのではないかなというようなご質問でございますけれども、まず1点、行政側として考えるところといたしましては、民地の管理については所有者というところが大原則であるというところで、行政としてどれだけお手伝いできるかというところで、必要最小限のところになってしまいますけれども、夏から冬にかけて、

それぞれ1つ、2つぐらいずつ、きっかけづくりとしてお渡しするということで、その民地の所有者の皆さんに、除草をしていただけるきっかけをつくれればと思っております。

個数の件に関しましては、まさに少ないというのは承知しております、今後、事業が継続されればの話でございますけれども、全体像として、そういったことが必要であるかどうか踏まえて、検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（山本幸一郎君） ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本幸一郎君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本幸一郎君） 討論なしと認めます。

討論を終わります。

これより議案第52号 物品購入契約の締結について（宅地用除草剤購入（単価契約））を採決します。

採決は起立により行います。

本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

○議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。

よって、議案第52号は原案のとおり可決されました。

◎議案第53号の質疑、討論、採決

○議長（山本幸一郎君） 日程第19、議案第53号 工事請負契約の変更について（柵塩RE100産業団地造成工事）を議題とします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本幸一郎君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本幸一郎君） 討論なしと認めます。

討論を終わります。

これより議案第53号 工事請負契約の変更について（柵塩RE100産業団地造成工事）を採決します。

採決は起立により行います。

本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。
〔起立全員〕

- 議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。
よって、議案第53号は原案のとおり可決されました。
-

◎議案第54号の質疑、討論、採決

- 議長（山本幸一郎君） 日程第20、議案第54号 浪江町道路線の廃止についてを議題とします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

- 議長（山本幸一郎君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

- 議長（山本幸一郎君） 討論なしと認めます。

討論を終わります。

これより議案第54号 浪江町道路線の廃止についてを採決します。

採決は起立により行います。

本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

- 議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。

よって、議案第54号は原案のとおり可決されました。

◎議案第55号の質疑、討論、採決

- 議長（山本幸一郎君） 日程第21、議案第55号 令和7年度浪江町一般会計補正予算（第1号）を議題とします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

- 議長（山本幸一郎君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

- 議長（山本幸一郎君） 討論なしと認めます。

討論を終わります。

これより議案第55号 令和7年度浪江町一般会計補正予算（第1号）を採決します。

採決は起立により行います。

本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

[起立全員]

- 議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。
よって、議案第55号は原案のとおり可決されました。
-

◎議案第56号の質疑、討論、採決

- 議長（山本幸一郎君） 日程第22、議案第56号 令和7年度浪江町水道事業会計補正予算（第1号）を議題とします。
これより質疑を行います。質疑ありませんか。
[「なし」と呼ぶ者あり]
- 議長（山本幸一郎君） 質疑なしと認めます。
質疑を終わります。
これより討論を行います。討論ありませんか。
[「なし」と呼ぶ者あり]
- 議長（山本幸一郎君） 討論なしと認めます。
討論を終わります。
これより議案第56号 令和7年度浪江町水道事業会計補正予算（第1号）を採決します。
採決は起立により行います。
本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。
[起立全員]
- 議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。
よって、議案第56号は原案のとおり可決されました。
-

◎報告第1号の質疑

- 議長（山本幸一郎君） 日程第23、報告第1号 令和6年度浪江町一般会計継続費繰越計算書についてを議題とします。
これより質疑を行います。質疑ありませんか。
[「なし」と呼ぶ者あり]
- 議長（山本幸一郎君） 質疑なしと認めます。
質疑を終わります。
以上で報告第1号を終わります。
-

◎報告第2号の質疑

- 議長（山本幸一郎君） 日程第24、報告第2号 令和6年度浪江町一般会計繰越明許費繰越計算書についてを議題とします。
これより質疑を行います。質疑ありませんか。
[「なし」と呼ぶ者あり]
- 議長（山本幸一郎君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。
以上で報告第2号を終わります。

◎報告第3号の質疑

- 議長（山本幸一郎君） 日程第25、報告第3号 令和6年度浪江町水道事業会計継続費繰越計算書についてを議題とします。
これより質疑を行います。質疑ありませんか。
[「なし」と呼ぶ者あり]
- 議長（山本幸一郎君） 質疑なしと認めます。
質疑を終わります。
以上で報告第3号を終わります。
-

◎報告第4号の質疑

- 議長（山本幸一郎君） 日程第26、報告第4号 令和6年度浪江町水道事業会計予算繰越計算書についてを議題とします。
これより質疑を行います。質疑ありませんか。
[「なし」と呼ぶ者あり]
- 議長（山本幸一郎君） 質疑なしと認めます。
質疑を終わります。
以上で報告第4号を終わります。
-

◎同意第2号の質疑、採決

- 議長（山本幸一郎君） 日程第27、同意第2号 教育委員会教育長の任命についてを議題とします。
これより質疑を行います。質疑ありませんか。
[「なし」と呼ぶ者あり]
- 議長（山本幸一郎君） 質疑なしと認めます。
質疑を終わります。
これより同意第2号 教育委員会教育長の任命についてを採決します。
採決は起立により行います。
本案を原案のとおり同意することに賛成の諸君の起立を求めます。
[起立全員]
- 議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。
よって、同意第2号は原案のとおり同意することに決定しました。
-

◎同意第3号の質疑、採決

- 議長（山本幸一郎君） 日程第28、同意第3号 苅野財産区管理会委

員の選任についてを議題とします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本幸一郎君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより同意第3号 苅野財産区管理会委員の選任についてを採決します。

採決は、個別に起立により行います。

まず、小澤晴久氏について、同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

○議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。

よって、小澤晴久氏については、同意することに決定しました。

次に、矢口貞行氏について、同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

○議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。

よって、矢口貞行氏については、同意することに決定しました。

次に、熊本嘉博氏について、同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

○議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。

よって、熊本嘉博氏については、同意することに決定しました。

次に、佐藤良樹氏について、同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

○議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。

よって、佐藤良樹氏については、同意することに決定しました。

次に、末永章氏について、同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

○議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。

よって、末永章氏については、同意することに決定しました。

次に、阿部壯司氏について、同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

○議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。

よって、阿部壯司氏については、同意することに決定しました。

次に、丹伊田拓氏について、同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

[起立全員]

○議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。

よって、丹伊田拓氏については、同意することに決定しました。
以上、同意第3号については原案のとおり同意することに決定しました。

◎同意第4号の質疑、採決

○議長（山本幸一郎君） 日程第29、同意第4号 津島財産区管理委員会委員の選任についてを議題とします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

○議長（山本幸一郎君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより同意第4号 津島財産区管理委員会委員の選任についてを採決します。

採決は、個別に起立により行います。

まず、佐々木保彦氏について、同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

[起立全員]

○議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。

よって、佐々木保彦氏については、同意することに決定しました。
次に、嶋原眞三氏について、同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

[起立全員]

○議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。

よって、嶋原眞三氏については、同意することに決定しました。
次に、石崎茂氏について、同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

[起立全員]

○議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。

よって、石崎茂氏については、同意することに決定しました。
次に、今野勝彦氏について、同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

[起立全員]

○議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。

よって、今野勝彦氏については、同意することに決定しました。

次に、菅野一利氏について、同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

[起立全員]

○議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。

よって、菅野一利氏については、同意することに決定しました。

次に、佐野富寿雄氏について、同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

[起立全員]

○議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。

よって、佐野富寿雄氏については、同意することに決定しました。

次に、関場健治氏について、同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

[起立全員]

○議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。

よって、関場健治氏については、同意することに決定しました。

以上、同意第4号については原案のとおり同意することに決定しました。

◎同意第5号の質疑、採決

○議長（山本幸一郎君） 日程第30、同意第5号 浪江町固定資産評価審査委員会委員の選任についてを議題とします。

これより質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本幸一郎君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより同意第5号 浪江町固定資産評価審査委員会委員の選任についてを採決します。

採決は、個別に起立により行います。

まず、吉田公明氏について、同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

[起立全員]

○議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。

よって、吉田公明氏については、同意することに決定しました。

次に、吉田俊哉氏について、同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

[起立全員]

○議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。

よって、吉田俊哉氏については、同意することに決定しました。

次に、清水佳宗氏について、同意することに賛成の諸君の起立を求めます。

[起立全員]

○議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。

よって、清水佳宗氏については、同意することに決定しました。

以上、同意第5号については原案のとおり同意することに決定しました。

◎浪江町選挙管理委員会委員及び補充員の選挙について

○議長（山本幸一郎君） 日程第31、浪江町選挙管理委員会委員及び補充員の選挙についてを行います。

お諮りします。選挙の方法については、地方自治法第118条第2項の規定により、指名推選にしたいと思えます。

これにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（山本幸一郎君） 異議なしと認めます。

よって、選挙の方法は指名推選で行うことに決定しました。

お諮りします。指名の方法については議長が指名することにしたと思えます。

これにご異議ございませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（山本幸一郎君） 異議なしと認めます。

よって、議長が指名することに決定しました。

○議長（山本幸一郎君） 資料をタブレット端末へ格納するため、暫時休議します。

(午前 9時40分)

○議長（山本幸一郎君） 再開します。

(午前 9時41分)

○議長（山本幸一郎君） ただいま通知した資料のとおり、選挙管理委員会委員に、根本伸治氏、佐山弘明氏、桑原泉氏、堀井宏宣氏、以上の方を指名します。

お諮りします。ただいま指名した方を、選挙管理委員会委員の当選人と定めることにご異議ありませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

○議長（山本幸一郎君） 異議なしと認めます。

よって、ただいま指名した根本伸治氏、佐山弘明氏、桑原泉氏、堀井宏宣氏、以上の方が選挙管理委員会委員に当選されました。

次に、選挙管理委員会補充員には次の方を指名します。

第1順位、鎌田光男氏、第2順位、松本伸一氏、第3順位、氏家勝則氏、第4順位、岡洋子氏、以上の方を指名します。

お諮りします。ただいま指名した方を、選挙管理委員会補充員の当選人と定めることにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本幸一郎君） 異議なしと認めます。

よって、ただいま指名した第1順位、鎌田光男氏、第2順位、松本伸一氏、第3順位、氏家勝則氏、第4順位、岡洋子氏、以上の方が順序のとおり選挙管理委員会補充員に当選されました。

◎請願・陳情審査報告

○議長（山本幸一郎君） 日程第32、請願・陳情審査報告を議題とします。

◎陳情第1号の委員長報告、質疑、討論、採決

○議長（山本幸一郎君） 陳情第1号 「国の『被災児童生徒就学支援等事業』の継続と、被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書」の提出を求める陳情書を議題とします。

付託中の委員会から、タブレット端末の格納のとおり、審査報告書が提出されております。

事務局長より朗読させます。

事務局長。

〔事務局長朗読〕

○議長（山本幸一郎君） ただいま朗読のとおりです。

所管委員長から趣旨説明をお願いします。

文教・厚生常任委員会委員長、紺野則夫君、登壇をお願いします。
7番、紺野則夫君。

〔文教・厚生常任委員会委員長 紺野則夫君登壇〕

○文教・厚生常任委員会委員長（紺野則夫君） それでは、陳情第1号「国の『被災児童生徒就学支援等事業』の継続と、被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書」の提出を求めることについての審査結果についてご説明を申し上げます。

東日本大震災で被災をし、経済的理由により、就学等が困難な子供を対象に、被災児童生徒就学支援事業が、全額国庫負担の単年度の交付金事業として行われております。

その事業内容としては、幼稚園児等の就園支援、小中学生に対する学用品等の援助や通学支援、高校生に対する奨学金支援、特別支援学校等に在籍する児童生徒への就学奨励、私立学校及び専修学校・各種学校の授業料免除などが実施されております。これらは学校で学ぶため、極めて有効な事業として機能していると考えております。

また、令和6年4月1日時点で、約3,000人の子供たちが県内外で避難生活を送っている現状にあります。経済的な支援を必要とする子供たちは非常に多く、事業に係る予算措置は単年度のため、事業が終了もしくは規模が縮小するとなれば、各自治体負担になることが危惧されるものであります。このことから、子供の就学・修学のためには、長期的な支援が必要であると当委員会では判断いたしました。

したがいまして、本陳情については、その趣旨が十分に理解できるものであり、事務局朗読のとおり採択すべきと決定したものであります。

議員各位のご賛同よろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（山本幸一郎君） 以上で趣旨説明が終わりました。

これより委員長報告に対する質疑を行います。質疑ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本幸一郎君） 質疑なしと認めます。

質疑を終わります。

これより討論を行います。討論ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本幸一郎君） 討論なしと認めます。

討論を終わります。

これより陳情第1号 「国の『被災児童生徒就学支援等事業』の継続と、被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書」の提出を求める陳情書を採決します。

採決は起立により行います。

この陳情に対する委員長の報告は採択です。この陳情について委員長報告のとおり採択することに賛成の諸君の起立を求めます。

〔起立全員〕

○議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。

よって、陳情第1号については採択することに決定しました。

◎発議第1号の上程、説明、質疑、討論、採決

- 議長（山本幸一郎君） 日程第33、発議第1号 国の『被災児童生徒就学支援等事業』の継続と、被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書（案）を議題とします。
事務局長より朗読させます。
事務局長。
〔事務局長朗読〕
- 議長（山本幸一郎君） 提出者から提案理由の説明を求めます。
提出者の紺野則夫君、登壇でお願いします。
7番、紺野則夫君。
〔7番 紺野則夫君登壇〕
- 7番（紺野則夫君） 提案理由は事務局長朗読のとおりでございます。
議員各位のご賛同よろしくお願い申し上げます。
以上でございます。
- 議長（山本幸一郎君） 以上で提案理由の説明が終わりました。
これより質疑を行います。質疑ありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
- 議長（山本幸一郎君） 質疑なしと認めます。
質疑を終わります。
これより討論を行います。討論ありませんか。
〔「なし」と呼ぶ者あり〕
- 議長（山本幸一郎君） 討論なしと認めます。
討論を終わります。
これより発議第1号 国の『被災児童生徒就学支援等事業』の継続と、被災児童生徒の十分な就学支援を求める意見書（案）を採決します。
採決は起立により行います。
本案を原案のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。
〔起立全員〕
- 議長（山本幸一郎君） 起立全員であります。
よって、発議第1号は原案のとおり可決されました。

◎委員会の閉会中の継続審査又は調査の申し出について

- 議長（山本幸一郎君） 日程第34、委員会の閉会中の継続審査又は調査の申し出についてを議題とします。
各常任委員会委員長及び議会運営委員長並びに議会報編集特別委員会委員長から、タブレット端末に格納した申出書のとおり、閉会中の継続審査または調査の申出があります。
お諮りします。各委員長から申出のとおり、閉会中の継続審査ま

たは調査に付することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（山本幸一郎君） 異議なしと認めます。

よって、各委員長から申出のとおり、閉会中の継続審査または調査に付することに決定しました。

以上で、今期定例会に付された事件は全て終了しました。

◎町長挨拶

○議長（山本幸一郎君） 次に、町長から発言を求められておりますので、これを許可します。

町長。

○町長（吉田栄光君） 今期定例会が閉会されるに当たり、一言ご挨拶を申し上げます。

議員各位におかれましては、去る6月10日の本定例会開会以来、熱心にご審議をいただき、提案いたしました全ての議案についてご賛同をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

このたび上程させていただいた議案は、全て重要ではありますが、議案第36号の請戸川さけ放流施設の設置及び管理に関する条例の制定については、先に進めている施設工事とあわせ、浪江町の内水面漁業の再開に向けた第一歩となり、放流施設の適切な管理を通じて、伝統文化を後世に継承し、資源の持続的な活用を図ることで、サケを通じた交流人口の拡大、さらには観光業及び農業などを連携させることにより地域の活性化につなげてまいります。

加えて申し上げます。

サケについては、海水温度の変化により厳しい環境ではありますが、県・国と内水面事業として、新たな魚種についても、今後、模索・検討が必要と感じているところであります。

また、議案第55号の一般会計補正予算（第1号）では、権現堂地区公営住宅整備工事を計上させていただきました。

いよいよ、浪江駅周辺グランドデザイン基本計画の公営住宅整備事業が本格的に動き出します。中心市街地の活性化と住環境の向上によって、住民の帰還及び移住促進を図るとともに、地域経済とコミュニティの活性化につなげるため、当事業を着実に進めてまいります。

続いて、このたびの一般質問では、町の介護・福祉に関することと教育や子育て環境へのご配慮、町内のコミュニティや生活環境に関すること、新たな財源の確保に関すること、そのほか行政運営全般につきまして、提案を含めご質問をいただきました。

いずれのご質問も、今後のまちづくりにおける重要課題であり、町として真摯に受け止め、今後の町政執行に活かしてまいりたいと考えております。

町政執行に当たっては、まだまだ課題山積の状況にございますが、議員各位のご理解、ご協力の下、しっかりと住民福祉の向上と復興の達成を目指し、全力を尽くしてまいります。

また、笠井教育長におかれましては、令和元年6月に教育長に就任をいただいてから、6年の長きにわたりご奉職をいただきました。

特にふるさと創造学では、歴史や文化のみならず、地域振興や次世代産業の視点も取り入れた特色ある学習活動を進められ、子供たちの未来を切り拓く力と、ふるさとの誇りを育ていただきました。

さらには、教職員の加配、指導主事の配置、特別支援学級の配置等も進めていただき、教育の復興が一層加速をいたしました。

これまで、本町教育の発展のためにご尽力を賜りましたことに、心より厚く御礼を申し上げます。引き続き、教育振興、町の復興にご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、梅雨を迎え、体調管理が難しい季節になります。議員各位におかれましては、健康にご留意いただき、ご活躍いただきますようご祈念申し上げ、閉会の挨拶といたします。

◎閉会の宣告

- 議長（山本幸一郎君） 以上をもって、本日の会議を閉じます。
これをもって令和7年浪江町議会6月定例会を閉会します。
ご苦労さまでした。

（午前10時03分）

上記会議の顛末を記載し、相違のないことを証するためここに署名する。

令和 年 月 日

浪江町議会議長 山 本 幸 一 郎

署 名 議 員 鈴 木 幸 治

署 名 議 員 紺 野 豊